

7 遺構外出土遺物

(1) 出土状況

遺構外出土遺物は、台地部に存在する遺物包含層である第2層（ローム漸移層）から出土したものを主体とし、表土、近世遺構の遺構内出土のものを含めて扱っている。包含層出土の土器は24,000点余り、石器は製品・剥片を含め17,000点余りを数える。

(2) 土器の分類

型式別さらには紋様要素・紋様構成を主眼として、以下のように分類を行った。

第I群 草創期後半～早期の土器

第1類 燃糸紋土器

- a種 井草式
- b種 稲荷台式
- c種 稲荷原式
- d種 東山式

第2類 押型紋土器

- a種 山形押型紋を施すもの
- b種 楕円押型紋を施すもの

第3類 沈線紋土器

- a種 田戸下層式
- b種 田戸上層式

第4類 条痕紋土器

- a種 網ヶ島台式
- b種 表裏条痕紋土器

第II群 前期～中期初頭の土器

第1類 花積下層式

第2類 諸磯b式

- a種 浮線を施すもの
- b種 集合沈線を施すもの

第3類 諸磯b式～c式の過渡的なもの

第4類 諸磯c式

- a種 大波状突起をもつもの
- b種 口縁端部に刻みを付すもの
- c種 口縁部付近のみ貼付紋を施すもの

- d種 貼付紋を多用するもの
- e種 全面に地紋沈線を施すもの
- f種 縦位区画やモチーフが崩れたようなもの
- g種 地紋に柔線を施すもの
- h種 縄紋地に貼付紋を施すもの
- i種 無紋地に貼付紋を施すもの
- j種 浮線や結節沈線を施すもの

第5類 下鳥式

- a種 棒状貼付紋を施すもの
 - a1種 結節浮線を施すもの
 - a2種 ヘラ切り浮線を施すもの
- b種 浮線により幾何学モチーフを描くもの
 - b1種 結節浮線を施すもの
 - b2種 ヘラ切り浮線を施すもの
- c種 結節沈線によりモチーフを描くもの
- d種 沈線によりモチーフを描くもの

第6類 前期末葉の土器

- a種 集合沈線を主紋様とし、印刻を施さないもの
- b種 集合沈線を主紋様とし、印刻を施すもの
- c種 押圧隆帯を施すもの
- d種 結節浮線と沈線を併用するもの
- e種 結節凹線を施すもの
- f種 縄紋地・無紋地に浮線を施すもの

第7類 浮島・興津系土器

- a種 貝殻紋を施すもの
- b種 沈線を施すもの
- c種 刺突を施すもの
- d種 縄紋原体疳痕を施すもの
- e種 折り返し状の肥厚口縁となるもの

第8類 大木系土器

- a種 大木5式
- b種 大木6式

第9類 前期末葉から中期初頭の土器

第10類 浅鉢

第11類 縄紋施紋土器

第12類 無紋土器

第III群 中期前半～後期の土器

- 第1類 勝坂式
- 第2類 阿玉台式
- 第3類 焼町土器
- 第4類 加曾利E式
- 第5類 称名寺式
- 第6類 堀之内式
- 第7類 加曾利B式
- 第8類 高井東式

(3) 土器の概要と分布

包含層出土土器の時期別の内訳は、草創期後半61点、早期36点、前期初頭59点、前期後半～中期初頭22,093点、中期前半17点、中期後半～後期前半1,109点である。前期後半～中期初頭の時期が突出しているが、本遺跡での集落展開の時期と関係するといえよう。

草創期後半燃糸紋系は61点出土しており、さらに細別型式で見ると、井草式と思われる燃糸紋系でも古い段階が50点、稲荷台式5点、稲荷原式3点、東山式3点となる。分布はⅡ区を主体とし、Ⅲ、Ⅳ区は散発的であるが、なかでも井草式はⅡ区に限られた分布を示す。その一方で、稲荷台式は1点がⅡ区で4点がⅢ区、稲荷原式は1点がⅢ区で2点がⅣ区、東山式はⅡ区のみといった具合に、型式毎に分布の状況が異なることが看取される。

早期は押型紋系8点、沈線紋系6点、条痕紋系22点が出土しているが、すべてⅡ区からの出土である。

前期初頭花積下層式は59点が出土しており、Ⅱ区を主体としながらもⅢ区にも広がりを見せる。

本遺跡で確認されたもっとも古い段階は草創期後半燃糸紋系であり、早期、前期初頭と少数ながらもⅡ区を中心とした分布が見られる。この時期に伴う遺構は検出されていないが、Ⅱ区を舞台として何らかの行動が展開されていたことを物語るという。

前期後半になると、分布の中心はⅢ区へと変化する。出土総数は、諸磯b式(浮線系)74点、諸磯b式(沈線系)1,088点、諸磯c式7,863点、諸磯b式かc式か判断しかねるもの1,716点、下島式376点で

ある。諸磯b式の新しい段階からⅢ区を舞台に人々の生活が展開されはじめ、諸磯c式期にピークを迎えているといえる。遺物分布図からもⅢ区の中心部(諸磯b式浮線段階)から、より外側(諸磯c式期)へと広がっていくことが理解できよう。下島式は諸磯c式の分布とはほぼ一致するが、数量において客体的といえるであろう。

前期末葉期は、第6類a～e種と第6類f種を分離して分布状況をまとめた。分布図における前期末葉とは第6類a～e種であり、総数1,120点が出土している。調査区全域に分布が見られるが、Ⅱ区に分布の中心が移っているといえる。Ⅱ-1号住居との関連が考えられよう。縄紋地・無紋地浮線(第6類f種)となると、その傾向はさらに強くなる。縄紋地・無紋地浮線は365点出土しているが、Ⅲ区での出土はほとんど見られなくなり、Ⅱ区に集中することが看取される。

浮島式、興津式については、小破片では両者の判別が困難であるため、浮島・興津系として一括した。ただし紋様要素による分類は、ある程度は可能であったため、貝殻紋、沈線紋、刺突紋、原体疔痕の4種の分類を試みた。浮島式の三角紋は、図版では刺突紋に含めて掲載したが、興津式とは明確に区別できるため、分布図においては貝殻紋と合わせて数量調査を行った。浮島式の三角紋は15点のみの出土であるが、2点がⅣ区出土である以外は、すべてⅢ区から出土している。貝殻紋は554点、沈線紋・刺突紋は517点、原体疔痕は107点であり、貝殻紋はⅢ区を中心としてⅣ区、Ⅱ区南東部に広がり、沈線紋・刺突紋は貝殻紋の分布域から、さらにⅡ区北部に広がりを見せる。原体疔痕は貝殻紋、沈線紋・刺突紋とは分布が異なる。Ⅱ区を中心とした分布となり、前期末葉や縄紋地・無紋地浮線の分布に近い傾向が看取される。

大木系土器は、大木5式が59点、大木6式が83点出土している。両者ともⅡ区からⅣ区にかけて、散発的に分布するが、6式はⅡ区北部にまとまりがあるようにも見える。

II 縄紋時代の調査

前期末葉から中期初頭の土器は、いわゆる「松原土器」～五領ヶ台式の段階に比定しうる土器で総数は356点である。分布はⅡ区を主体としており、前期末葉や縄紋地・無紋地浮線の分布域と一致する。

浅鉢は453点出土した。無紋のため型式認定はできないが、その多くは諸磯c式段階と考えてよいものと思われる。分布についてもⅢ区を中心とした広がりを見せ、諸磯c式の分布域と一致する。

縄紋施紋土器は総数4,363点出土している。内訳は、結束羽状縄紋が351点、結節縄紋が371点、縦位縄紋が80点で、それ以外の無節や単節、複節などが3,561点である。結束羽状縄紋、結節縄紋はⅡ区を主体とした分布を示し、縦位縄紋に至ってはⅡ区のみ出土となる。

中期前半は17点のみの出土であり、全域に散発的に分布する。

中期後半～後期前半は、1,107点出土している。内訳は、加曾利E式が784点、称名寺式が226点、堀之内式が99点であり、加曾利E式がもっとも多い。分布はⅡ区を主体とし、Ⅲ区、Ⅳ区へといくに従って希薄になる傾向にある。

(4) 石器の概要と分布

石器は、包含層中から草創期初頭ととらえた石器群10点、草創期後半～後期前半のものが17,249点出土した。

草創期石器群の内訳は、尖頭器5点、有茎石鏃2点、打製石斧3点であり、Ⅳ区を中心にⅢ区、Ⅵ区からも出土している。石材別に見ると、尖頭器は黒曜石2点、黒色安山岩2点、黒色頁岩1点であり、有茎石鏃はチャートと黒色頁岩が1点ずつ、打製石斧は黒色頁岩1点、黒色安山岩1点、ホルンフェルス1点となる。いずれも包含層中から出土しているが、草創期前半の土器は伴出していない。

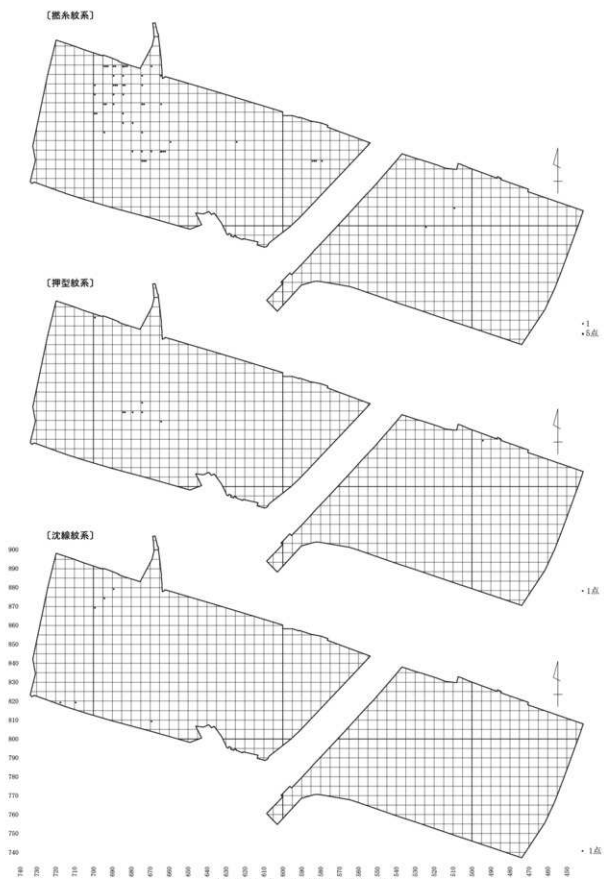
草創期後半～後期前半の石器の内訳は、尖頭器2点、石鏃447点、楔形石器313点、石鏃66点、石匙11点、スクレイパー518点、礫器3点、スタンプ形石器8点、打製石斧315点、磨製石斧2点、両面調整石器

4点、二次加工ある剥片259点、石核432点、原石41点、砥石22点、磨石・敲石・凹石類187点、石皿24点、台石・多孔石34点、剥片14,558点、垂飾2点、耳飾1点である。出土土器全体に占める前期後半～中期初頭土器の割合が90%を超えることから、出土石器の多くについても、前期後半～中期初頭に比定することができるであろう。

石材別に見ると、石鏃は、黒曜石194点(43%)で最も多く、チャート166点(37%)、黒色頁岩69点(15%)、黒色安山岩11点(2%)、珪質頁岩5点(1%)の順となる。楔形石器は黒曜石145点(46%)、チャート150点(48%)で90%以上を占める。石鏃は、黒曜石30点(45%)、黒色頁岩18点(27%)、チャート13点(19%)となる。スクレイパーは、黒色頁岩が425点(82%)と突出し、黒色安山岩41点(8%)、ホルンフェルス24点(5%)と続く。打製石斧は、黒色頁岩が237点(75%)とスクレイパーと同じく突出し、ホルンフェルス27点(8%)、黒色安山岩12点(4%)となる。

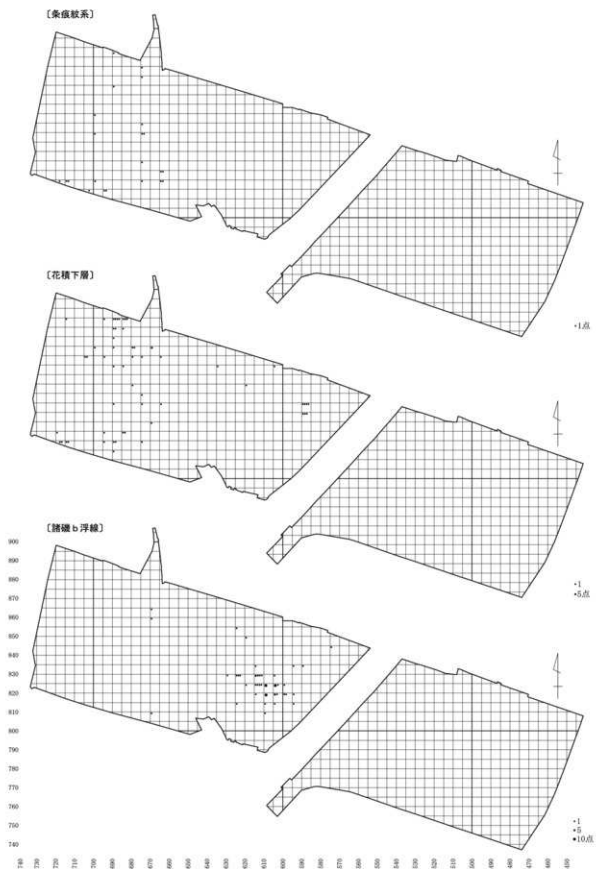
石鏃や石鏃など小形の石器は、黒曜石、チャートを主要な石材として利用する一方、スクレイパー、打製石斧は黒色頁岩を多く利用することが顕著に表れている。また剥片は、黒色頁岩が6,118点(42%)と最も多く、黒曜石4,961点(34%)、チャート1,653点(11%)、黒色安山岩1,452点(10%)と続く。ただし包含層調査であるため、調査の性格上、黒曜石やチャートの微細な剥片類は取り上げられていないであろうことを考慮すれば、黒曜石、チャートの数量はさらに多かったと考えて差し支えないであろう。石核は、黒曜石170点(39%)、チャート96点(22%)、黒色頁岩75点(17%)、黒色安山岩70点(16%)となる。

石器の分布については、スタンプ形石器、装飾品を除き、調査区全域から出土しており、集落の展開と関係しているといえよう。スタンプ形石器はすべてⅡ区及びⅥ区からの出土であり、草創期後半然糸紋土器の分布域と一致する。

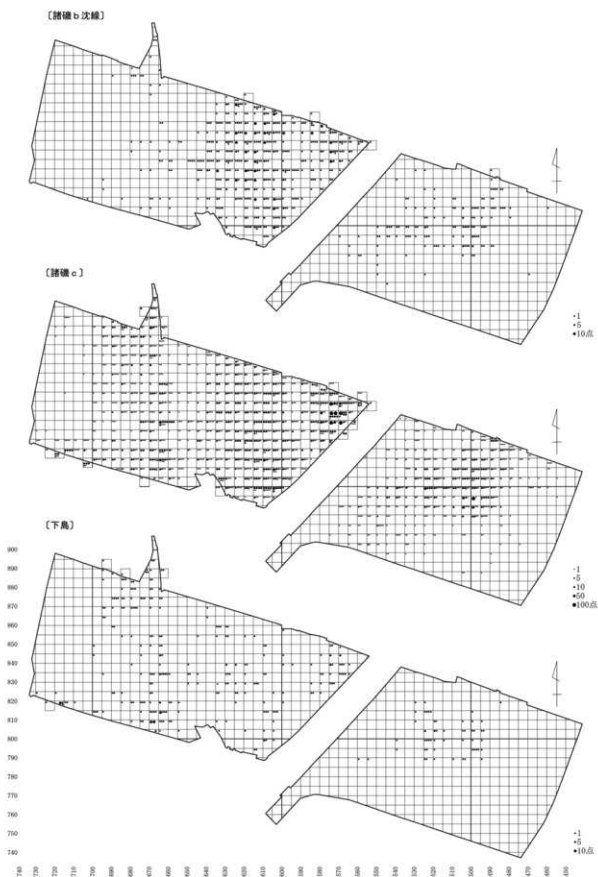


第214图 包含層遺物分布图(1)

II 縄紋時代の調査

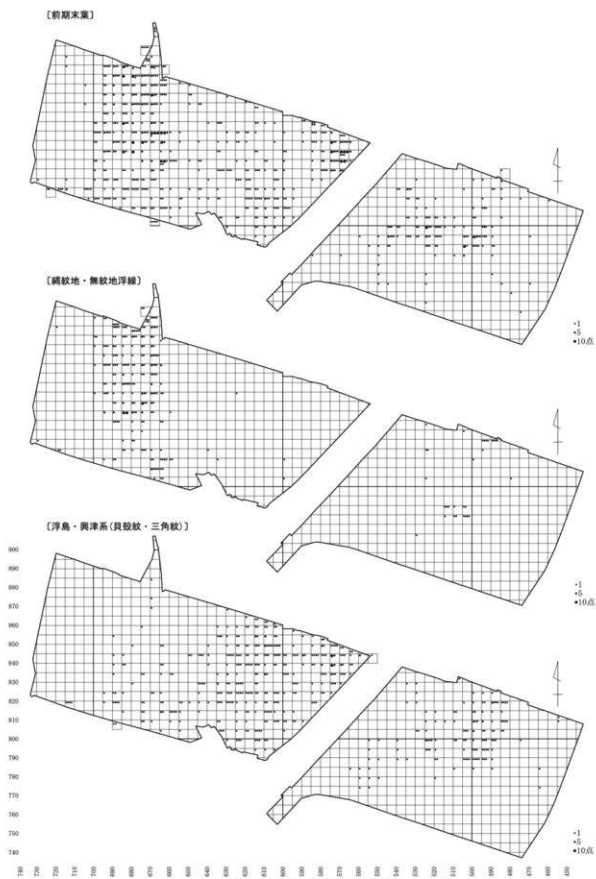


第215図 包含層遺物分布図(2)

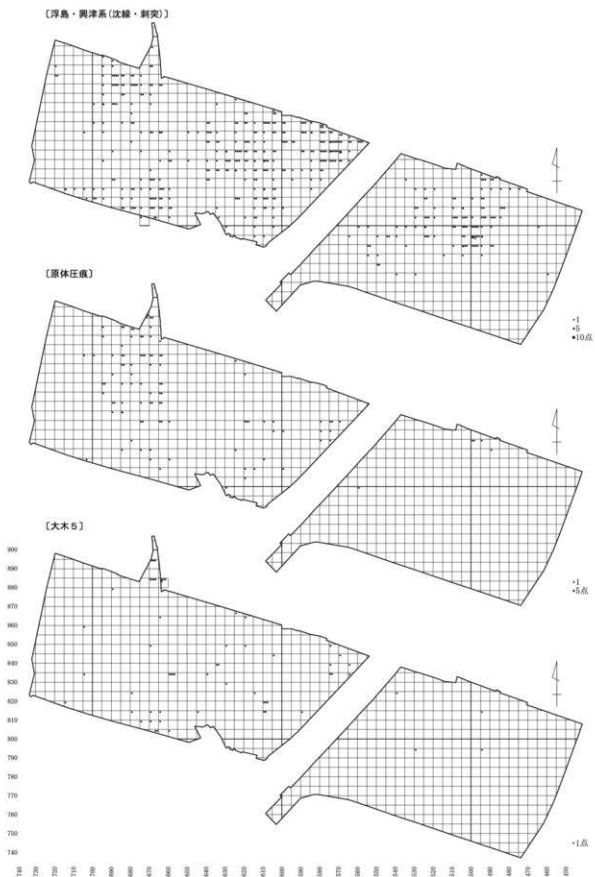


第216図 包含層遺物分布図(3)

II 縄紋時代の調査

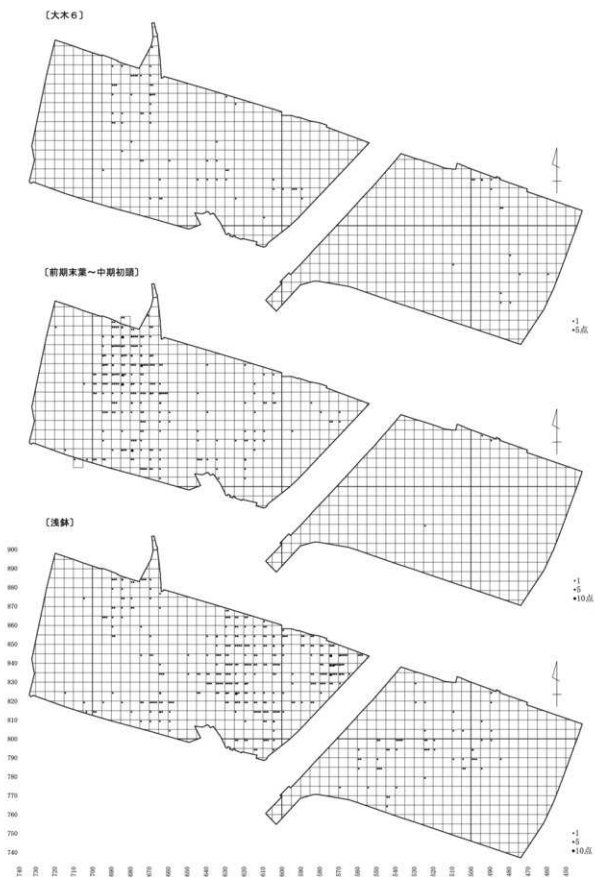


第217図 包含層遺物分布図(4)

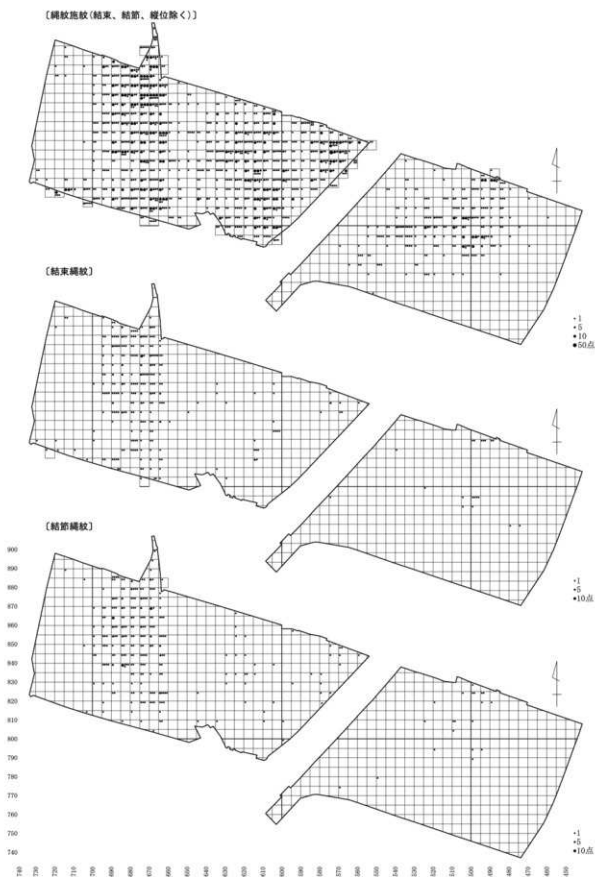


第218図 包含層遺物分布図(5)

II 縄紋時代の調査

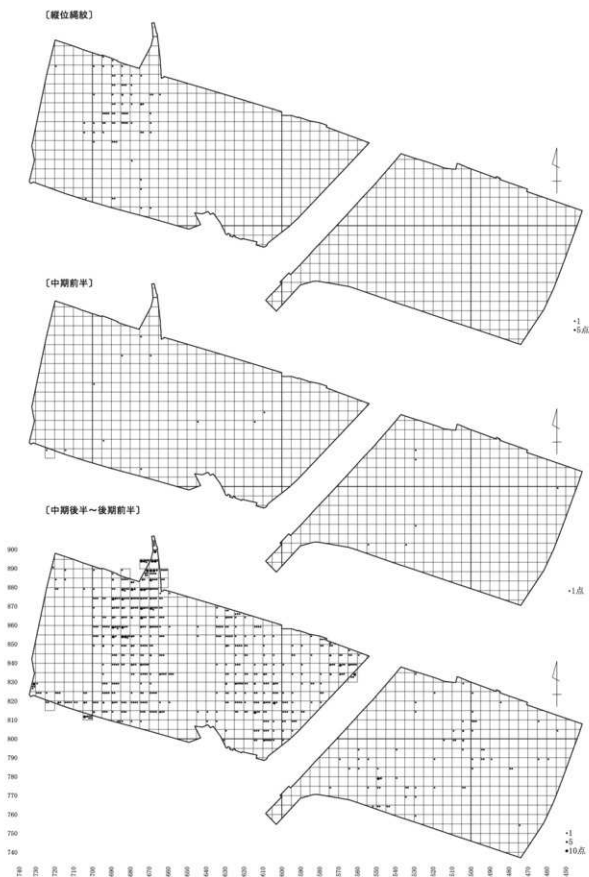


第219図 包含層遺物分布図(6)

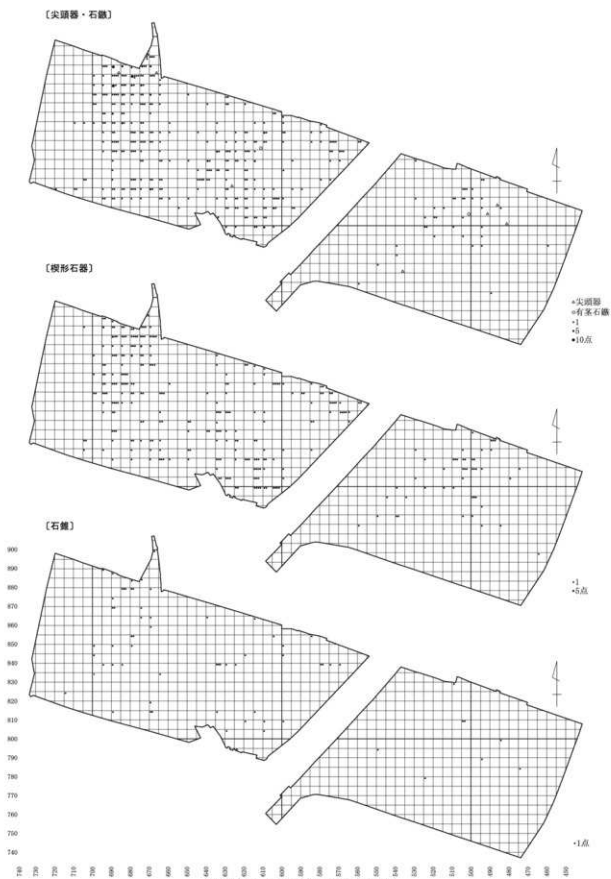


第220図 包含層遺物分布図(7)

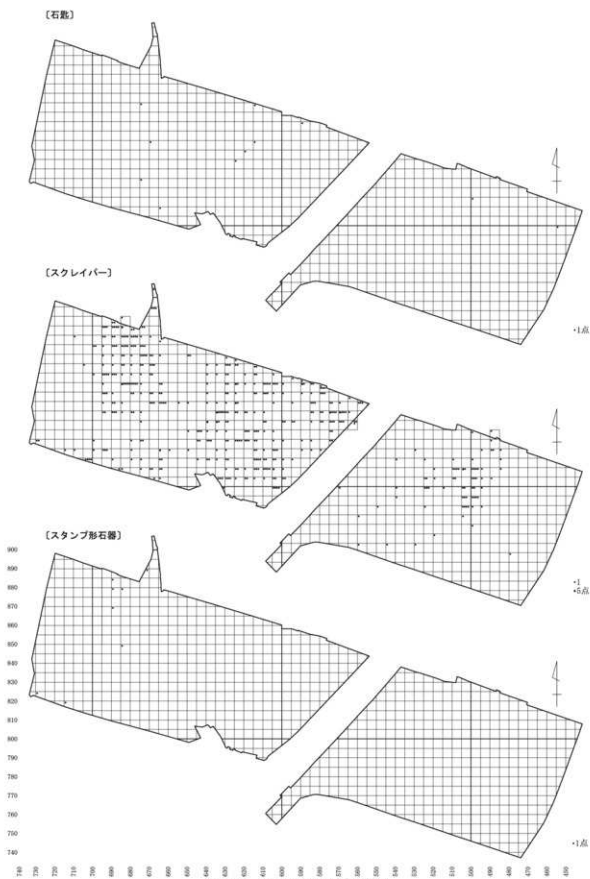
II 縄文時代の調査



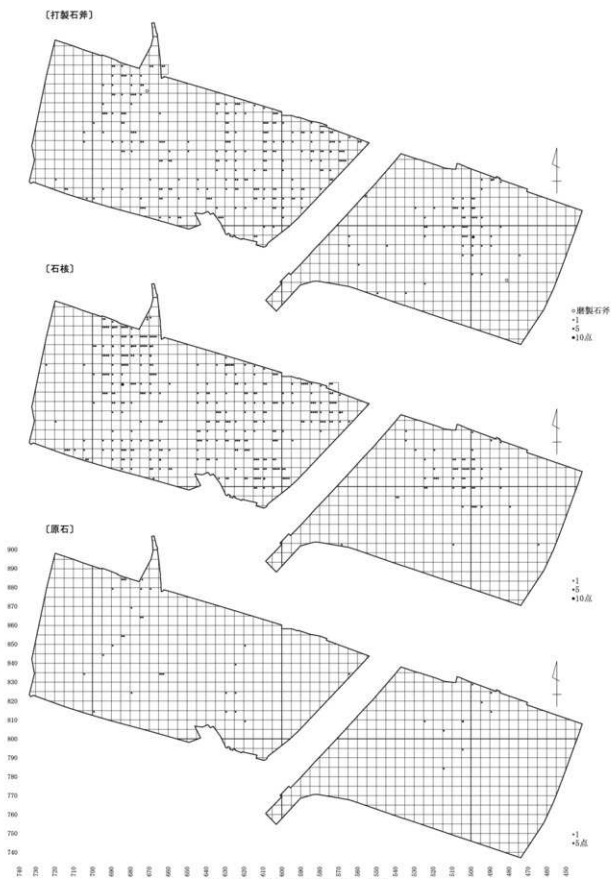
第221図 包含層遺物分布図 (8)



II 縄紋時代の調査

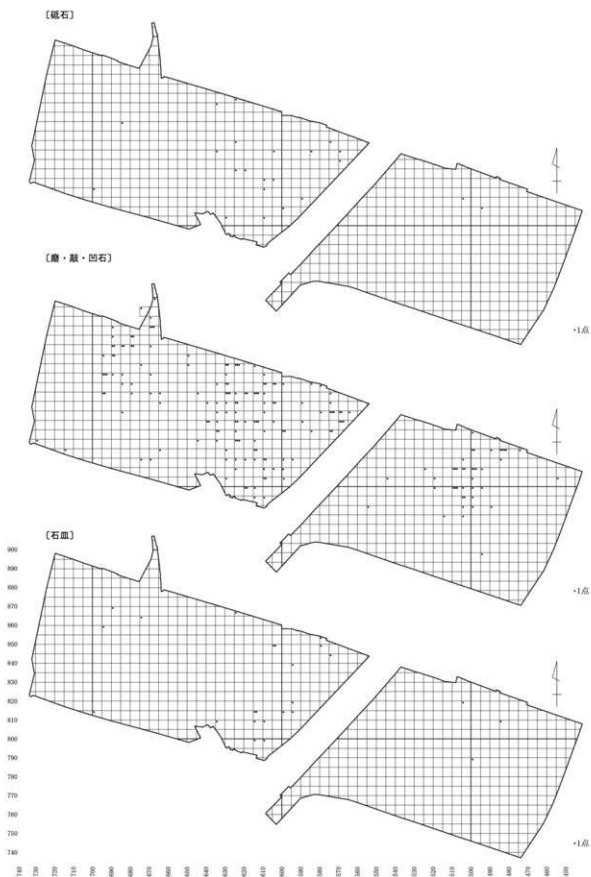


第223図 包含層遺物分布図 (10)

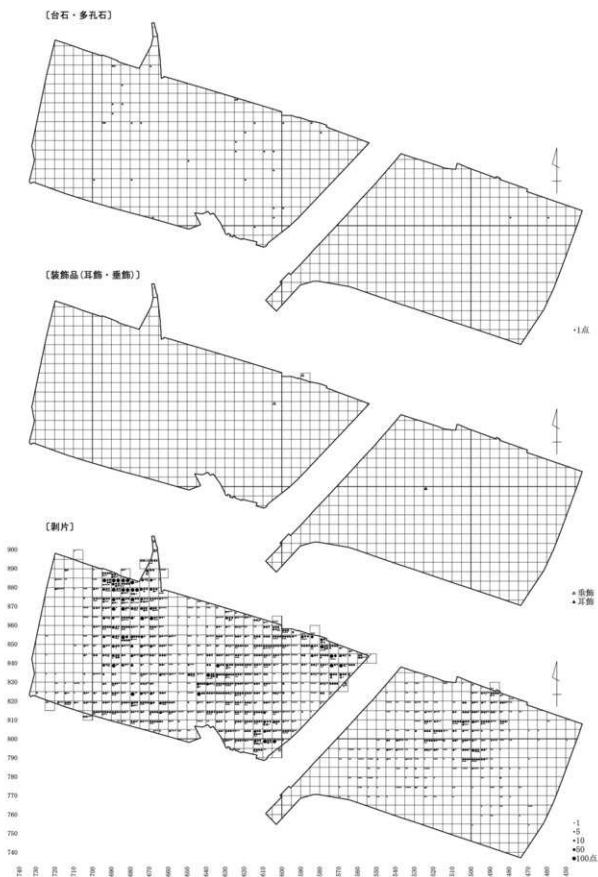


第224图 包含層遺物分布图 (11)

II 縄紋時代の調査



第225図 包含層遺物分布図(12)



第226図 包含層遺物分布図 (13)

II 縄紋時代の調査

(5) 草創期後半～早期の土器

第1群 草創期後半～早期の土器 (第227図～第229図)

本群土器の出土は少量であるため、区ごとに分けず、調査区全体から出土したものを一括してまとめた。だが、出土位置はほとんどがⅡ区であり、限られた分布を示す。

第1類 摺糸紋土器 (第227図1～第228図31)

a種 井草式 (第227図1～21)

1は口唇が肥厚する器形を呈す。口唇部、肥厚部、器面全面にR L縄紋を施紋する。2、3はR L縄紋を斜位施紋する。井草I式に比定できよう。4はやや内削ぎ状の口唇部形状をもち、口縁が緩く外反する器形を呈す。口縁部に1条の絡糸体疋痕をめぐらせ、器面には絡糸体条痕を施す。口唇部にも絡糸体条痕を施すが一部転がしており、燃糸紋Rが確認できる。5は丸頸状口唇で、緩く外反する器形を呈す。摺糸紋Rを縦位施紋する。口唇部にも施紋する。6も5と同様の形態であるが、口唇部には施紋されない。摺糸紋Rを縦位、斜位に施紋する。7は丸頸状口唇で、口縁が緩く外反する器形を呈す。絡糸体条痕を斜位に施し、口縁部の一部に細沈線を1条横位に施す。8～21は胴部破片で、すべて燃糸紋Rを縦位施紋する。

b種 桶荷台式 (第228図22～25)

22、23は同一個体。やや条間隔の粗い摺糸紋Rを縦位施紋する。24、25は、摺糸紋Lを縦位施紋する。やはりa種に比べて条間隔が粗い施紋となる。

c種 桶荷原式 (第228図26～28)

26は口縁部に凹みをめぐらせて口縁部無紋帯を形成し、摺糸紋Rをまばらに施紋する。27、28は粗大な摺糸紋Rをまばらに施紋する。

d種 東山式 (第228図29～31)

29、30は口縁部に1条の沈線をめぐらす。31は口縁部に凹みをめぐらせて段を作出し、口縁が短く外反する。

第2類 押型紋土器 (第228図32～40)

a種 山形押型紋を施すもの (第228図32～35)

32は山形押型紋を横位施紋する。口唇部にも同様に施紋する。33～35は山形押型紋を縦位帯状施紋する。横式に比定できよう。

b種 楕円押型紋を施すもの (第228図36～40)

36～39は同一個体と思われる。微小な楕円押型紋を施紋する。36の破片上端に細かな横位刺突列が見られる。施紋方向は判然としないが、まばらに施紋しているようである。40も36～39と同様な、微小な楕円押型紋を施紋する。横位まばらに施紋しているように見えるが、判然としない。

第3類 沈線紋土器 (第228図41～46)

a種 田戸下層式 (第228図41～44)

41は横位、斜位に沈線を施す。42、44は横位に沈線を施す。43は横位に沈線を施し、半載竹管による刺突を施す。

b種 田戸上層式 (第228図45、46)

45、46は同一個体。横位に沈線を施し、沈線間に貝殻腹縁紋を挿入する。46の破片上端に貼瘤あるいは隆線のような隆起帯が確認できる。胎土に微量ではあるが繊維を含む。

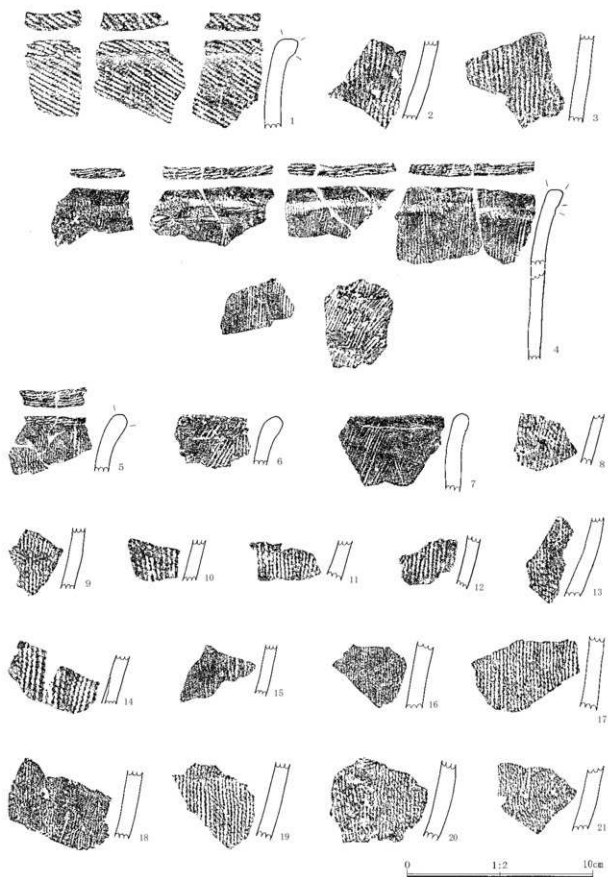
第4類 条痕紋土器 (第228図47～第229図53)

a種 鶺鴒台式 (第228図47～第229図50)

47は内削ぎ状の口唇部形状を呈す。沈線により三角形に区画し、区画内に半載竹管外皮による刺突を充填施紋する。48は波状口縁で、波底部が内湾する器形を呈す。沈線により摺紋を描き、交点に円形刺突、区画内に太沈線を充填施紋する。口縁外面に刻みを付す。49も48と同様の紋様構成となる。50は区画紋としての横位隆線をめぐらす。

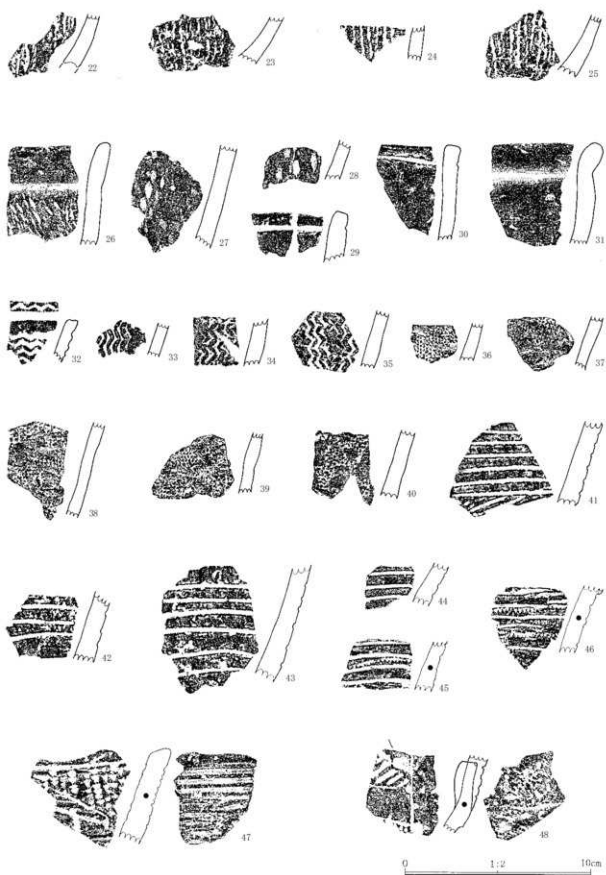
b種 表裏条痕紋土器 (第229図51～53)

51～53は内外面に縦位や斜位など、不規則に条痕を施す。a種に伴うものであろう。

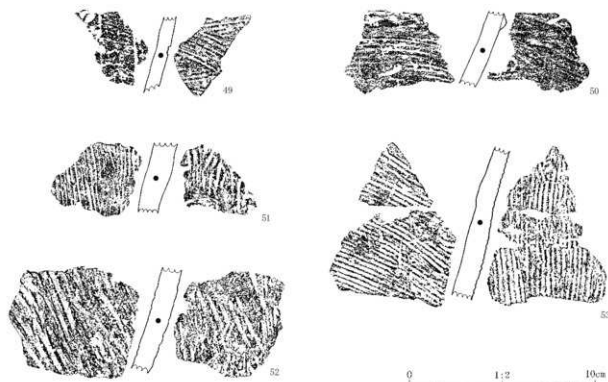


第227図 遺構外出土草創期後半～早期土器(1)

II 縄紋時代の調査



第228図 遺構外出土草創期後半～早期土器(2)



第229図 遺構外出土草創期後半～早期土器(3)

(6) II区出土土器

第II群 前期～中期初頭の土器

第1類 花積下層式(第232図6～15)

6は小突起をもつ口縁部破片で、波頂部から隆線を垂下させる。7～15は胴部破片。15は底部に近い部位と思われ、やや内湾する。すべてに横維を含み、0段多条の縄紋を施紋する。

第2類 諸磯b式(第232図16～24)

a種 浮線を施すもの(第232図16)

16はRL縄紋を地紋とし、斜位に刻みを付した浮線を3条1単位として横位にめぐらす。

b種 集合沈線を施すもの(第232図17～24)

17は内折する口縁部形状を呈す。横位集合沈線を施す。18～22は胴部破片で、集合沈線による横帯構成となる。21は横位集合沈線間に斜位の集合沈線を充墳施紋する。22は集合沈線ではなく、平行沈線を施す。23は頸部の屈曲する部位で、横位集合沈線間

に縦位、X字状の集合沈線を充墳施紋する。24は底部破片である。RL縄紋を地紋とし、横位集合沈線を帯状施紋する。

第3類 諸磯b式～c式の過渡的なもの(第232図25)

25は緩く内折する器形を呈し、集合沈線を横位に施す。小波状口縁になるようだ。

第4類 諸磯c式(第230図1, 2, 第232図26～第234図78)

c種 口縁部付近のみ貼付紋を施すもの(第230図1, 第232図26～37)

1は口径31.3cm、現存器高34.5cmを測る。口縁下と底部付近に横位集合沈線を施して1帯の幅広の紋様帯を区画。紋様帯内に平行沈線による斜格子目紋を施す。縦位に垂下させた後、斜位に施している。全周に施紋するが、明確な縦の分帯は認められない。口縁部に貼付紋を貼付する。本種の典型的な紋様構成とはいえず、e種との関連も指摘できよう。26は

II 縄紋時代の調査

口縁端部に、2段にわたって半載竹管内皮による刺突をめぐらす。口縁下に横位集合沈線をして区画、区画内に弧状の集合沈線を施す。口縁部に貼付紋を縦位に貼付する。27は口縁下に横位集合沈線をして紋様帯を区画、紋様帯内は縦位、レンズ状の集合沈線を施す。口縁部の横位集合沈線帯上に縦位の貼付紋と、半載竹管内皮による刺突を施したボタン状貼付紋を貼付する。28は口縁下に横位集合沈線をして区画、区画内に縦位集合沈線を施す。口縁部の横位集合沈線帯上に貼付紋を貼付する。29は区画紋としての横位集合沈線を施さず、口縁下から斜位の集合沈線をしており、e種に近い。口唇部に貼付紋を貼付する。30は緩く内湾する器形を呈す。横位集合沈線によって幅状の口縁部紋様帯を区画、口縁部紋様帯内は斜位の集合沈線を充填施す。口唇部、口縁部内面に貼付紋を貼付する。31～36は胴部破片。31～33は縦位、斜位、レンズ状の集合沈線を施す。34は斜位や弧状の集合沈線を施す。平行沈線があまりまとまりをもたず、独立したようにも見えることからg種に近いといえるかもしれない。35、36は平行沈線による斜格子目紋を施す。35には区画紋としての横位集合沈線が見られる。37は底部破片。L R縄紋を地紋とし、横位集合沈線を施す。

d種 貼付紋を多用するもの(第233図38～51)

38は緩く外反する器形を呈し、横位集合沈線をして、棒状貼付紋を貼付する。また口縁内面を肥厚させ、肥厚部に斜位の集合沈線と貼付紋を施す。39も同様の構成となる。40は斜位の集合沈線を施し、縦位棒状、耳たぶ状、ボタン状貼付紋を貼付する。41～43は口縁部紋様帯の部位。41は横位集合沈線を施して、縦位棒状、2個一対のボタン状貼付紋を貼付する。42は横位集合沈線を施して、長めの棒状貼付紋を貼付する。43は斜位気味に集合沈線をして、棒状、ボタン状貼付紋を貼付する。44、45は頸部の屈曲する部位。44は口縁部紋様帯に斜位の集合沈線をして棒状貼付紋を貼付し、屈曲部にボタン状貼付紋を貼付する。45は口縁部紋様帯に横位集合沈線を施し、胴部紋様帯は縦位集合沈線、屈曲部に貼付

紋を施す。46～50は胴部紋様の部位。46は縦位区画や斜位の集合沈線を施して貼付紋を貼付する。47は縦位鋸歯状に集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。48はX字状のモチーフを集合沈線で描き、貼付紋を貼付する。胴部下半の部位と思われ、X字状モチーフは下鳥式のモチーフといってもよいかもしれない。49、50は同一個体。斜位に集合沈線を施し、小さなボタン状貼付紋を密集するように貼付する。この貼付紋は下鳥式の貼付紋といえる。51は推定底径9.6cmを測る底部破片。鋸歯状に集合沈線を施し、ボタン状貼付紋を貼付する。

e種 全面に地紋沈線を施すもの(第233図52～56)

52は丸頭状の口唇部形状を呈す。弧状の集合沈線を帯状施紋する。53は口縁下から斜位に集合沈線を施す。54は緩く外反する器形を呈す。斜位に集合沈線を施し、口唇部にも同様に施紋する。内面に貝殻条痕と思われる条痕が見られる。55は縦位鋸歯状に集合沈線を施し、2個一対の貼付紋を貼付する。56は縦位鋸歯状に集合沈線を施す。

f種 縦位区画やモチーフが崩れたようなもの(第233図57～第234図65)

57、58は同一個体で緩く屈曲する器形を呈す。平行沈線を斜位にやや乱雑に施紋し、貼付紋を貼付する。59は緩く内湾する器形を呈す。平行沈線を垂下させて縦位区画するが、区画線を意識せずにやや乱雑に斜位の集合沈線を施す。60は横位鋸歯状に集合沈線を施す。61は斜位に集合沈線を施す。62は縦位鋸歯状に集合沈線を施す。63は斜位、弧状の沈線を施し、2個一対のやや大振りなボタン状貼付紋を貼付する。64は縦位、レンズ状の集合沈線を施す。紋様帯を区画する横位集合沈線は施されず、開放されている。65は底部破片。斜位にまばらに沈線を施す。

h種 縄紋地に貼付紋を施すもの(第230図2、第234図66～70)

2は緩く内湾する器形を呈す。全面に単節RL縄紋を横位施紋し、貼付紋を貼付する。口縁下からやや斜位気味に、半載竹管内皮の刺突を施した浮線が2条垂下する。結節浮線の類と考えられるが、下鳥

式のような整ったものではない。j種との関連も強いといえよう。66は単節R L縄紋を横位施紋し、口縁下に2個一對のボタン状貼付紋を貼付する。この貼付紋は断面コの字状で厚みがある。口唇部に半載竹管による刻みを付す。67は単節R L縄紋を横位施紋し、棒状貼付紋を貼付する。68、69は同一個体。単節R L縄紋を横位施紋し、貼付紋を貼付する。70は単節R L縄紋を横位施紋し、棒状貼付紋を貼付する。

i種 無紋地に貼付紋を施すもの(第234図71)

71は内湾する器形を呈す。口縁部に貼付紋を貼付する。

j種 浮線や結節沈線を施すもの(第234図72~78)

72は横位集合沈線を施して幅狭な口縁部紋様帯を画し、口縁部紋様帯に斜位の集合沈線を充填施紋する。口唇部を肥厚させて貼付紋を施すとともに、半載竹管内皮の刺突を施した隆線を3条貼付する。73はくの字状に内折する口縁部破片。横位集合沈線を施して貼付紋を貼付することは諸説c式と変わらないが、口縁部に半載竹管内皮の刺突を施した高さのある隆線を3条貼付する。74は斜位に集合沈線を施して貼付紋を貼付する。その貼付紋を囲むように、半載竹管内皮の刺突を施した隆線を弧状に貼付する。72~74は半載竹管内皮の刺突を施した隆線と表現したように、いずれも結節浮線と呼べるようには整っていない。75は縦位、斜位に集合沈線を施し、半載竹管内皮の刺突を施した貼付紋を斜位に貼付する。76~78は同一個体。くの字状に内折する器形で、緩やかな波状口縁となるようだ。口縁部に斜位の集合沈線を施し、横位多段に結節浮線を貼付する。

第5類 下鳥式(第234図79~第235図110)

a 1種 棒状の結節浮線を施すもの(第234図79~82)

79は波状口縁を呈す。地紋に横位、斜位の集合沈線を施し、波頂部下から半載竹管内皮の刺突を施した隆線を3条垂下させる。結節浮線と呼べるものではなく第4類j種と同様な隆線であるが、波状口縁

を呈すことや地紋の集合沈線が下鳥式の様相に近いことから本種に含めた。80は斜位に集合沈線を施し、粗めの結節浮線を2条貼付する。81は緩くくの字状に外反しており、胴部で屈曲する器形を呈すと思われる。屈曲部に横位2条の結節浮線をめぐらせ、また紋様帯も屈曲部で上下に区画される。上位の紋様帯は集合沈線により、斜位あるいは曲線状のモチーフを描く。下位の紋様帯は縦位鋸歯状の集合沈線を施し、縦位3条の結節浮線を貼付する。82はX字状の集合沈線を施し、複数条の縦位結節浮線を貼付する。X字の中心付近に2個一對の貼付紋を貼付する。

a 2種 棒状のヘラ切り浮線を施すもの(第234図83)

83は横位、斜位の集合沈線を施し、縦位4条のヘラ切り浮線を上下にわたって貼付する。浮線間には2個一對のボタン状貼付紋を貼付する。

b 1種 結節浮線により幾何学モチーフを描くもの(第234図84~第235図102)

84は波状口縁で、波頂部下に結節浮線により対弧状モチーフを描く。85、86も波状口縁で、波頂部下に渦巻紋を描くと思われる。86には浮線間の間に2個一對のボタン状貼付紋を貼付する。88~90は同一個体。波状口縁で波頂部下にはレンズ状紋、渦巻紋、鋸歯状紋が描かれる。87、91は対向する渦巻紋の連結部と思われる。92~96には渦巻紋が描かれる。97は緩く屈曲する器形を呈す。屈曲部上に渦巻紋を施す。98は横位に連結する弧状モチーフを描く。99は横位や横位レンズ状モチーフを描く。間にボタン状貼付紋を貼付する。100~102は底部破片。100は弧状のモチーフを描き、間にボタン状貼付紋を貼付する。101は横位鋸歯状紋を描く。102は横位に結節浮線をめぐらす。

c種 結節沈線によりモチーフを描くもの(第235図103~107)

103は波状口縁を呈す。縦位、斜位のモチーフを描く。竹管のCの部分あまり意識せずに施紋されているので、結節沈線というよりは半載竹管内皮による押し引きといった方が適当かもしれない。104

II 縄紋時代の調査

は渦巻紋、105はレンズ状や弧状のモチーフを描く。106は胴部下半の部位と思われ、縦位やX字状のモチーフを描く。107も横位結節沈線によって区画されることから、胴部下半の部位と思われる。集合結節沈線により、縦位区画や縦位鋸歯状紋を描く。

d種 沈線によりモチーフを描くもの(第235図108～110)。主に胴部下半の部位と考えられる。

108は集合沈線による横位連弧状モチーフを描く。109、110は同一個体。集合沈線によりX字状や弧状のモチーフを描く。底部は外に張り出す器形を呈す。

第6類 前期末葉の土器(第231図4、第235図111～第238図209)

a種 集合沈線を主紋様とし、印刻を施さないもの(第231図4、第235図111～第236図136、147)

4は波状口縁を呈し、対向する連弧状集合沈線を重畳するものである。弧状の集合沈線を上向きから途中で下向きに転換させて、接点にレンズ状紋を横位に連続させる。本種の典型例である。111は逆の字状のモチーフを描く。口唇部に貼付紋を貼付する。112も同様のモチーフを描くが、渦巻の中心にボタン状貼付紋を貼付する。113は集合沈線により横位区画し、鋸歯状紋などの幾何学状モチーフを描く。間隙にボタン状貼付紋を貼付する。114は112、113と似たモチーフが描かれるが、下半には平行沈線により縦位分割した後、凸状の連弧状集合沈線が描かれる。縦位分割線は渦巻紋の部位にもつながっており、上位から引かれている。115は波状口縁で、対向する連弧状集合沈線を施す。口唇外面がやや肥厚する。116、117は波状口縁を呈し、波頂部下に縦位レンズ状紋を描く。118、120は凸状の連弧状沈線の部位で、118は口唇部が肥厚する。119は波底部の部位で、弧状の集合沈線を組み合わせたモチーフを描く。121は波頂部下あるいは波底部下と思われ、反する連弧状紋に縦位集合沈線を充填する。122は口縁部紋様帯下端の部位と思われる。横位集合沈線により紋様帯を区画し、上位に凹状の連弧状集合沈線、下位に斜位の集合沈線を描く。下位の紋様帯の

間隙にボタン状貼付紋を貼付する。123は緩く屈曲する器形を呈し、その屈曲部に横位集合沈線を施して紋様帯を区画する。紋様帯内には凹状の連弧状集合沈線が描かれており、口縁部紋様帯の下端の部位と考えられよう。124は同心円状モチーフを複数描き、モチーフ間に菱形に集合沈線を埋めている。125は横位集合沈線によって区画した紋様帯内に同心円状のモチーフを描く。126～128は同一個体。横位集合沈線により紋様帯を区画し、口縁部紋様帯に同心円状モチーフ、胴部紋様帯に横位鋸歯状の集合沈線を施す。同心円紋間に横位やV字状の集合沈線を埋めている。129は同心円状と思われるモチーフ間にV字状の集合沈線を施す。130は口縁部紋様帯下端の部位で、横位集合沈線によって紋様帯を区画し、口縁部紋様帯に連弧状集合沈線、胴部紋様帯に縦位鋸歯状の集合沈線を施す。131はワラビ手状のモチーフを描き、間隙に横位鋸歯状集合沈線を施す。132は横位鋸歯状に集合沈線を施す。133は平行沈線を横位にめぐらせて区画し、横位鋸歯状集合沈線を複数段施す。134～136はヘラ切り沈線を施すものである。134は波状口縁を呈し、凸状の連弧状集合沈線を施す。135、136は同一個体。対向する渦巻紋を描くようであるが、ヘラ切りの手法によって左右の渦巻紋の印象が異なっている。口縁端部に刻みを付す。147は底部が張り出す器形を呈し、横位集合沈線によって紋様帯を区画する。底部の紋様帯には矢羽根状の集合沈線を充填施す。胴部紋様帯は下端のみであるが、斜位の集合沈線が確認できる。

b種 集合沈線を主紋様とし、印刻を施すもの(第236図137～146、148～第237図167)

137は折り返し状の肥厚口縁をもつ波状口縁で、下端を三角形に彫り取っている。波頂部に刻みを付す。138も波状口縁で口縁を肥厚させ、下端を三角形に彫り取ることによって鋸歯状紋を作出する。口縁に沿って肥厚部に集合沈線を施す。139も138と同様の手法で口縁部に鋸歯状紋を作出する。曲線状や斜位の集合沈線を施し、モチーフの間隙に印刻を施す。140は同心円状のモチーフを描き、同心円の

内部やモチーフの間隙に印刻を施す。141は入り組み状の同心円紋を描き、印刻を施す。142~144は横位鋸歯状に集合沈線を施し、印刻を施す。145は縦位集合沈線間に縦位鋸歯状集合沈線を施し、印刻を施す。縦位集合沈線は一部弧を描いていることから曲線状モチーフとなり、鋸歯状集合沈線はモチーフ間を埋める構成なのかもしれない。146は縦位、縦位鋸歯状に集合沈線を施し、印刻を施す。148は推定底径12.4cmを測る。横位集合沈線を施して紋様帯を区画。底部紋様帯は縦位鋸歯状の集合沈線を充填施す。胴部紋様帯は横位鋸歯状に集合沈線が施されるようで、下端に三角形状の印刻が確認できる。149、150は同一個体。口縁部の無紋帯を残し、平行沈線を数条施して、爪形状工具によるヘラ切りを施す。その下に三角印刻による鋸歯状紋をめぐらせ、以下に同様の紋様を重畳させるが、2段目の鋸歯状紋は粘土帯を貼付してから鋸歯状に彫り取っているため、肥厚している。151は横位に集合沈線を施し、印刻による鋸歯状紋をめぐらす。152~154は同一個体。口縁下に鋸歯状紋を施し、集合沈線により弧状、円状のモチーフを施す。余白部に印刻を施す。155~162は横位集合沈線により区画し、紋様帯内に同心円状モチーフを描く。161は横位集合沈線により区画し、紋様帯内にU字状のモチーフを施す。Uの内部に印刻を施す。162から胴部下半は単節R L縄紋を横位施している。胎土に石英粒、金雲母を含み、異質な印象を受ける。163~166は結節沈線を施すが、押し引きの間隔が粗い。163、165は余白部に印刻を施す。166は結節沈線間に印刻による鋸歯状紋を施す。164も欠損して判然としませんが、結節沈線の脇に印刻による鋸歯状紋を施すようである。167はヘラ切り沈線により縦位レンズ状紋を描く。レンズ状紋の内部に印刻による鋸歯状紋を施す。

149~167は本種に含めたが、施手法や紋様構成、胎土など、他のものとは異質な印象を受ける。149~162については集合沈線と記述したが施紋の深いものが多く、半隆起線といっても差支えないものである。162には胴部下半に縄紋が施されている

ことから、これらの土器群は北陸地方の福浦上層式の様相に近いといえよう。また163~167の結節浮線も特異である。やはり北陸地方の鍋屋町式の様相に近いといえよう。

c種 押圧隆帯を施すもの(第237図168~174)

168はⅡ-1号住居17と同一個体。直線的に開く器形で口縁がくの字状に内折する。押圧隆帯を2条めぐらせ、2条目の下に沈線を沿わせている。内折部には素浮線を斜位に貼付する。胎土に石英粒を含む。169、170は同一個体。口縁が内折する器形を呈し、内折部に素浮線を貼付する。口縁部に間隔を空けて2条の押圧隆帯をめぐらす。器壁は薄い。171は緩く外反する器形を呈す。押圧隆帯を2条めぐらせ、隆帯下に平行沈線を沿わせている。172も同様の構成となる。胎土に石英粒、金雲母を含む。173は押圧隆帯の下に斜位に隆線を施している。胎土に石英粒と金雲母を含み、異質な印象である。174は半截竹管による刺突を2段めぐらす。欠損しているが、破片上端に内折する痕跡が観察できる。174は隆帯上位の口縁部紋様ととらえ、本種に含めた。

d種 結節浮線と沈線を併用するもの(第237図175~178)

本種はc種の押圧隆帯を結節浮線に置換したものととらえることができ、f種よりc種に近いと考え、f種とは分離した。

175は緩く外反する器形を呈す。結節浮線を2条めぐらせ、浮線下に平行沈線を沿わせる。176は175と同様の構成となるが、平行沈線が弧状になっている。177は緩く外反する器形を呈す。結節浮線を扶むように上下に沈線を施す。

e種 結節凹線を施すもの(第237図178~182)

178は口縁が内折する器形を呈す。屈曲部を肥厚させて口唇部紋様帯を明瞭にし、口唇部紋様帯と口縁部紋様帯にそれぞれワラビ手状の隆線を貼付する。隆線に沿って結節凹線を施す。胎土に金雲母を含む。179は波状口縁を呈し、剥落しているが口縁部に折り返しによる段があったことが確認できる。結節凹線により弧状などのモチーフを描く。180は179と

II 縄紋時代の調査

同一個体。結節凹線により渦巻状モチーフを描く。181は隆線を貼付し、結節凹線を施す。結節凹線の上からV字状に沈線を施す。182は底部破片で、結節凹線を施した上から曲線状の太沈線と三角形の印刷を施す。

f種 縄紋地・無紋地に浮線を施すもの(第238図183~209)

183は折り返しによる中空口縁を成形し、折り返し部に4条、区画紋として1条の結節浮線を横位に施して、紋様帯内は内外面ともに結節浮線を鋸歯状に貼付する。外面余白部には透かしを施す。184は箱状突起の内折する部位と思われる。結節浮線を口縁に沿って1条沿わずとともに鋸歯状に施す。183、184は真脇式であろう。185は波状口縁で内湾する器形を呈す。口縁に沿って結節浮線を2条、横位に2条施して素浮線を波状に施す。内面に段を有する。186は平口縁でR L縄紋を施し、半載竹管内皮による刺突を施した浮線を曲線状に貼付する。187は複合口縁でくの字状に緩く外反する器形を呈す。単節R L縄紋を施し、結節浮線を横位に貼付する。188はキャリパー状の器形を呈すと思われる、波状口縁で口縁は内湾する。地紋に単節R L縄紋を施し、口縁に沿って4条、波頂部下に凹状に結節浮線を施す。189は外に開く器形を呈し、口縁が短く内折する。単節L R縄紋を地紋とし、結節浮線を間隔を空けて横位多段に貼付する。口縁内折部の内面にも結節浮線の貼付が見られる。190は外に開く器形を呈し、結節浮線を横位多段に貼付する。最下段の結節浮線の下に、縦位に垂下する結節浮線が確認できる。地紋に単節L R縄紋を施すが、上部には地紋施紋は見られない。191も外に開く器形を呈す。単節L R縄紋を地紋とし、結節浮線を横位多段に貼付する。192~194は同一個体。単節R L縄紋を地紋とし、結節浮線を縦位、菱形、鋸歯状に貼付する。195~200は縦位に結節浮線を貼付するもので、胴部紋様帯の部位と考えられる。198は胎土に石英、金雲母を含む。200は胴部下半が張り出す器形と思われる、屈曲部下は無紋となる。201、202は縄紋地に素浮線を施

している。201は内湾する口縁形状を呈す。単節R L縄紋を地紋とし、口縁に沿わせて1条横位に、その下に波状に2条の素浮線を貼付する。202は外反する器形を呈し、縦位に素浮線を貼付する。203~208は無紋地に結節浮線を施す。203は内面にくの字状の緩い屈曲部をもち、折り返し状の肥厚口縁を呈す。結節浮線を横位、斜位に施し、余白に素浮線を貼付する。口唇部にボタン状貼付紋を並べて貼付する。204は横位に3条の結節浮線を貼付し、その上に鋸歯状の素浮線を貼付する。205は尖頭状口唇の口縁部破片で、直立する器形を呈す。口縁部に浅い彫り込み部を設け、結節浮線を2条めぐらす。206はやや幅広の結節浮線を3条横位にめぐらす。口縁は内折するようであり、一部口縁に向かって隆線を貼付する。207、208は結節浮線を間隔を空けて横位に複数条施す。209は尖頭状口唇を呈す。刺みを施した隆線を3条横位にめぐらせ、隆線下に半載竹管による刺突を縦位に施す。

第7類 浮島・興津系土器(第238図210~第240図257)

a種 貝殻紋を施すもの(第238図210~第239図222)

210~216はロッキングを施す。211はロッキングを施した上から斜位に沈線を施す。215、216は同一個体。ロッキングを施した後、弧状の沈線を施す。217は貝殻の先端圧痕を多段に施す。218、219は同一個体。小波状口縁で頭部がすばまり胴部が膨らむ器形を呈す。細沈線を帯状に施し、沈線間に貝殻の先端圧痕を充填施紋する。220は緩く外反する器形を呈す。口縁下に縦位短沈線帯を設け、貝殻腹縁紋を帯状に施紋する。221、222は同一個体。波状口縁で、頭部で外側に屈曲する器形を呈す。屈曲下まで貝殻腹縁紋を横位、斜位に施し、以下、単節L R縄紋を横位施紋する。口唇部に半載竹管によると思われる刺突を施す。

b種 沈線を施すもの(第239図223~229)

223は小波状口縁で頭部ですばまる器形を呈す。口縁部に短沈線帯を施し、沈線下には刺突列を施す

ようだ。224は小突起状の張り出し部をもつ波状口縁。平行沈線による楕円状や弧状のモチーフを描く。225は口縁が内湾する器形を呈し、球胴形に近い器形になると思われる。平行沈線を弧状にやや乱雑に施す。口唇部に鋸歯状の隆線を貼付し、貝殻腹縁圧痕を施す。隆線を貼付しない口唇部には半載竹管内皮による刺突を施す。226、227は同一個体。波状口縁を呈し、口縁に沿って半載竹管の刺突をめぐらす。平行沈線によるモチーフを描き、貼付紋を貼付する。波頂部下はやや大きめの貼付紋を貼付する。228は小波状口縁を呈し、口唇部が肥厚する。肥厚部に半載竹管内皮による刺突を2条めぐらす。平行沈線を円状に施し、間隙に刺突を施す。229は波状口縁で、折り返し状の肥厚口縁を呈す。斜位に平行沈線を施し、肥厚部に半載竹管内皮による刺突を施す。

c種 刺突を施すもの(第239図230~243)

230は波状口縁で、折り返し状の肥厚口縁を呈す。肥厚部に半載竹管内皮による刺突列を施す。231、232は同一個体。平行沈線で縦位レンズ状のモチーフを描き、沈線間に刺突を充填する。一見すると結節沈線に見えるが、押し引きではなく沈線を施してから刺突を充填させている。余白にも刺突を施す。233、234も同一個体。半載竹管や先端が三角形の刺突を多段に施す。235は内湾する器形を呈す。平行沈線を斜位に施し、口端に半載竹管内皮による刺突を施す。236は半載竹管内皮による刺突列を縦位に施す。237は内湾する様子から球胴形の器形になると思われる。横位刺突列で区画し、上位は縦位、斜位に刺突列を充填させ、下位は平行沈線を縦位に充填させる。区画紋上にボタン状貼付紋を施す。238は斜位にやや乱雑に平行沈線や刺突を施す。239は半載竹管外皮による半円形の刺突を多段に施す。240は挟むような刺突を横位に施す。241も粘土がめくれあがるような刺突を横位多段に施す。242も241と同様な刺突を多段に施す。243は刺突列を横位にめぐらす。

d種 縄紋原体圧痕を施すもの(第239図244~第240図256)

244~248は素口縁のものである。244、245は同一個体。口縁部に2条の原体圧痕を施し、間に梯子状に縦位に押捺する。さらに下には鋸歯状に圧痕を施す。246は波状口縁で外反する器形を呈す。波頂部下に円形の隆線を貼付し、口縁に沿って原体圧痕を3条めぐらす。以下は単節R L縄紋を横位施紋する。247も波状口縁を呈す。口縁に沿って原体圧痕を3条施し、以下、単節R L縄紋を横位施紋する。248も波状口縁を呈すが、緩く内湾する器形を呈す。口縁に沿って原体圧痕を3条施す。249~256は折り返し状の肥厚口縁となるものである。249は波状口縁を呈し、肥厚部に2条の原体圧痕をめぐらす。肥厚部下にも1条横位に見られる。胎土に金雲母を含む。250は肥厚部に2条の原体圧痕をめぐらせ、肥厚部下に縦位、鋸歯状に原体圧痕を施す。251は肥厚部の下端はあまり明瞭に残されてはいないが、比較的幅広に成形している。この肥厚部が紋帯帯となっており、原体圧痕を2条ずつ横位にめぐらせながら、斜位に充填施紋する。口唇部には原体を押捺することによる深めの刻みが付される。内面には指頭によると思われる凹凸が顕著に認められる。252は幅広の肥厚帯を成形し、施紋域とする。口縁下に原体圧痕を2条めぐらせ、以下は斜位に充填施紋する。原体圧痕を施した後、無作為的に短沈線を斜位、弧状に施す。また部分的に爪形状の刺突を充填させる。肥厚部下は結節R L縄紋を横位施紋する。内面には指頭によると思われる凹凸が認められる。253は肥厚部に2条横位に、肥厚部下に斜位に原体圧痕を施す。254は肥厚部に単節R L縄紋を横位施紋した後、原体圧痕を3条めぐらす。肥厚部に指頭によると思われる凹みが認められる。255は幅広の肥厚帯に横位、曲線状に原体圧痕を施す。256は肥厚部の下端の部位で、一部分を鋸歯状に彫り取っている。V字状あるいは鋸歯状に原体圧痕を施す。

e種 折り返し状の肥厚口縁となるもの(第240図257)

257は波状口縁を呈し、折り返し状の段が2段認められる。それぞれ下端を鋸歯状に彫り取っている。

第8類 大木系土器 (第240図258~280)**a種** 大木5式 (第240図258~266)

258は無節L R縄紋を地紋とし、太めの波状貼付紋を貼付する。口縁は細かい単位の波状となるようだ。259は単節L R縄紋を地紋とし、波状貼付紋を縦位に貼付する。貼付紋にも縄紋を挿入する。260は波状口縁を呈す。単節R L縄紋を地紋とし、波頂部下に大振りなボタン状貼付紋、胴部に小さいボタン状貼付紋、口縁に沿って波状素浮線を貼付する。261、262は同一個体。斜位に集合沈線を施し、波状素浮線、ボタン状貼付紋を貼付する。263は単節R L縄紋を地紋とし、鋸歯状沈線を複数段めぐらす。264は緩く外反する器形を呈す。単節R L、L Rの結束羽状縄紋を横位施紋し、口縁下に太めの波状貼付紋をめぐらす。265は折り返し状の肥厚帯を成形し、肥厚部にボタン状貼付紋を貼付する。肥厚部下に鋸歯状沈線を施す。口唇部に刻みを付す。266は折り返し状の肥厚帯をもち、下端に刺突を加えている。肥厚帯下は単節R L縄紋を施した上から押し引き状の刺突列を4条めぐらせる。口唇部に鋸歯状隆線を貼付する。

b種 大木6式 (第240図267~280)

267は太沈線を横位、斜位に施す。口唇部に同一工具による刻みを付す。268はくの字状に屈曲する器形を呈し、太沈線を横位、斜位に多段に施す。269は太沈線による鋸歯状紋を2段めぐらせ、間隙に細沈線によって菱形紋を描く。270も鋸歯状紋を横位にめぐらす。271は横位に結節沈線を数段重ね、結節沈線間に鋸歯状平行沈線を施す。結節沈線下は単節L R縄紋を横位施紋する。272は太沈線によるモチーフを描き、以下、単節R L縄紋を横位施紋する。273、274は同一個体。波状口縁を呈す球胴形深鉢と思われる。太沈線に半截竹管によるC字状刺突を沿わせ、三角形の印刻を施す。275~279も同一個体で、波状口縁を呈する球胴形深鉢である。太沈線による幾何学状モチーフを描き、沈線間や沈線に沿わせるように半截竹管によるC字状刺突を施す。口縁部紋様帯は斜位に、胴部紋様帯には円状のモチーフ

を描き、鋸歯状沈線でつなぐようだ。胴部紋様帯下端にボタン状貼付紋を貼付する。胴部下には単節R L縄紋を横位施紋する。280も球胴形深鉢で、太沈線と結節浮線により紋様を構成する。2条の結節浮線をめぐらせて紋様帯を区画し、結節浮線によりU字状のモチーフを描く。一部太沈線が見られるが、沈線に沿わせて浮線を貼付するのではなく、浮線間を挟るように彫り取っている。間隙にボタン状貼付紋を貼付する。胴部下は結束羽状縄紋を横位施紋する。

第9類 前期末葉から中期初頭の土器 (第241図281~第243図351)

281~284は口縁が内湾する器形を呈し、口縁内面が折り返し状に肥厚する。口縁下に幅狭な無紋帯を成形し、平行沈線を横位にめぐらせて口縁部紋様帯を区画。口縁部紋様帯内は斜格子状や、縦位、斜位の集合沈線を充填施紋する。285は口唇の内外が肥厚する。縦位、斜位に集合沈線を施した境界に、平行沈線を施して区画する。286、287は楕円形に区画した余白に印刻を施す。287は口縁の内外面の肥厚帯は剥落しているが、残存部分から口唇部には円紋を並べていることが確認できる。ソーメン状浮線ではなく、また円形竹管でもなく、外縁を細沈線で縁取り、中心を彫り取ることによって円形に浮き立たせているようだ。288は内外面に肥厚帯をもつが、内面の肥厚部が幅広く顕著である。横位鋸歯状平行沈線を2段めぐらせて区画し、内部を縦位の集合沈線で充填する。289は直立する器形を呈し、折り返し状の肥厚口縁をもつ。肥厚部は無紋とし、肥厚部下に横位に連続する楕円雲形紋帯を2段重畳する。縦位に集合沈線を施した後、平行沈線で雲形状に区画するため、余白部にも縦位沈線が残っている。290、295は同一個体。口縁部にワラビ手状の粘土帯を貼り付け、R L縄紋を横位施紋する。貼付下は縦位集合沈線を施して、その上から鋸歯状に平行沈線を施す。さらにその下に横位鋸歯状平行沈線を施し、沈線間に縦位集合沈線を充填施紋する。295から紋

様帯下は縄紋施紋となることが看取される。291～294は頭部の部位であり、キャリバー状の器形となることが分かる。それぞれ横帯区画内に斜格子目状集合沈線を充填施紋する。291、293、294には雲形状に区画する平行沈線が見られる。296～299は雲形紋を施す。298には余白部に縦位結節縄紋が施される。296、297は雲形紋の余白に印刻を施す。300、301は横帯構成となる。300は紋様帯下にかすかに縦位結節縄紋が見られる。301は単節R L縄紋を横位施紋する。302は縦位構成となるようだ。胎土に石英、金雲母を含む。303は雲形紋を施し、余白に印刻を施す。304は頭部下と思われ、外反する器形を呈す。斜格子目沈線の下端で、横位平行沈線で画し、以下単節R L縄紋を横位施紋する。縄紋の上から逆U字状の平行沈線を施す。305～309は紋様帯下端の部位で、紋様帯を区画する横位平行沈線が見られる。区画紋下は305が横位R L、306は横位L R、307はL R、R Lの横位結束羽状縄紋、308は縦位の結束羽状縄紋、309は燃糸紋Rを縦位施紋する。309は横位平行沈線の上に、かすかに縦位の平行沈線が見える。310、311は同一個体で、直立する器形を呈す。横位に隆線をめぐらせて紋様帯を区画。折り返し口縁の肥厚部と横位隆線をつなぐようにX字状に隆線を貼付する。間隙に縦位集合沈線を施し、広い部分のみ外縁を平行沈線で縁取る。横位隆線下に2条の平行沈線をめぐらせ、その下に鋸歯状平行沈線をめぐらす。以下は単節L R縄紋を施す。312は波状口縁で、筒状を呈していたものが割られたような痕跡が見られる。縦横に集合沈線を施す。313は沈線により三角形モチーフを描く。314は折り返し状の口縁で、口唇内面が肥厚する。口縁下に平行沈線による鋸歯状紋を描く。315は口縁下に横位、以下、縦位の集合沈線を施す。補修孔が穿たれている。316は内湾する器形を呈し、横位鋸歯状紋を描く。317は縦横に集合沈線を施す。318は肥厚口縁で、口縁内面に段を有す。口縁下に縦位集合沈線を設け、三角形の印刻を交互に配して鋸歯状紋を作出する。幅狭な口唇部にも沈線を施す。319は緩やかな波状口縁を呈

す。肥厚口縁で、口縁内面に段を有す。口縁下に平行沈線を施し、さらに口唇部にも沈線を施す。320は横位沈線を施し、刺突を交互に施して鋸歯状紋を作出する。321～323は同一個体。縦位に鋸歯状紋、V字状に沈線を施し、竹管外皮による刺突を沿わせる。沈線も同一工具で、竹管外皮によるものと思われる。323は底部破片で、底部がやや張り出す器形を呈す。横位に沈線と刺突をめぐらす。324～326は同一個体と思われる。キャリバー状の器形を呈すようであり、屈曲部に隆線をめぐらせている。内削ぎ状の口唇部形状を呈し、口縁下に縦位集合沈線帯を成形。口縁部紋様帯内は沈線により弧状モチーフを描き、沈線間に半載竹管外皮による刺突を充填施紋する。327は口縁がくの字状に外反する器形を呈し、屈曲部に刻みを付した隆線をめぐらせて紋様帯を区画する。扁平な隆線をワラビ手状に貼付して刻みを加える。口縁部には梯子状の沈線をめぐらす。内面に1条の凸帯をめぐらす。口唇部に刻みを付す。328、329は沈線を横位に数条施して、沈線脇に刺突を加える。328は互い違いに、329は対向するように加えている。330は弧状に集合沈線を施し、部分的に刺突を沿わせ、さらに瘤状貼付紋を付す。口唇部に刻みを付す。331は外反する器形を呈す。横位沈線を施して、部分的に刺突を沿わせる。一部、互い違いに施すことにより、鋸歯状紋を作出している。332～334も同様の構成となる。334は低い隆線をめぐらせているようだ。335は断面三角形の隆線をめぐらせ、頂部に刻みを付す。隆線に沿うように集合沈線を施す。また隆線に接するように瘤状貼付紋を貼付し、その部分の隆線を凹ませている。336～341は同一個体。キャリバー状の器形を呈し、口縁部がくの字状に屈曲して外反するように直立する。口唇部と口縁の屈曲部を肥厚させ、細かい刻みを付す。内部は1条ずつの平行沈線で画し、葦瓦状押引紋を横位に充填施紋する。口縁の屈曲部下は横位平行沈線で画し、斜位に集合沈線を施す。頭部には弧状の隆線を貼付する。隆線上に平行沈線を施し、その上から格子目状になるようにソーメン状沈線を貼付する。

II 縄紋時代の調査

339～341は頸部下の部位と思われ、平行沈線で幾何学状に区画し、区画内に茸瓦状押し紋を充填施紋する。余白は彫り取って、紋様を浮き立たせている。342は緩く内湾する器形を呈す。折り返し状口縁で、口縁外面に肥厚帯をもつ。肥厚部下にはR L縄紋を横位施紋し、口唇をまたぐように3条の浮線を貼付する。343は波状口縁で、口唇部が肥厚する。口唇部に3条の浮線を貼付する。胎土に金雲母を含む。344は緩く内湾する器形を呈す。Y字状に平行沈線を施し、横位に充填施紋する。345は粘土帯を折り返した複合口縁を呈す。残存する部分には施紋されない。複合帯下の器壁は3mm程と非常に薄いつくりである。346は波状口縁と思われる。口縁部を肥厚させ、口唇部に刻みを付す。残存する部分には口唇部以外は施紋されない。347は口縁部を肥厚させ、下端に刺突を施す。口唇部にも同様の刻みを付す。348は口縁がくの字状に外反する器形を呈し、口縁部に連弧状隆線を貼付する。349は口縁に小突起を付す。突起部から刻みを付した隆線を垂下させ、直角に曲げて横位に貼付する。隆線によって区画された幅狭な紋様帯内に鋸歯状沈線を施す。口唇部に凹線を施す。350は口縁の突起の部位と思われ、横断面がレンズ状を呈す。ソーメン状素浮線を格子目状に貼付し、一部印刻状に凹みを成形する。351は円状に区画した内部にソーメン状素浮線を格子目状に貼付する。一部円状に印刻を施す。

第10類 浅鉢（第230図3、第243図352～356）

3は最大径27.2cmを測る。口縁が直立する器形を呈し、屈曲の転換点に孔が穿たれている。352は口縁がくの字状に外傾する器形を呈す。353～355は肩部で、354は屈曲が他よりも緩やかとなる。356は肩より下の部位で段を有する。

第11類 縄紋施紋土器（第243図357～第244図411）

357～359は折り返し状の肥厚口縁を呈す。357は肥厚部に単節R L縄紋を横位施紋し、口縁部に刺突を施した隆線をめぐらせる。358は折り返し部が2

段確認できる。単節R L縄紋を横位施紋する。359は単節L R縄紋を横位施紋する。口唇部にも施紋する。360は縄紋を施し、細沈線を横位に施す。361は無節L r縄紋を横位施紋する。口唇部に深めの刻みを付す。362は緩く外反する器形を呈す。複節R L R縄紋を横位施紋する。口唇部にも施紋する。363は結節R L縄紋を横位施紋する。口唇部にも施紋する。364は口縁内面がくの字状に外反する。無節L r縄紋を横位施紋する。365はL R、R Lの結束羽状縄紋を横位施紋する。366～367は端部結節の結束縄紋を横位施紋する。368、369は無節L r縄紋を横位施紋する。370、371は単節R L、372、373は単節L R縄紋を横位施紋する。374はくの字状に外反する器形を呈し、胴部が張り出すようである。結束羽状縄紋を横位施紋する。375～381は結束羽状縄紋を施す。382～388は端部結節縄紋を施す。382、388は端部結節の結束羽状縄紋となっている。389～391は底部破片。389は結束、390は結節、391は無節L r縄紋を施す。

392～411は縄紋を縦位施紋するものである。392～407は結節縄紋を縦位帯状施紋する。結束羽状縄紋でそれぞれ両端を結び、縦位に施紋するものが多いが、羽状構成とならないものもある。392は上端に紋様帯を区画する平行沈線が見える。393は強く内湾する器形を呈しており、頸部上と思われる。407は底部が張り出す底部破片である。408、409は縦位縄紋に波状の平行沈線を沿わせている。小破片のため結束なのか結束でないのかは判然としないが、端部は結ばず、代わりに平行沈線を波状に沿わせている。410、411は結束羽状縄紋を縦位密接施紋する。410は頸部と思われ、大きく開く器形を呈す。

第12類 無紋土器（第245図412～426）

412は折り返し状の肥厚口縁を呈す。413は波状口縁で、折り返し状の肥厚口縁を呈す。414は推定口径9.8cmの小形土器。423は胴部下半に影らみをもつ器形を呈す。

第Ⅲ群 中期前半～後期の土器**第1類** 勝坂式（第245図427～429）

427は内湾する口縁部で、口唇部が肥厚する。平行沈線を曲線状に施し、刺突列を沿わせる。428は隆帯を横位、弧状に貼付し、刺突を沿わせる。429は縦位に沈線や梯子状沈線を施す。

第2類 阿玉台式（第245図430、431）

430は波状口縁を呈し、波頂部から刺突を施した隆帯を垂下させる。431はペン先状の刺突を施す。430、431ともに胎土に金雲母を含む。

第4類 加曾利E式（第245図432～第246図447）

432は内湾する口縁部で、口唇内面が肥厚する。沈線で楕円状の区画を施し、単節LR縄紋を充填施紋する。433も内湾する口縁部で、沈線を1条めぐらせて幅狭な無紋帯を成形する。以下は沈線を弧状に垂下させ、区画内に単節LR縄紋を充填施紋する。434は横位に隆線をめぐらせて口縁部無紋帯を成形し、以下RL縄紋を充填施紋する。435も口縁部は欠損しているが同様の構成になると思われる。LR縄紋を縦位施紋する。436～438、440もU字状に沈線を施し、縄紋を充填施紋する。439は円状に沈線を施し、LR縄紋を充填施紋する。441～444は隆線で区画し、縄紋を充填施紋する。441はモチーフが2段になる。444は胴部下半の部位。隆線内は無紋帯とし、広い部分に縄紋を施紋する。445は沈線や隆線による区画はないが、無紋帯を残してLR縄紋を縦位施紋する。446は底部で、縦位に隆線を垂下させ縄紋を施紋する。447は波状口縁を呈し、波頂部下に逆U字状の無紋帯を配すが、波頂部下で縄紋帯が途切れて口縁の無紋帯と連続する。

本類はすべて加曾利E A式に比定できると考えられるが、439、447のモチーフは加曾利E式でも後期的な様相をもつものといえよう。

第5類 称名寺式（第246図448～第247図459）

448は波頂部の突起の部位。口縁に沿って沈線を

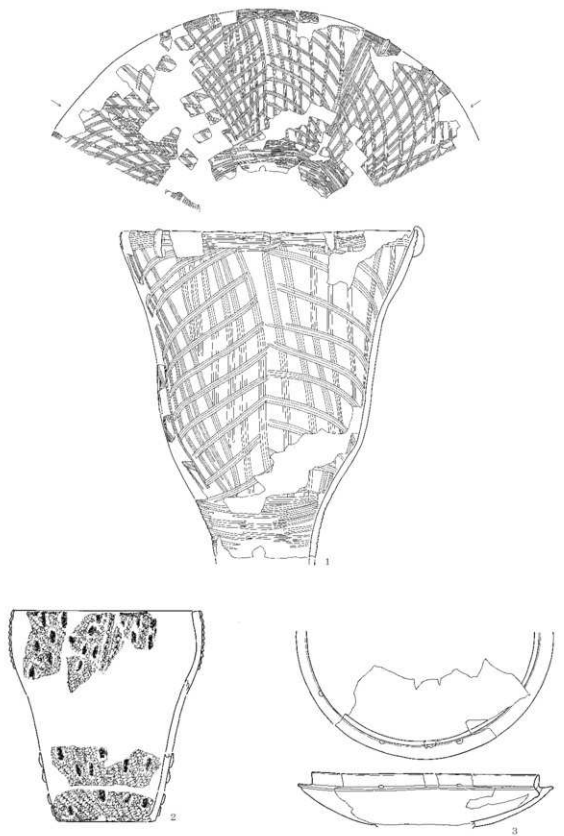
施す。449は波状口縁で口縁が内折する器形を呈す。波頂部に楕円状把手がつくと思われる。内折部に沈線による楕円状モチーフを描き、円形刺突を施す。450は口縁の突起の部位であろう。対弧状に隆帯を施す。451は小突起をもつ波状口縁を呈し、波頂部から刻みを付した隆線を垂下する。帯状縄紋を施す。452も同様の構成となる。453～456は帯縄紋を施すものである。457、458は同一個体。口縁下を肥厚させて、沈線と円形刺突をめぐらせる。肥厚部下は列点紋を施す。459も列点紋を施すものである。

第6類 堀之内式（第247図460～465）

460は外に開く器形を呈し、口縁が内折する。口縁部に1条の沈線をめぐらす。461は隆線を垂下させ、沈線を縦位、斜位に施す。隆線には側面から互い違いに押捺が加えられ、鋸歯状を呈す。462はLR縄紋を地紋とし、太沈線を縦位に施す。463は沈線のみのものである。464は刻みを付した隆線をめぐらせ、沈線区画にLR縄紋を充填施紋する。465は相反する器形を呈し、沈線区画にLR縄紋を充填施紋する。

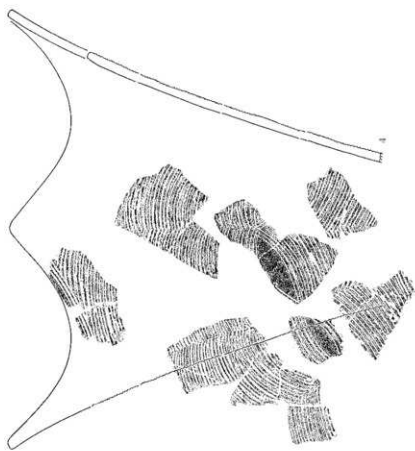
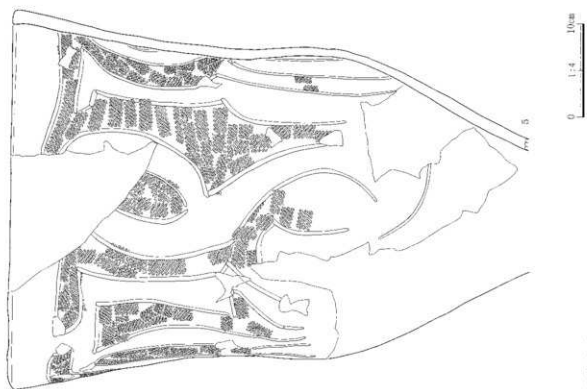
ミニチュア土器（第247図466、467）

466は推定口径8.8cmを測る。胴部中程に横位に沈線を施して紋様帯を区画、区画内は沈線により菱形状モチーフを描く。467は底径3.3cmを測る。平行沈線を斜位に施す。



第230図 II区遺構外出土土器(1)

0 1:4 10cm

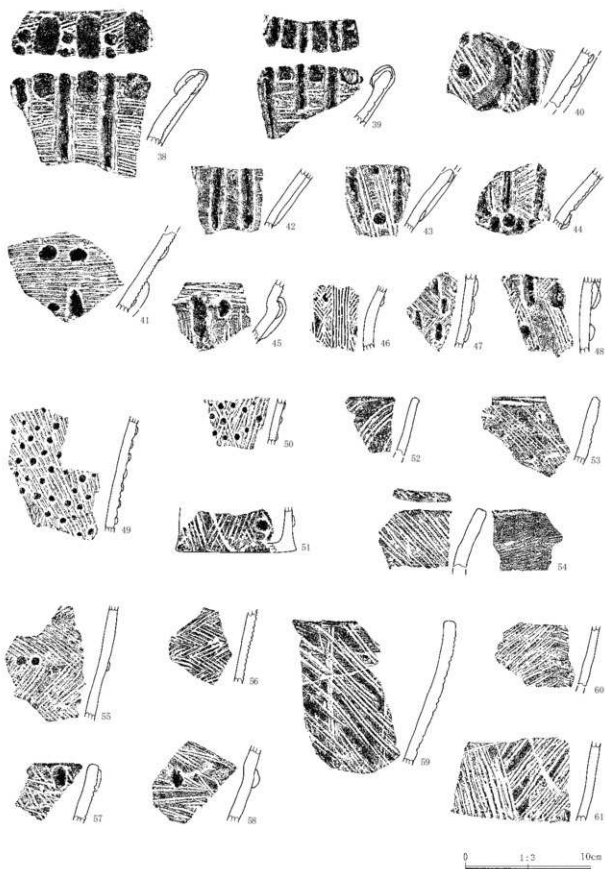


第231图 II区遺構外出土器(2)

II 縄紋時代の調査

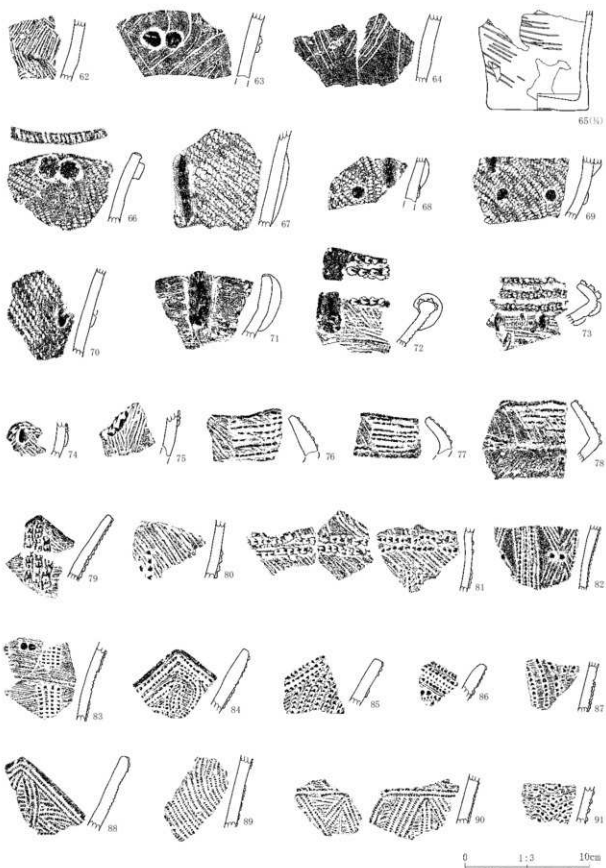


第232図 II区遺構外出土土器(3)

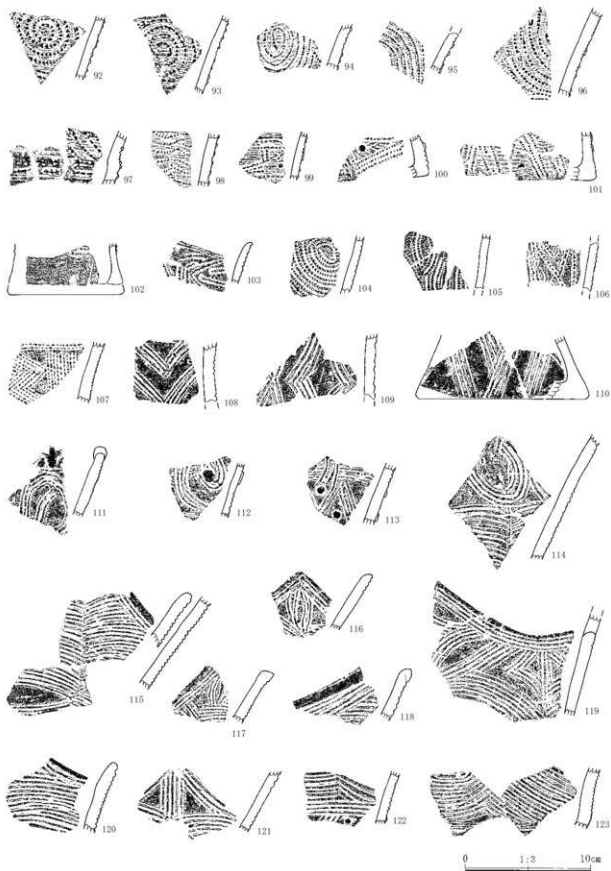


第233图 II区遺構外出土土器(4)

II 縄紋時代の調査

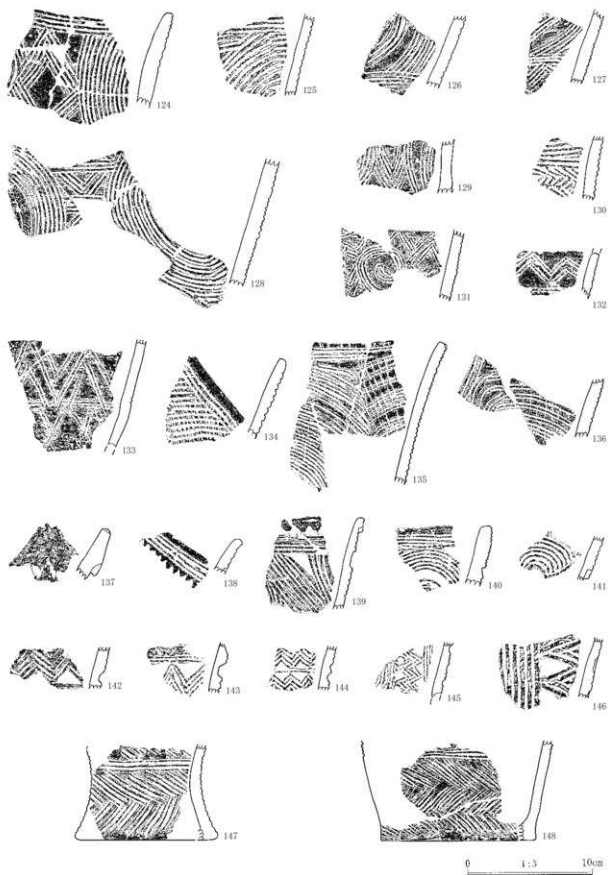


第234図 II区遺構外出土土器(5)

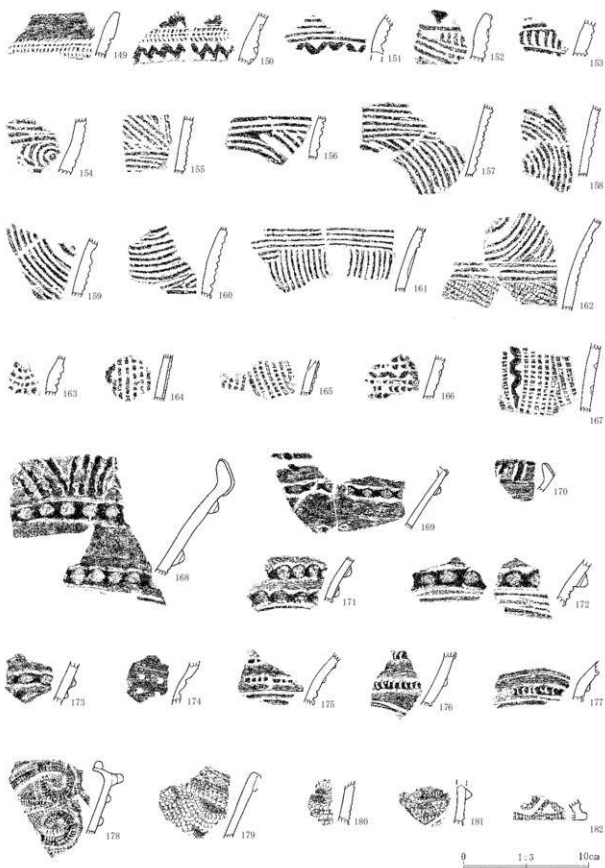


第235图 II区遺構外出土土器(6)

II 縄紋時代の調査

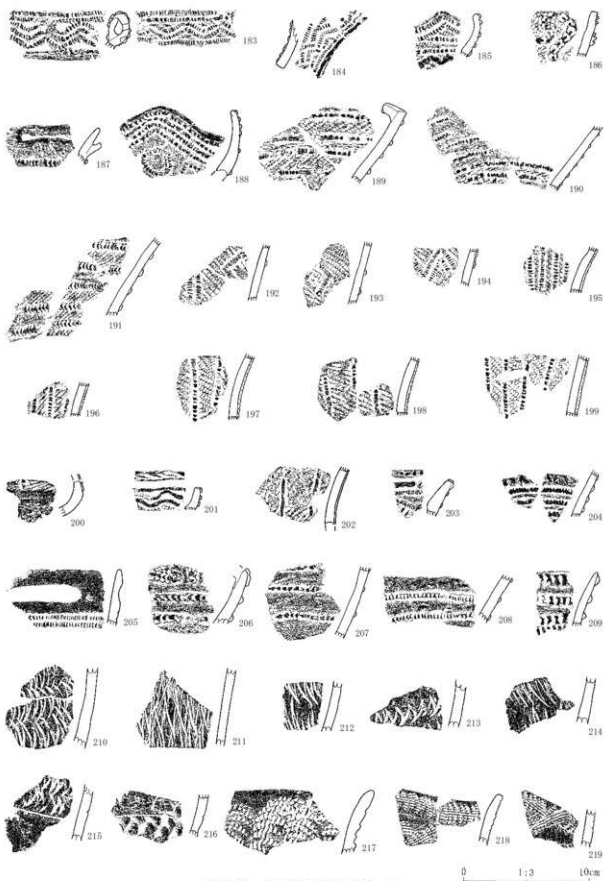


第236図 II区遺構外出土土器(7)

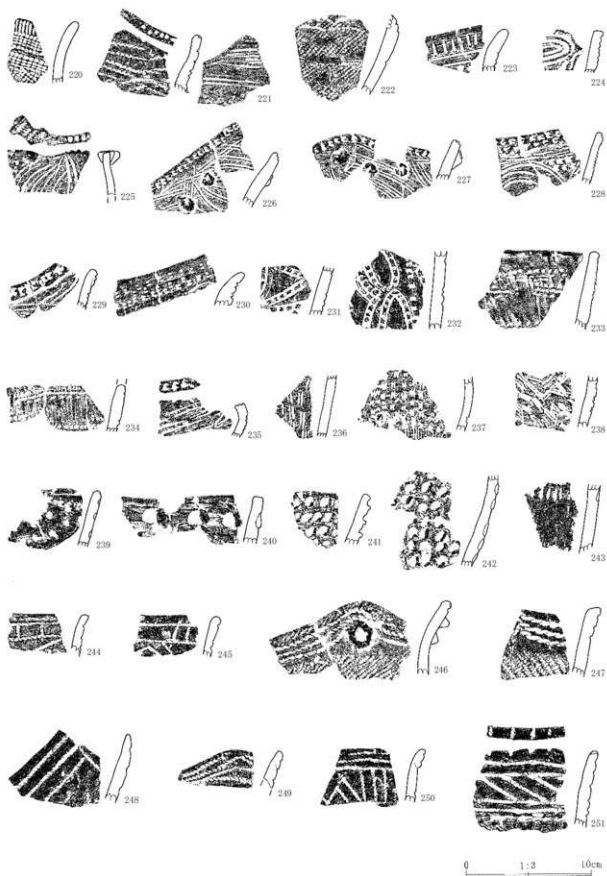


第237图 II区遺構外出土土器(8)

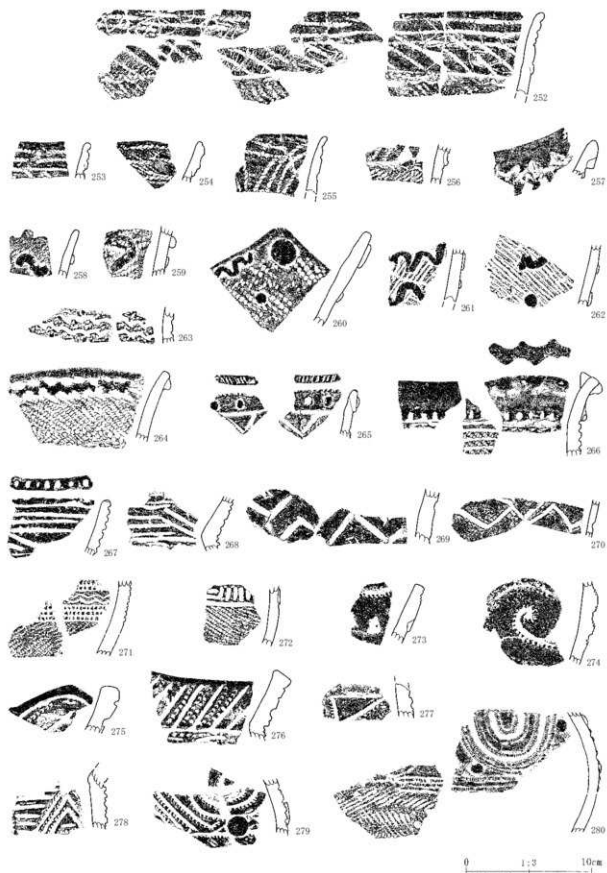
II 縄紋時代の調査



第238図 II区遺構外出土土器(9)



第239図 II区遺構外出土土器(10)



第240図 II区遺構外出土土器(11)

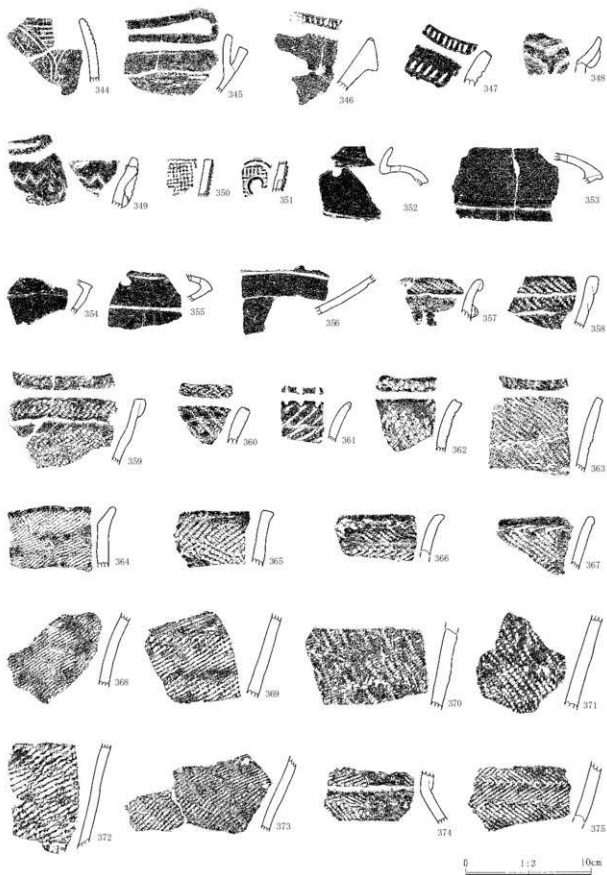


第241图 II区遺構外出土土器 (12)

II 縄紋時代の調査

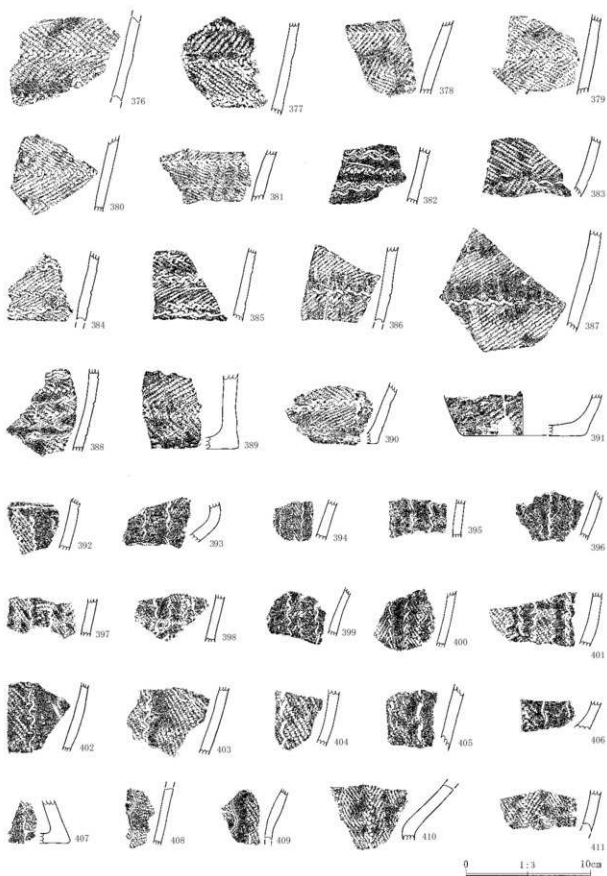


第242図 II区遺構外出土土器 (13)

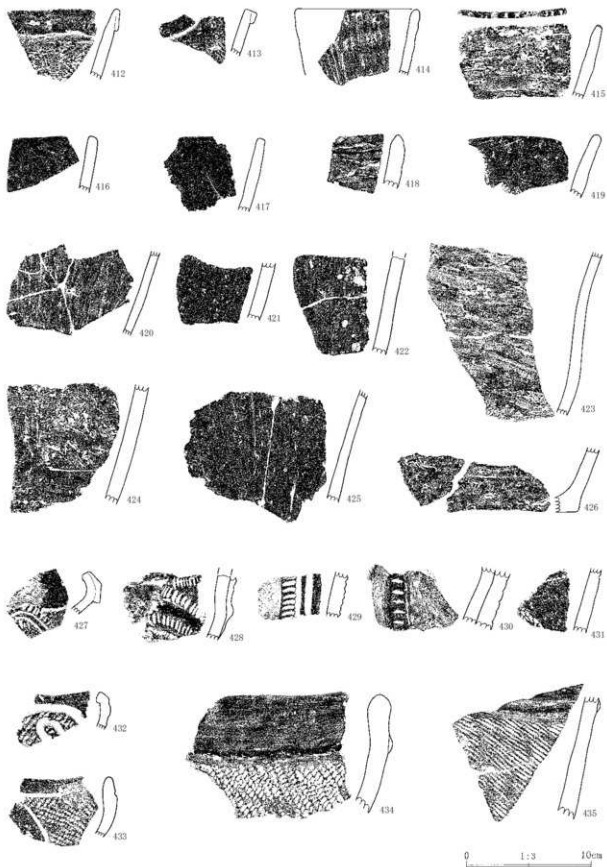


第243图 II区遺構外出土土器(14)

II 縄紋時代の調査

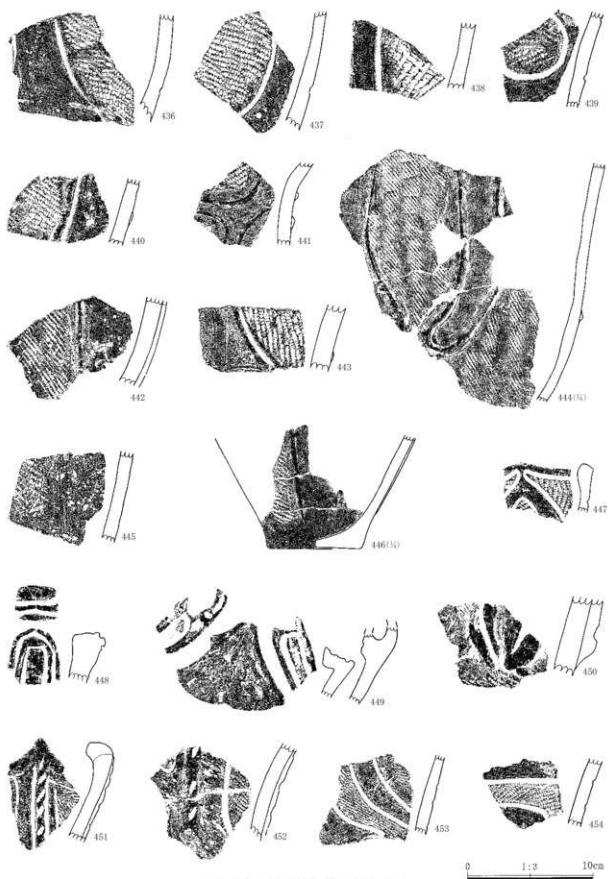


第244図 II区遺構外出土土器 (15)

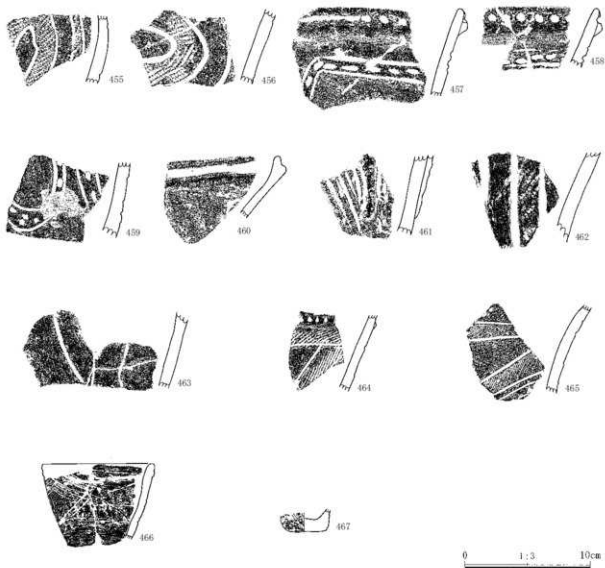


第245図 II区遺構外出土土器 (16)

II 縄紋時代の調査



第246図 II区遺構外出土土器 (17)



第247图 II区道槽外出土土器(18)

II 縄紋時代の調査

(7) III区出土土器

第II群 前期～中期初頭の土器

第1類 花積下層式(第250図10～13)

10は口縁部破片で、口縁部紋様帯に燃糸圧痕を斜位に施す。11～13は胴部破片で、0段多条の縄紋を施す。それぞれ胎土に多量の繊維を含む。

第2類 語磯b式(第248図1、第250図14～第251図60)

a種 浮線を施すもの(第248図1、第250図14～20)

1は小波状口縁のキャリバー状で、口縁が内折する器形を呈す。口縁に沿って4条、斜位に刻みを付した浮線を施し、波頂部下に渦巻状のモチーフを配す。屈曲部下は浮線を横位多段に貼付する。14も1と同様の器形で、波頂部の部位。口縁に沿って斜位に刻みを付した浮線を3条施す。15は大きく外反する頭部の部位と思われる。斜位に刻みを付した浮線を横位多段に貼付し、浮線間に縄紋原体の押捺を施す。16～18は浮線を横位に施すもので、16は外反する器形を呈す。17は3条1単位に浮線を施す。16、17は地紋にR L縄紋を横位施す。19、20は底部破片で同一個体。浮線を横位にめぐらせてから、浮線上に縄紋を施す。

b種 集合沈線を施すもの(第250図21～第251図60)

21、22は同一個体。キャリバー状器形の内折する口縁で小波状を呈す。口縁に沿って集合沈線を施し、波頂部下に集合沈線による対弧状モチーフを描く。屈曲部下は集合沈線による横帯構成となる。a種1を沈線に置き換えたものといえよう。23は靴先状口縁で、口縁に沿って集合沈線を帯状に施す。内面は、波頂部から対称のワラビ手状集合沈線を垂下させ、横位に梯子状に集合沈線を施す。24も靴先状の口縁部で、波頂部下に連結するワラビ手状モチーフを描く。内折部にも同様のモチーフを描き、貼付紋を貼付する。25は大波状口縁の波頂部で、口縁に沿って集合沈線を施す。波頂部の先端に刻みを付す。26は波状口縁で、波頂部が内湾する器形と見られる。口

縁に沿って集合沈線を施す。27はキャリバー状で口縁が内折する器形を呈す。小波状口縁を呈し、波頂部が特に強く内折する。集合沈線による横帯構成となる。地紋にR L縄紋を施す。28は口縁部がくびれ、口縁が外反する器形を呈す。集合沈線間に縦位集合沈線、対向する矢羽根状集合沈線を施す。29は直立する口縁で、横位集合沈線を施す。30は頭部で横位集合沈線間に弧状の集合沈線を施す。31も横位集合沈線間に弧状の集合沈線を施す。32、33は同一個体。横位集合沈線間に弧状や斜位の集合沈線を施す。34は屈曲する部位で、屈曲部に凹形の刺突をめぐらせる。刺突は凹形竹管によるものではなく、弧状の竹管を回すように3回ほど押捺して凹形状にしている。35も屈曲する部位で、横位集合沈線間に縦位の集合沈線を施す。36～56は集合沈線を横位帯状に施すものである。地紋に縄紋を施すものと同様でないものがある。57～60は底部破片で、同様のモチーフとなる。

第3類 語磯b式～c式の過渡的なもの(第251図61～第252図75)

61は口縁が軽く内折し、外反するように立ち上がる器形を呈す。横位集合沈線を施す。62は口縁部にくびれをもち、口縁が部分的に内湾する器形を呈す。集合沈線による横帯構成で、沈線間に矢羽根状集合沈線を充填施す。63も61と同様の器形を呈す。横位集合沈線を施すが、口唇直下と屈曲部に2個1単位の刺突をめぐらす。64は強く外反する器形を呈し、横位、矢羽根状集合沈線を施す。波状口縁になるようだ。65はキャリバー状で、口縁が内折する器形を呈す。口端は短く外反する。小波状口縁で、集合沈線を口縁に沿って、屈曲部下は横位に施す。口唇直下と屈曲部に半截竹管内皮による刺突をめぐらす。剥落しているが、波頂部下に貼付紋が貼付されていた痕跡が確認できる。66も口縁の内折が65ほどきつくないものの同様の構成となる。波頂部下の貼付紋を囲むように、弧状の集合沈線を施す。67も65、66と似たような構成となる。68は波頂部が内湾

する器形を呈し、口縁端部に刻みを付す。口縁に沿って集合沈線を施し、波頂部付近にボタン状貼付紋を貼付する。69は口縁が部分的に内湾する器形を呈し、内湾部に貼付紋を貼付する。横位集合沈線を施す。70は波頂部が対向するように挟り込みを入れる口縁部で、波頂部が内湾する。横位集合沈線を施す。71も波頂部が対向するように挟り込みを入れる口縁部で、緩く外反する器形を呈す。集合沈線を口縁下、縦位、弧状に施す。地紋にRL縄紋を施す。72も波頂部が対向するように挟り込みを入れる口縁部で、波頂部がやや内湾する。口縁に沿わせて横位、矢羽根状集合沈線を施す。73も72と同様の構成となるが、波頂部の内湾が強い。集合沈線を帯状施紋する。74も波状口縁で波頂部に挟り込みを入れる。口唇内外面を肥厚させて口唇部に平坦面をつくる。75も74と同様の口縁部形状となる。口縁部に横位の矢羽根状集合沈線帯を施し、その下は縦位展開となる。波頂部下に縦位の貼付紋、矢羽根状沈線帯にボタン状貼付紋を貼付する。75は諸磯c式である。

第4類 諸磯c式（第248図2、第252図76～第255図173）

a種 大波状突起をもつもの（第252図76～84）

76は頂部の側縁が張り出す形状を呈し、上下2ヶ所に透かしが入ると思われる。側面にも集合沈線を充填させる。77は内折部に貼付紋を施す。78は円形状の透かしが入るようだ。側面に貼付紋を貼付する。79は突起の先端部と思われる。両側縁をY字状に張り出させ、透かしを施す。80、81は側縁の張り出し部と考えられる。80は端部に刻みを付し、81は端部に沿って半截竹管によるC字状刺突を施す。82～84は波状口縁の基部である。82は内折口縁。84は透かしを入れ、側面に小さめのボタン状貼付紋を貼付する。

b種 口縁端部に刻みを付すもの（第252図85～92）

85は横位集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。86は横位集合沈線を施す。87は緩く外反する器形を呈し、横位、矢羽根状集合沈線を施す。余白にボタン

状貼付紋を貼付する。88も緩く外反する器形を呈す。口縁部に横位集合沈線を施し、以下、縦位展開する。横位集合沈線帯に貼付紋を貼付する。89も88と同様の構成となるが、貼付紋の頂部に刻みを付している。90は緩くくの字状に内折する器形で、口唇外面と屈曲部を肥厚させて刻みをめぐらす。横位集合沈線を施し、口縁から屈曲部にかかる貼付紋を貼付する。91は口縁部が欠損しているが、90と同様の構成になるとと思われる。屈曲部に刻みをめぐらせ、屈曲部下は横位、矢羽根状集合沈線を施す。矢羽根の交点に円形の刺突を施す。円形竹管によるものではなく、半截竹管を組み合わせているようだ。92は粗大な刻みを付し、横位集合沈線を施す。刻みの特徴はg種に近い。

c種 口縁部付近のみ貼付紋を施すもの（第253図）

93は緩く屈曲する器形を呈し、屈曲部を肥厚させる。屈曲部上位は横位集合沈線、屈曲部は縦位鋸歯状の集合沈線を施す。94は口唇外面を肥厚させ、内削ぎ状に成形する。口縁部に横位集合沈線を施し、以下は縦位展開する。紋様帯の転換部にボタン状貼付紋を貼付する。95は口縁に近い部位で、口縁部に横位集合沈線を施し、以下縦位展開する。横位沈線帯に貼付紋を貼付する。96は内湾する器形を呈す。横位集合沈線によって幅狭な口縁部紋様帯を区画し、紋様帯内は縦位鋸歯状集合沈線を充填施紋する。耳状やボタン状貼付紋を貼付する。97は緩く内湾する器形を呈す。口縁から縦位鋸歯状の集合沈線を施し、2個一對の貼付紋を横位に2段貼付する。口唇部にも斜位の沈線を施し、貼付紋を貼付する。98も口縁が緩く内湾する器形を呈す。横位集合沈線で口縁部紋様帯を画し、口縁部に縦位鋸歯状の集合沈線を施す。口縁部紋様帯上に貼付紋を貼付する。99は口縁部が屈曲する器形を呈す。横位集合沈線を施し、口縁部に貼付紋を貼付する。100はくの字状に内折する器形を呈し、屈曲部上に円形刺突をめぐらす。屈曲部下は横位集合沈線を施し、以下、縦位展開する。101は頂部で外反する器形を呈し、横位、矢羽根状集合沈線を施す。102は横位集合沈線帯を2帯施し、

II 縄紋時代の調査

以下、縦位展開とする。b式に近いものか。103は横位集合沈線、矢羽根状集合沈線を施す。横位沈線帯に貼付紋を施す。104～115は胴部紋様で、縦位区画、レンズ状紋、X字状、斜格子目状などの集合沈線を施す。108はモチーフがやや乱れているようにも見え、f種に近いといえるかもしれない。109、110は集合沈線間に半截竹管による刺突を充填させるもので、やや異質な印象を受ける。112、113は胴部紋様帯を区画する横位集合沈線が見られる。114はレンズ状紋内に斜格子目沈線を施す。115は斜格子目沈線を施すものである。地紋にR L縄紋を施す。116～119は底部に近い部位で、116～118は胴部下半が膨らむ器形、119は直立する器形を呈す。120、121は底部破片で、それぞれ直立する器形を呈す。121の底径は9.5cmを測る。

d種 貼付紋を多用するもの(第248図2、第254図)

2はキャリバー状で胴下半が膨らみをもつ器形を呈す。頸部に1条の隆帯をめぐらせ、隆帯上にさらに貼付紋を貼付する。口縁部紋様帯には菱形状、胴部紋様帯には縦位鋸歯状の集合沈線を施し、それぞれ貼付紋を貼付する。口唇部にも矢羽根状集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。122～125は外に開く器形で、口縁内面に折り返し状の肥厚部を成形する。斜位、横位集合沈線を施して棒状貼付紋などを貼付する。肥厚部にも沈線や貼付紋を施す。126～128は同様の構成で、口縁部を欠いたものである。129は口縁内面が肥厚する器形を呈す。横位集合沈線により幅狭な口縁部紋様帯を画し、口縁部に向する斜位の集合沈線を施す。口唇部、口縁内面にも斜位の集合沈線を施し、口唇部に貼付紋を貼付する。130は矢羽根状に集合沈線を施し、大形の耳たぶ状貼付紋を貼付する。口縁内面の肥厚や施紋は122～125に共通する。131は強く内湾する器形を呈す。横位集合沈線によって幅狭な口縁部紋様帯を区画し、紋様帯内は縦位鋸歯状の集合沈線を充填施紋する。さまざまな貼付紋を施す。132は口縁が緩く内湾する器形を呈す。口縁部に斜位、以下、横位に集合沈線を施して貼付紋を貼付する。133は口縁が内湾する器

形を呈す。口縁下から横位集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。134は頸部で屈曲する器形の屈曲部下の部位と思われる。縦位鋸歯状集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。135はくの字状に屈曲して外に開く器形を呈す。屈曲部上位に横位集合沈線、屈曲部下は縦位展開するモチーフを描く。横位集合沈線帯上に貼付紋を貼付する。136はクラック状に屈曲する部位。屈曲部上位は横位集合沈線、屈曲部下は縦位展開するモチーフが見える。屈曲部に貼付紋を貼付する。137～142は胴部紋様である。縦位区画やレンズ状紋、斜格子目状などの集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。141はくの字状に緩く内折する器形を呈す。屈曲部上に3段の刺突列をめぐらせ、その上は斜位の集合沈線を施す。屈曲部下はおそらく縦位展開と思われるモチーフを施し、貼付紋を貼付する。141の刺突列は第7類c種興津式との関連がうかがえる。142は集合沈線により菱形モチーフを描き、全面に貼付紋を貼付する。143～145は底部破片。胴部紋様が縦位展開するが、胴部紋様帯を画す横位集合沈線帯は見られない。145は142と似た構成となる。

e種 全面に地紋沈線を施すもの(第255図146～152)

146は球胴形で、口縁部がくの字状に短く外反する器形を呈す。胴下半に横位集合沈線を施して紋様帯を区画し、口縁下から縦位鋸歯状集合沈線を施す。縦に列をなして貼付紋を貼付する。器形が特徴的で、興津式の要素を取り入れたものと理解できよう。147は口縁部が外反しないが、146と似たような器形を呈す。口縁下から縦位鋸歯状に集合沈線を施す。148は口縁下に粗大な刻みを付し、縦位鋸歯状集合沈線を施す。149～152も縦位鋸歯状に集合沈線を施紋する。152は下部のモチーフが崩れている。

f種 縦位区画やモチーフが崩れたようなもの(第255図153～159)

153は直立する器形を呈し、口縁部に横位集合沈線、その下にレンズ状紋が崩れたようなモチーフを描く。施紋は浅く、頼りない沈線である。154も直

立する器形で、口縁からレンズ状の集合沈線を施す。155、156は同一個体。緩く内湾する器形で、口縁下に粗大な刻みを付す。やや乱雑に集合沈線を施し、ボタン状貼付紋を貼付する。剥落しているが、縦長の貼付紋も施されていた痕跡が確認できる。口縁下の刻みはb種との関連が考えられる。157は直立する器形を呈し、口縁部に幅狭な横位集合沈線、以下、レンズ状紋が崩れたようなモチーフを描く。レンズ状紋内に斜位の沈線を充填施す。口縁部に貼付紋を貼付した痕跡が見られる。158は縦位、斜位にやや乱雑に集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。159は波状口縁で、波頂部が内湾する器形を呈す。口縁に沿って斜位の集合沈線を施し、波頂部下に貼付紋を貼付する。口唇部に刻みを付す。

g種 地紋に条線を施すもの(第255図160)

160は底部破片で、底部付近に斜位の条線を施す。

h種 縄紋地に貼付紋を施すもの(第255図161、162)

161は口縁部ですばまってから口縁が開く器形を呈す。部分的にR L縄紋を施し、ボタン状貼付紋を貼付する。弧状の刺突列も確認できる。162は波状口縁を呈す。R L縄紋を施し、波頂部に貼付紋を施す。口唇部にも縄紋を施す。161、162ともに器形が特徴的で、諸磯c式の様相とはややかけ離れている。161の器形は興津式に近いといえるし、162の波状口縁は下鳥式に近いといえよう。

j種 浮線や結節沈線を施すもの(第255図163～173)

163は口縁が内湾する器形を呈す。斜位や菱形状に集合沈線を施し、横位、縦位の浮線を貼付する。浮線には半載竹管内皮による刺突が施されるが、結節浮線と呼べるような整ったものではない。さらに半載竹管内皮の刺突を施したボタン状貼付紋を多数貼付する。164も口縁が内湾する器形を呈す。集合沈線を斜位に施し、半載竹管内皮による刺突を施した浮線を横位に3条貼付する。165は口縁が強く内湾する器形を呈す。縦位鋸歯状に集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。横位の貼付紋に半載竹管内皮による刺突を施す。166も強く内湾する器形を呈す。

貼付紋を施し、貼付紋をつなぐように横位に浮線を貼付する。頂部に半載竹管内皮による刺突を施す。浮線貼付の後、集合沈線を施す。167は166の横位浮線を抜いた構成となる。168は直立する器形。縦位鋸歯状に集合沈線を施し、口縁直下にアーモンドのような形の貼付紋を貼付する。貼付紋の中央に1条の沈線、上下に半載竹管内皮による刺突を施す。口唇部にも半載竹管によるC字状刺突を施す。169は貼付の部位。頂部、側面に半載竹管内皮による刺突を施す。170は口縁が内湾する器形を呈し、鋸歯状集合沈線、貼付紋を施す。貼付紋の頂部に半載竹管内皮の刺突を施す。171は口縁が内折する器形を呈す。横位集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。口縁と貼付紋に沿って結節沈線を施す。172は横位、斜位に集合沈線を施し、半載竹管内皮による刺突を施した浮線を縦位に貼付する。173は斜位に集合沈線を施し、斜位の浮線と貼付紋を貼付する。浮線には半載竹管内皮による刺突を施す。

第5類 下鳥式(第256図)

a1種 棒状の結節浮線を施すもの(第256図174～180)

174は直立する口縁部破片で、条線状の集合沈線を斜位に施し、短い結節浮線を口縁部に等間隔に貼付する。一部刺突を加えず、諸磯c式と同様な貼付紋の箇所も見受けられる。175は口縁部に斜位の集合沈線を施して横位集合沈線で区切る。以下はレンズ状紋を施す。口縁部紋帯に縦位の結節浮線を貼付する。176は横位集合沈線を施し、口縁に沿って4条、さらに縦位に棒状結節浮線を貼付する。177、178は横位集合沈線を施し、縦位結節浮線を貼付する。179は縦位集合沈線を施し、縦位の結節浮線を貼付する。180はくの字状に緩く内折する器形を呈す。縦位鋸歯状に集合沈線を施し、縦位結節浮線とボタン状貼付紋を貼付する。

a2種 棒状のヘラ切り浮線を施すもの(第256図181、182)

181は斜位に集合沈線を施し、縦位にヘラ切り浮

II 縄紋時代の調査

線を貼付する。浮線間に2個一対のボタン状貼付紋を貼付する。182は横位集合沈線を施し、横位、縦位にヘラ切り浮線を貼付する。

b 1種 結節浮線により幾何学モチーフを描くもの(第256図183~195)

183は波状口縁で、渦巻状モチーフを描く。184は波状口縁を呈し、対向する渦巻紋を描く。波頂部下にはレンズ状紋を施す。185~192も渦巻状モチーフを描く。185の口唇外面には結節沈線状の刺突列が施される。187は対向する渦巻紋を描く。189は口縁部と胴部紋様帯の境界の部位で、口縁部には渦巻状モチーフ、胴部にはレンズ状や斜位の結節浮線を施す。190は3帯の紋様帯が認められ、上の2帯は結節浮線、下段の胴部紋様帯は集合沈線によりモチーフを描く。上段は口縁部紋様帯と思われ、渦巻状モチーフを施す。中段には掌状のモチーフが描かれる。上、中段の余白には1個ないし2個一対のボタン状貼付紋を貼付する。下段の胴部紋様帯は集合沈線により縦位区画し、区画内に横位鋸歯状紋や斜位の集合沈線を施す。不規則に2個一対のボタン状貼付紋を貼付する。191には口縁部紋様帯を区画する横位の結節浮線が見られる。192は余白に2個一対のボタン状貼付紋を貼付する。193はX字状モチーフを描く。194は波状口縁を呈し、口縁に沿って3条、波頂部から5条の結節浮線を垂下させて余白に曲線モチーフを描く。195は渦巻状モチーフを描いている。194、195は無地紋であり、他とは異なった様相である。

c種 結節沈線によりモチーフを描くもの(第256図196~202)

196は波状口縁で、結節沈線により曲線状モチーフを描く。197も波状口縁を呈し、波頂部下に渦巻紋を描く。198も波状口縁で、渦巻紋を描くと思われる。199も波状口縁と思われる。刺突列のような施紋で渦巻状モチーフを描き、余白に縦位鋸歯状の集合沈線を施す。口唇部に刺突を施している。200は弧状、201は縦位、斜位、弧状に結節沈線を施す。202は渦巻紋を施す。

d種 沈線によりモチーフを描くもの(第256図203~205)

本種は基本的に胴部紋様帯の部位である。

203は鋸歯状や弧線を組み合わせたようなモチーフを描く。204は底部付近の部位で、胴部紋様帯を区画する横位集合沈線を施し、2個一対のボタン状貼付紋を貼付する。胴部紋様帯には斜位の集合沈線が見える。205は底径10.5cmを測る底部破片。やや乱れた鋸歯状集合沈線を施し、2個一対のボタン状貼付紋を貼付する。

第6類 前期末葉の土器(第248図3、第257図206~第258図243)

a種 集合沈線を主紋様とし、印刻を施さないもの(第257図206~221)

206は大波状口縁で緩く外反する器形を呈す。対向する連弧状集合沈線を施す。下端にレンズ状紋が確認できる。弧線を入れる前に分割の基準線を引いているらしく、波頂部から垂下する沈線が見られる。207は波頂部下にレンズ状紋を施す。波頂部に双突起を付す。208は口縁に沿って帯状に集合沈線を施す。209は折り返し状の肥厚口縁を呈す。弧状の集合沈線を施す。210はレンズ状の部位。対向する弧線の接点で、縦ではなく横になっている。211は縦位の分割線を垂下させ、その分割線に合わせて凹状集合沈線を施す。212は口縁に沿って集合沈線を施し、同心円状のモチーフを描く。213は鋸歯状紋を横位多段に施す紋様構成となる。214は波状口縁を呈し、波頂部下に同心円紋を描く。215は折り返し状の肥厚口縁で、下端を鋸歯状に影り取っている。少なくとも2帯の紋様帯が確認でき、上段には同心円紋を描いて、間を鋸歯状で埋めている。下段には鋸歯状紋を施す。ただし同心円紋の部分が残っていないだけで、上段と同様のモチーフだった可能性もあろう。216は波状口縁で、波頂部下に同心円紋を描く。余白にボタン状貼付紋を貼付する。217~219はヘラ切り集合沈線を施す。217は凸状の連弧状集合沈線を施し、縦位に不規則にヘラ切りを施す。

218はレンズ状紋の部位。219は横位多段に鋸歯状紋を施す構成と思われる。鋸歯状に集合沈線を施した後、ヘラではなく肋のない貝殻を用いてヘラ切り状にしているようである。220、221は底部破片。220は斜位と弧状の集合沈線、221は連弧状にヘラ切り沈線を施す。

b種 集合沈線を主紋様とし、印刻を施すもの(第248図3、第257図222～第258図236)

3はトロフィー形で、口縁が内折する器形を呈す。横位多段の紋様構成となり、胴部下半のややくびれる横帯に把手を付す。波頂部下に楕円紋を施し、モチーフ間を横位鋸歯状紋で連結する。以下、3段の横位鋸歯状紋帯が認められる。それぞれ余白に印刻を施す。内折口縁部にも鋸歯状の集合沈線を施す。底部は推定であるが、おそらく台がついていたであろう。222は大波状口縁で、折り返し状の肥厚口縁を呈す。口縁に沿って三角形に集合沈線を施し、余白に印刻を施す。223も大波状口縁を呈すが、口唇は肥厚しない。横位集合沈線で波頂部の紋様帯を区画し、縦位レンズ状紋や三角形の集合沈線を施して余白に印刻を施す。2段目の紋様帯には横位鋸歯状紋を施すようだ。224は折り返し状の肥厚口縁で、下端を鋸歯状に彫り取る。ワラビ手状の集合沈線を施して、余白を彫り取っている。225～227は同一個体。上下2段の紋様帯が認められ、ともに円状のモチーフを描く。円状モチーフ間に227のような斜位の集合沈線を施す。228はワラビ手状や鋸歯状など幾何学的なモチーフを描き、余白を彫り取る。229、230は口縁部破片で、口縁下に横位集合沈線、鋸歯状紋を施す。余白に印刻を施す。おそらく横位多段構成となろう。231～235は鋸歯状紋を横位多段に施し、余白に印刻を施す。234は印刻の施し方に違いが認められる。235は口縁部紋様帯と胴部紋様帯の境界部分。横位集合沈線を施して紋様帯を区画、口縁部紋様帯は鋸歯状紋を施して余白に印刻を施し、胴部紋様帯は縦位鋸歯状の集合沈線を施す。236も横位に鋸歯状紋を施すが鋸歯状沈線は施さず、下側のみ三角形に彫り取ることによって鋸歯状紋を作

出する。

c種 押圧隆帯を施すもの(第258図237)

237は無紋地に1条の押圧隆帯をめぐらす。器壁5mmと薄手のつくりである。

e種 結節凹線を施すもの(第258図238～241)

238、239は同一個体。くびれをもつ器形を呈す。結節凹線により曲線状モチーフを描く。くびれ部に何か貼付していたようで、割かれた痕跡と粘土の盛り上がりが見られる。240は底部破片。曲線状モチーフを描く。241はトロフィー形深鉢のくびれ部に付される橋状把手である。縄紋の原体圧痕を施す。

f種 縄紋地・無紋地に浮線を施すもの(第258図242、243)

242はRL縄紋を地紋とし、2条の結節浮線と波状素浮線を横位にめぐらす。243はLR縄紋を地紋とし、結節浮線を横位にめぐらす。

第7類 浮島・興津系土器(第248図4、5、第258図244～第261図331)

a種 貝殻紋を施すもの(第248図5、第258図244～第259図279)

5は波状口縁で、胴部下半に膨らみをもち、頸部ですぼまって口縁が開く器形を呈す。貝殻腹線紋を帯状に施紋し、平行沈線や1本書き沈線で縁取りする。波頂部を起点に菱形モチーフを描く。興津式に比定できよう。244～258はロッキングを施すものである。244は縦く外反する器形を呈し、口唇部に指頭押捺による刻みを付す。253は斜位の沈線によって区画し、区画内にロッキングを施す。254は内湾する器形を呈す。255は貝殻腹線紋、先端の圧痕、ロッキングを施す。256、257は同一個体。ロッキングを施した上から横位の沈線を施す。口縁に、深い刺突と貝殻腹線紋を施した突起を付す。また口唇部に波状隆線を貼付する。隆線にも貝殻腹線紋を施している。258はロッキングの上から横位沈線を施す。259～272は貝殻腹線紋を密に施す。259は口縁下から貝殻腹線紋を縦位に施し、平行沈線で区切る。肋のない貝殻と思われる工具で、深く抉るような刺

II 縄紋時代の調査

突を施す。260も同様な紋様構成となるが、刺突は肋のある貝殻を用いている。261は外反する器形を呈す。口縁下に縦位短沈線帯を設け、少し空けて貝殻による刺突を施す。刺突の下は貝殻腹縁紋を押し引状に施す。262は口縁下に短沈線帯を設け、小形の半載竹管内皮による刺突で区切る。さらに大きめの半載竹管を用いて挟むような刺突を加え、貝殻腹縁紋を密に施紋する。263は小波状口縁を呈し、口縁端部に刻みを付す。口縁に沿って貝殻腹縁紋を施す。264は緩く外反する器形を呈す。口縁下に縦位短沈線帯を成形し、刺突で区切る。以下は密なロッキングを施している。265、266は同一個体。264と同様な構成であるが、貝殻施紋域を沈線によって区画する。267も密なロッキングと沈線を施す。268も密なロッキングになっている。269は貝殻腹縁紋を施した上から沈線を横位施紋する。270は紋様帯を画す横位平行沈線が確認でき、区画紋下は無紋となる。271、272は緩く内湾する器形を呈し、屈曲部下は無紋となる。272には貝殻腹縁紋に沿った沈線が見られる。273は斜位の平行沈線にロッキングを沿わせており、以下は無紋となる。274は波状口縁で緩く外反する器形を呈す。貝殻腹縁紋を帯状に施し、沈線で区画する。菱形モチーフになると思われる。275は帯状に貝殻腹縁紋を施し、上から平行沈線を施す。276は丸みを帯びた尖頭状口唇をもつ口縁部破片で、口縁部に無紋帯を設けて貝殻腹縁紋を施す。277はやや厚みのある口縁部破片で、部分的に貝殻紋を施す。278は押し引状に密に貝殻腹縁紋を施紋する。口唇部に波状の粘土紐を貼付する。279は貝殻背圧痕を多段に押捺している。

b種 沈線を施すもの(第259図280～第260図295)

280はL R縄紋、281はR L縄紋を地紋とし、平行沈線で横位や弧状のモチーフを描く。282～287は沈線を横位や弧状に施す。288は緩く内湾する器形を呈す。平行沈線により幾何学的なモチーフを描く。屈曲部下は無紋となる。289は口縁端部に刻みを付し、1本書きの沈線を斜位に施す。290は地紋にL R縄紋を施し、沈線を横位歯歯状に施す。口唇部に

も縄紋を施紋する。291は集合沈線により菱形モチーフを描き、中心に凹状紋を配しているものと思われる。紋様帯下はR L縄紋を横位施紋する。第9類の可能性も考えられる。292は球形で、口縁がくの字状に短く開く器形を呈す。集合沈線を横位、縦位、斜位に施し、貼付紋や浮線を貼付する。口唇部に刻みを付す。292は諸磯c式や下高式の要素を併せもつものと理解される。293は小波状口縁を呈し、波頂部が内湾する器形を呈す。地紋に無節R1縄紋を施し、やや乱雑に斜位に集合沈線を施す。余白部に厚みのあるボタン状貼付紋を3個貼付する。294、295は同一個体。口縁下に縦位短沈線帯を設け、挟むような刺突をめぐらす。刺突下は波状沈線を横位多段に施す。

c種 刺突を施すもの(第248図4、第260図296～319)

4は緩く外反する器形を呈す。口縁部に三角刺突列を横位に複数段施す。その下に横位沈線帯を設け、さらに三角刺突列を多段に施紋する。外削ぎ状の口唇部に刻みを付す。浮島Ⅲ式に比定できよう。296は推定口径12.2cm、直立する深鉢である。口縁下から全面に横位集合沈線を施し、上半部にはほぼ等間隔に半載竹管内皮による刺突を施している。口縁部に貼付紋を貼付し、その部分のみ口唇部に刻みを付す。諸磯c式との関連が考えられよう。297は口縁下に縦位短沈線帯を設け、平行沈線と半載竹管内皮による刺突列を交互に施す。298は小波状口縁を呈す。口縁端部に刻みを付し、半載竹管によるC字状刺突と平行沈線を施す。299は口縁下に縦位短沈線帯を設け、半載竹管内皮による刺突列をめぐらす。300は角押状の刺突列を2段施す。301は小波状口縁を呈し、粗大な刺突列と沈線を施す。302は口縁部が部分的に内湾する器形を呈す。口縁端部に刻みを付し、口縁部に半載竹管内皮による刺突列を3段めぐらす。303は半載竹管内皮による刺突列を横位多段に施すが、最下段は角押状刺突を施している。304も半載竹管内皮による刺突を横位に施す。305は三角形の刺突列を横位多段に施す。306は緩く内湾する器

形を呈し、半載竹管内皮による刺突列と沈線を施す。307は波状口縁で、波頂部が内湾する器形を呈す。口縁に沿って弧状刺突を施す。308は口縁部に弧状の刺突列を2段施し、以下は細めの平行沈線を横位に施す。309も弧状の刺突列を2段施している。工具は先割れ状になっている。310は円形刺突と弧状刺突を併用する。311は円形刺突を2段めぐらす。転換部分が残っていないので断定はできないが、308～311は同一個体と思われる。312は挟り取るような刺突を2段施す。313は口縁部に2段の刺突列をめぐらせ、無節L R縄紋を施す。314はめくれあがるような刺突を多段に施す。315は緩く内湾する器形を呈す。横位、幾何学状の沈線、刺突を施す。刺突を施したあとに沈線で区切っている。316は緩く外反する器形を呈す。櫛歯状工具のような沈線と刺突を施す。317は押引のような刺突列と沈線を施す。口縁端部に波状隆線を貼付する。318は口縁端部に爪形状の刺突を施す。319は同様の刺突を施す底部破片。平行沈線と刺突を組み合わせて横位、縦位に施す。

d種 縄紋原体圧痕を施すもの(第260図320～第261図327)

320は緩く外反する器形を呈す。2条の原体圧痕を施し、L R縄紋を横位施紋する。321はⅡ区246と同一個体。波状口縁で緩く外反する器形を呈す。口縁に沿って3条の原体圧痕を施し、以下はL R縄紋を横位施紋する。波頂部下に円形の隆線を貼付する。322は緩く内湾する器形を呈す。6条の原体圧痕が確認できる。323は外反する器形を呈す。2条の原体圧痕を施し、R L縄紋を横位施紋する。欠損して判然としないが、口唇部に貼付紋の痕跡が観察される。おそらく波状隆線であろう。口唇部にも縄紋を施紋する。324は1条の原体圧痕とL R縄紋を施す。325は2条の原体圧痕を施し、L R縄紋を横位施紋する。326は尖頭状口唇を呈し、外反する器形を呈す。口縁部に無紋帯を残し、扁平な隆帯を1条めぐらす。隆帯上と隆帯下にR L縄紋を施し、隆帯に沿わせて上部は原体圧痕、下部は集合沈線を施す。327は施

紋が浅く判然としないが、口縁下に1条の原体圧痕をめぐらせ、以下、縄紋を施すようだ。口唇部に原体圧痕と思われる刻みを斜位に付す。

e種 折り返し状の肥厚口縁となるもの(第261図328～331)

328は2段の段が認められ、下端に押捺状の刻みを施す。口唇部には半載竹管押捺による刻みを付す。329はくの字状に外反する器形を呈し、屈曲部まで伸びる幅広の肥厚部をもつ。肥厚部に貝殻腹縁紋を施す。330は外反する器形を呈し、肥厚部の下端に半載竹管内皮による刺突を横位にめぐらす。肥厚部下はL R縄紋を横位施紋する。331は肥厚部の下端に刻みを付す。肥厚部下にロッキングを施す。

第8類 大木系土器(第249図6、第261図332～346)

a種 大木5式(第261図332～338)

332は集合沈線による縦位展開モチーフといった諸磯c式の紋様構成をとり、2個一対のボタン状貼付紋と振幅の大きい波状素浮線を貼付する。333は横位集合沈線と縦位展開するモチーフを施し、縦位2条の結節浮線、ボタン状貼付紋、波状素浮線を貼付する。332、333ともに下鳥式を基盤にしているといえよう。334は緩く外反する器形を呈す。横位に集合沈線を施し、波状素浮線を貼付する。335は縦位集合沈線を施し、波状素浮線を貼付する。336は口縁部でくの字状に外反する器形を呈す。地紋にL R縄紋を横位施紋し、波状素浮線と2個一対のボタン状貼付紋を貼付する。337はR L縄紋を地紋とし、波状素浮線を貼付する。338は地紋にL R縄紋を施し、2条の鋸歯状太沈線をめぐらす。

b種 大木6式(第249図6、第261図339～346)

6は球胴形の深鉢で、口縁に大ききの異なる小突起を付す。口縁部紋様帯には、太沈線により円形や矩形のモチーフを描き、三角形や矩形の印刻を施す。屈曲部と胴部下半に横位沈線をめぐらせて胴部紋様帯を区画し、太沈線により円形や三角形のモチーフを描く。余白の中央に三角形の印刻を施す。胴部紋様帯下はL Rの結節縄紋を横位施紋する。339は

II 縄紋時代の調査

小波状口縁を呈す。口縁部に浅い掘り込み部を設け、細めの結節浮線と鋸歯状素浮線を貼付する。厚い器壁である。340は口唇外面が肥厚する。太沈線を横位多段に施す。341は小波状口縁で、緩く外反する器形を呈す。竹管外皮によるような刺突列を2段と沈線を施す。口唇部に刻みを付す。342は外反する器形を呈す。口縁部に無紋帯を成形し、斜位に刻みを付した隆線を口縁に沿ってめぐらす。343、344は同一個体で、球形深鉢の胴部と思われる。2条の沈線で曲線モチーフを描き、沈線間に刺突を充填する。345は半截竹管外皮による押し状の刺突列を横位多段に施す。346は地紋にR L縄紋を施し、竹管外皮による刺突列を施す。

第9類 前期末葉から中期初頭の土器 (第261図347~357)

347はキャリバー状器形の口縁部と思われ、口縁が内湾する。折り返し状の肥厚口縁に刻みを付し、肥厚部下は横位集合沈線を施す。348も折り返し状の肥厚口縁を呈し、肥厚部に横位2段の円形刺突をめぐらす。刺突は円形竹管によるものではなく、半截竹管を組み合わせているようだ。肥厚部下は347同様、横位集合沈線を施す。349~351は口唇外面を折り返し状に肥厚させ、肥厚部下にそれぞれ斜位、縦位の集合沈線を施す。349は肥厚部の下端に三角形の彫り込みを入れる。口縁内面に段を有する。352は雲形紋を施し、余白に印刻を施す。353、354は同一個体。平行沈線をめぐらせて紋様帯を区画、紋様帯内は斜位に集合沈線を充填施紋し、横位区画紋に接するように鋸歯状平行沈線を描いて内部に印刻を施す。区画紋下はL R縄紋を横位施紋し、平行沈線を施す。355はキャリバー状の器形を呈す。屈曲部に平行沈線を施して紋様帯を区画、頸部に無紋帯を残し、上部の紋様帯に斜位の集合沈線を充填施紋する。下部の紋様帯には縦位集合沈線を充填施紋するが、斜位の平行沈線が確認できることから、雲形紋になるかもしれない。356は胴部紋様の部位と思われる、R L縄紋を縦位施紋したのち太沈線をクラン

ク状に施す。357は斜め下から押捺を加える竹管刺突を横位に連ね、多段に施す。横に連結する長方形状の隆線を貼付し、同様の刺突を沿わせる。口唇部に刻みを付し、口縁内面にも刺突列を1条めぐらす。

第10類 浅鉢 (第249図8、第262図358~370)

8は口縁が短く外反し、肩部が肥厚して張り出す器形を呈す。胴部がすぼまらず、寸削になっている。358は有紋土器であるが、土器の湾曲から判断する限り、浅鉢状の器形と判断せざるを得ない。口縁に沿って集合沈線をめぐらせ、内部は縦位や弧状の集合沈線を施す。地紋に縄紋を施す。諸磯c式であろう。359は胴部に太沈線によるモチーフが描かれている。360、361は緩く外反する器形で、口縁部も短い。362はほぼ直角に立ち上がる口縁部形状を呈す。363~366は肩付近の部位で、364~366は肩が張り出す器形を呈す。366は張り出した肩部に円孔を穿っている。367~370は胴部破片。367、368は内湾する器形を呈す。369、370は段を有し、直線的に開く器形を呈す。360、362、363、368は胎土に金雲母を含む。

第11類 縄紋施紋土器 (第249図7、第262図371~第263図391)

7は波状口縁で、口縁がくの字状に内折する器形を呈す。無節L R縄紋を横位施紋する。Ⅲ-6号住居5号埋甕が体土器と同一個体と思われる。371は緩く外反する器形を呈し、口縁端部に刻みを付す。無節L R縄紋を横位施紋する。372は口縁下に刺突をめぐらせ、L R縄紋を横位施紋する。373は外に開く器形で、口縁が短く内湾して立ち上がる。口唇外面を肥厚させて刻みを付す。R L縄紋を横位施紋する。374は外反する器形を呈し、口唇部に深めの刻みを付す。L Rの結節縄紋を横位施紋する。375は胴部下半に膨らみをもち、頸部ですぼまって口縁が開く器形を呈す。R L縄紋を横位施紋する。口唇部に鋸歯状隆線を貼付し、隆線にも縄紋を施紋する。376はR L縄紋を横位施紋し、沈線を横位に施紋する。口唇部に刻みを付す。377は外反する器形

を呈す。L R、R L 縄紋を横位施紋し、口唇部にも縄紋を施す。378は口縁から扁平な隆帯を垂下させ、折り返し状の肥厚口縁でかぶせている。肥厚部下に無節 R 1 縄紋を施す。379は口唇外面を強く肥厚させ、口唇部の平坦面に縄紋を施す。口縁下に2条の沈線をめぐらせ、沈線間に斜位の刺突を施す。以下は R L 縄紋を横位施紋する。380は R L 縄紋を横位施紋する。口唇部にも縄紋を施す。381は R L 縄紋を横位、斜位に施す。382は R L 縄紋を横位施紋する。383は無節 R 1 縄紋を施すが、上部は斜位に、下部は横位に施紋する。384は内湾する器形を呈し、R L 縄紋を横位施紋する。385、386は R L の結節縄紋、387は R L、L R の結節縄紋を横位施紋する。388は緩やかな波状口縁を呈し、結束羽状縄紋を横位施紋する。389、390は結束羽状縄紋を横位施紋する。391は口縁下に浅い凹みを設け、撚糸紋 L を斜位に施紋する。

第12類 無紋土器 (第263図392~401)

392は口縁が緩く内湾して立ち上がるもので、口縁下に刺突をめぐらす。394は口縁部に肥厚帯をもつ。395は口縁に半円形の抉りを入れる。398は横位の擦痕が顕著に認められる。

第Ⅲ群 中期前半~後期の土器

第1類 鴈坂式 (第264図402、403)

402は弧状の隆線と複数条の沈線でモチーフを構成し、沈線に沿わせるように爪形状刺突を施す。403は沈線を施し、爪形状刺突とペン先状刺突を沿わせている。

第4類 加曾利E式 (第249図9、第264図404~413)

9は胴部中程でくびれる器形を呈す。L R 縄紋を斜位気味に施し、2条の沈線を垂下させて沈線間に楕円紋を縦位に配置する。404は内湾する口縁部破片で、隆線による渦巻紋を施す。モチーフ間には R L 縄紋を充填施紋する。405はキャリバー状器形の頭部で、口縁部紋様帯を区画する横位の隆線が見ら

れる。胴部には R L 縄紋を縦位施紋する。406は波状口縁を呈し、波頂部下に隆線による凹紋を施す。407は緩く内湾する器形を呈し、口縁下に刺突列をめぐらす。沈線による曲線モチーフを描き、沈線間に R L 縄紋を充填施紋する。408は横位隆線で区画して口縁部無紋帯を成形する。隆線による弧状モチーフを描き、R L 縄紋を充填施紋する。409、411は懸垂紋や楕円状区画を施し、縄紋を充填施紋する。410は口縁部紋様帯下端の部位で、口縁部に隆線による楕円状区画、胴部に沈線による楕円状区画や懸垂紋を施す。沈線間に R L 縄紋を縦位施紋する。412は沈線で U 字状に区画し、区画内に R L 縄紋を充填施紋する。413は隆線を垂下させ、L R 縄紋を縦位施紋する。

第5類 称名寺式 (第264図414~418)

414は把手である。ワラビ手状に隆線を貼付し、円形刺突を施す。415~418は帯状沈線によるモチーフを描き、沈線間に縄紋を充填施紋する。

第6類 堀之内式 (第264図419~424)

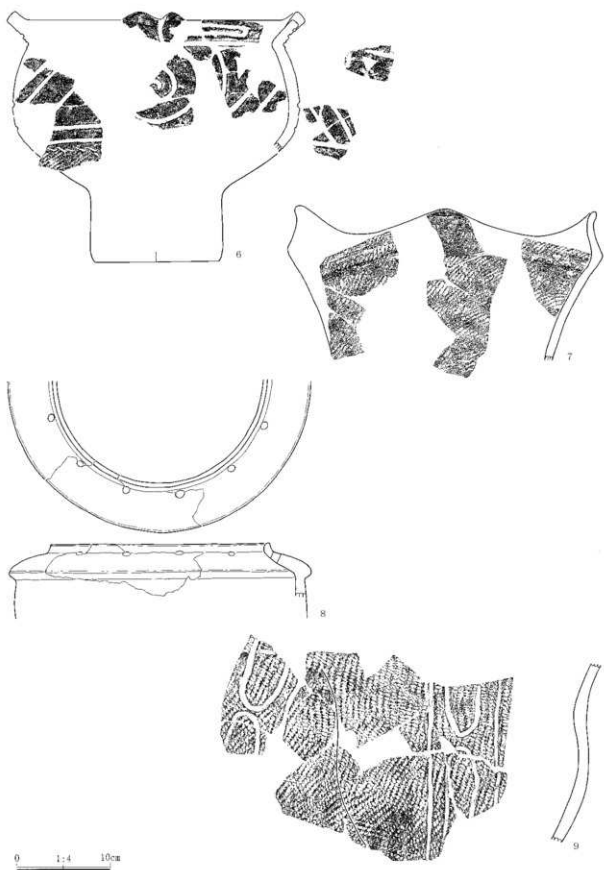
419、420は沈線による構成となる。421は頸部が屈曲する器形を呈す。屈曲部に横位沈線を施し、屈曲部上は無紋、屈曲部下は L R 縄紋を施す。422~424は注口土器である。2条の沈線や鋸歯状紋を挟んだ沈線を施す。422に注口の基部が確認できる。

ミニチュア土器 (第264図425~427)

425は推定口径6.0cmを測る。口縁が緩くくの字状に内折し、屈曲部に隆線を1条横位にめぐらす。426は集合沈線による横位区画と縦位展開する紋様構成となる。427は底部破片で底径3.9cmを測る。横位平行沈線を施す。

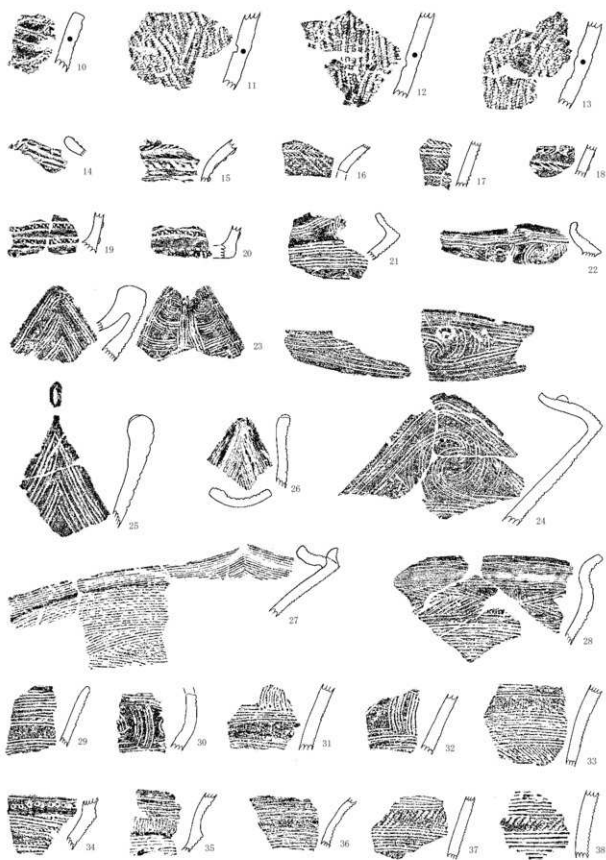


第248図 III区遺構外出土土器(1)



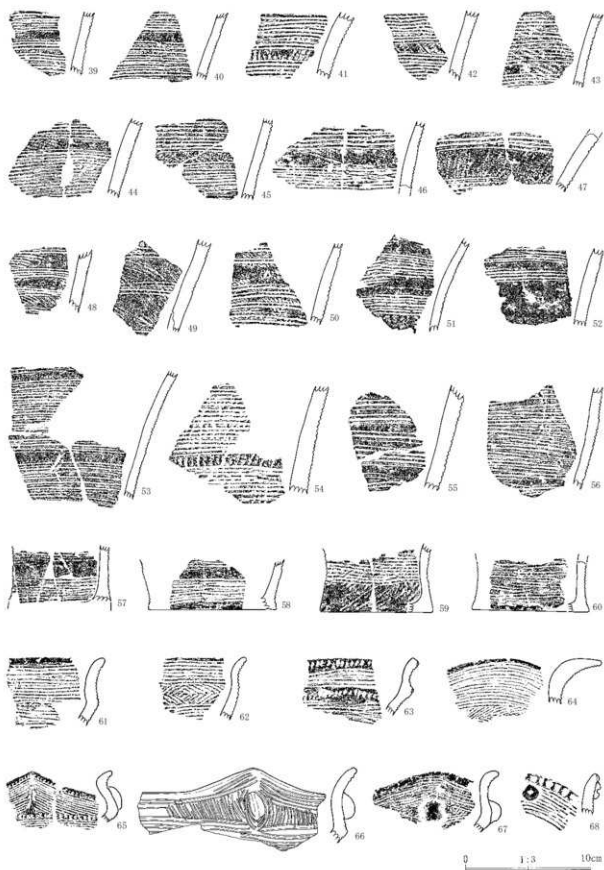
第249図 III区遺構外出土土器(2)

II 縄紋時代の調査



第250図 III区遺構外出土土器(3)

0 1:3 10cm

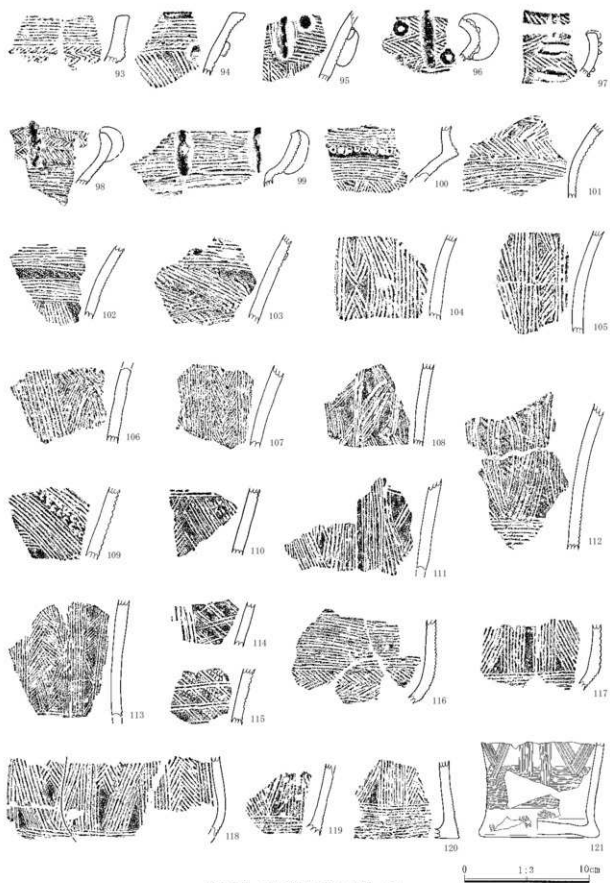


第251图 III区遺構外出土土器(4)

II 縄紋時代の調査



第252図 III区遺構外出土土器(5)

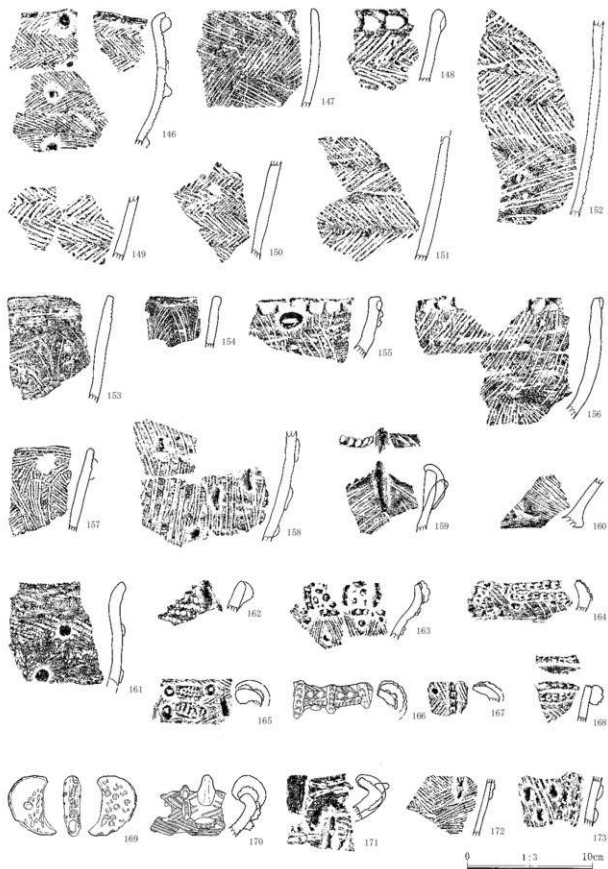


第253图 III区遺構外出土土器(6)

II 縄紋時代の調査

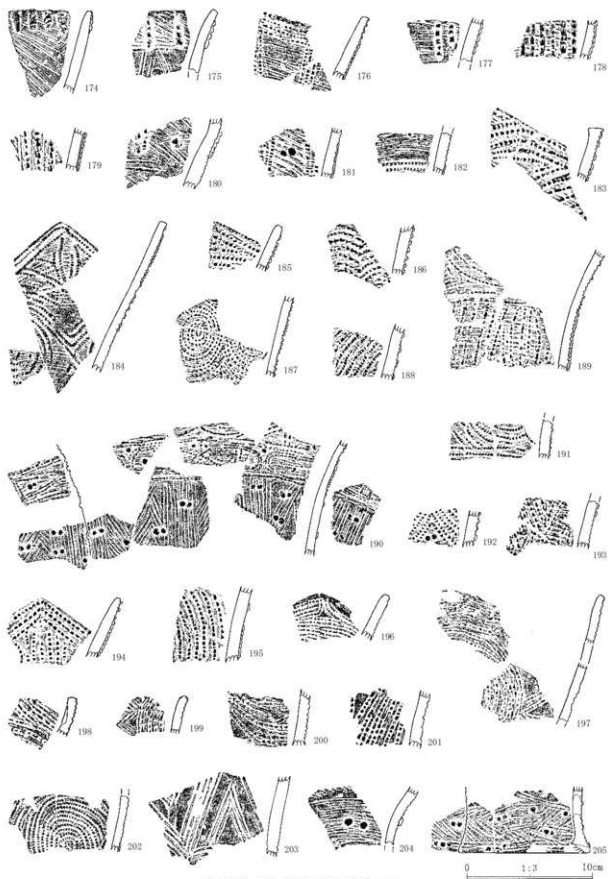


第254図 III区遺構外出土土器(7)

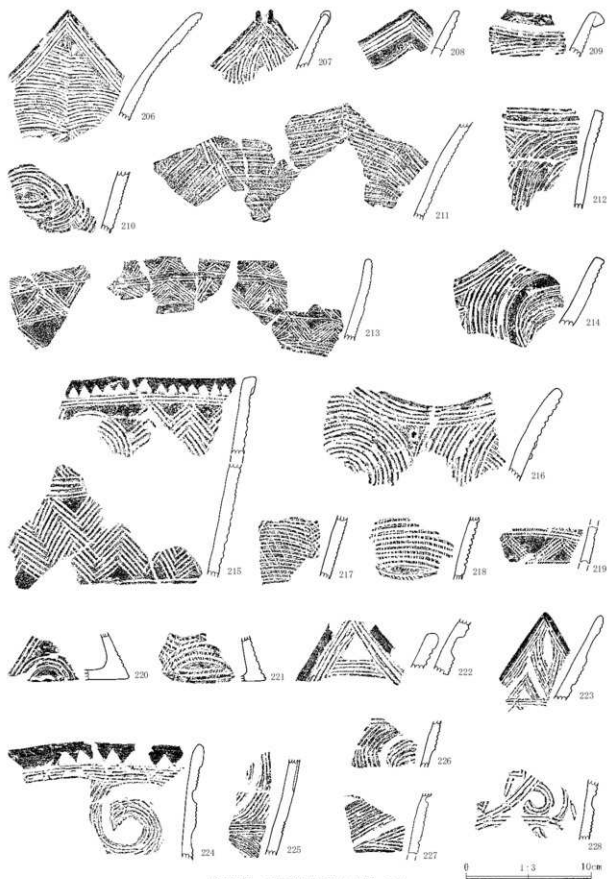


第255图 III区遺構外出土土器(8)

II 縄紋時代の調査

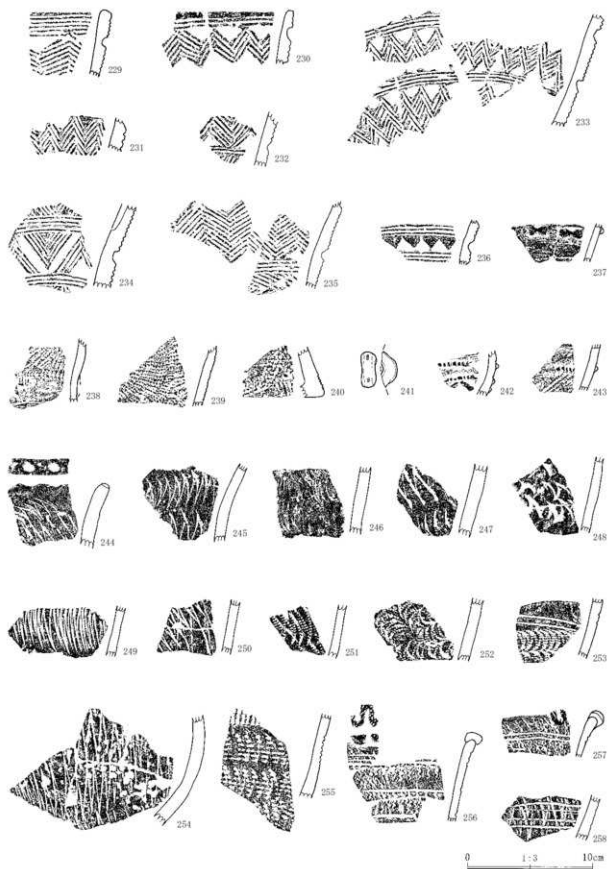


第256図 III区遺構外出土土器(9)

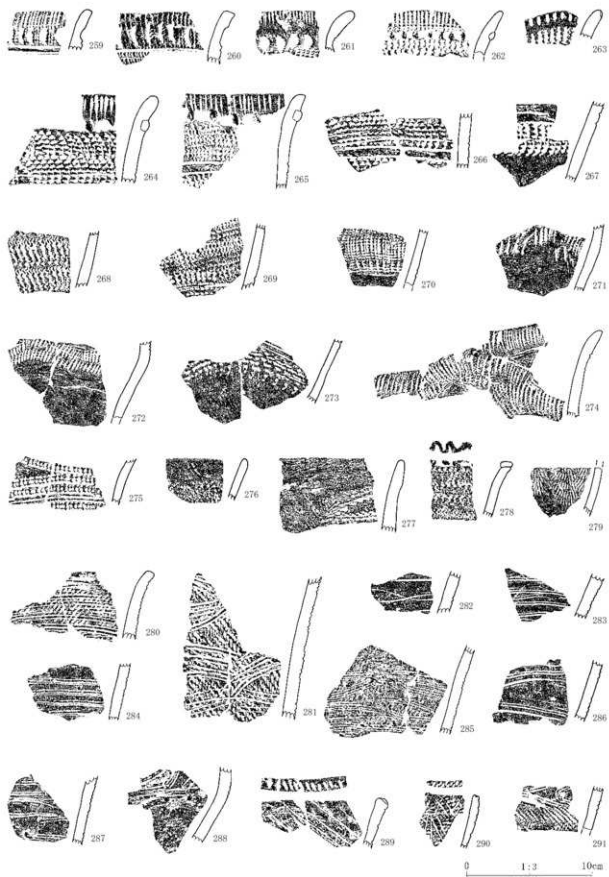


第257图 III区遺構外出土土器(10)

II 縄紋時代の調査

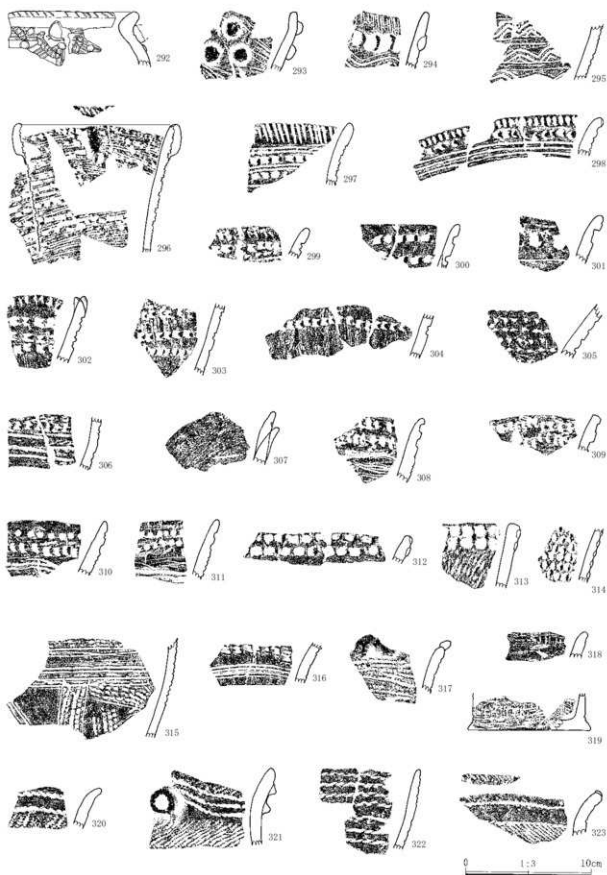


第258図 III区遺構外出土土器(11)

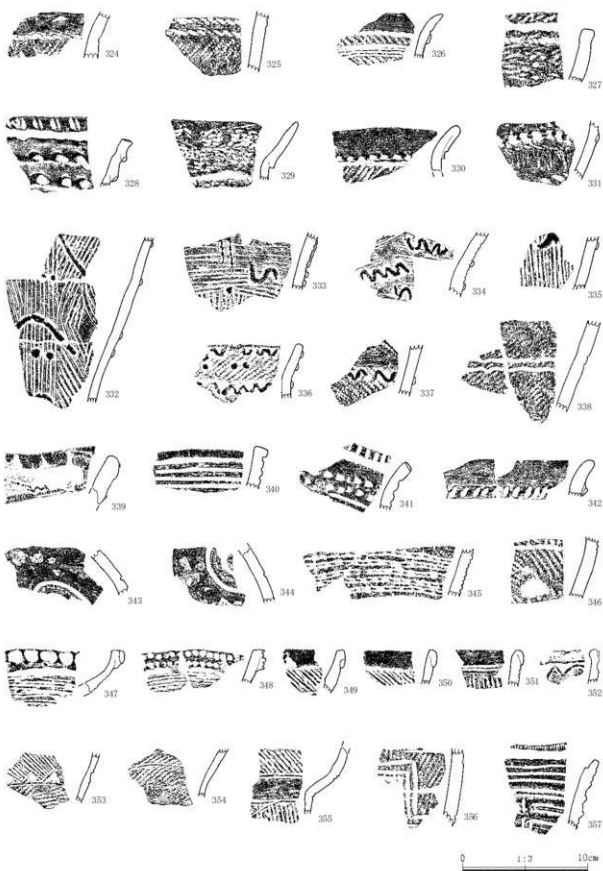


第259图 III区遺構外出土土器 (12)

II 縄紋時代の調査

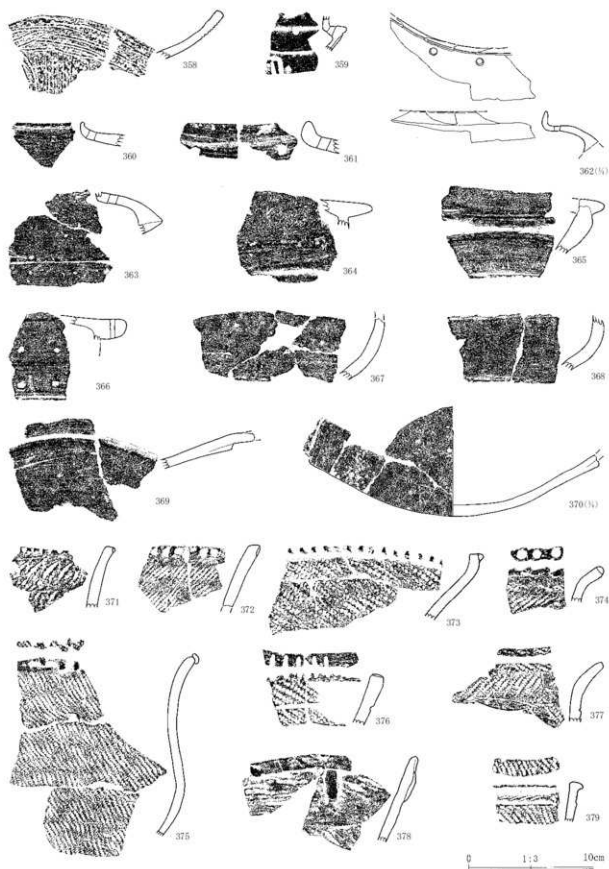


第260図 III区遺構外出土土器 (13)

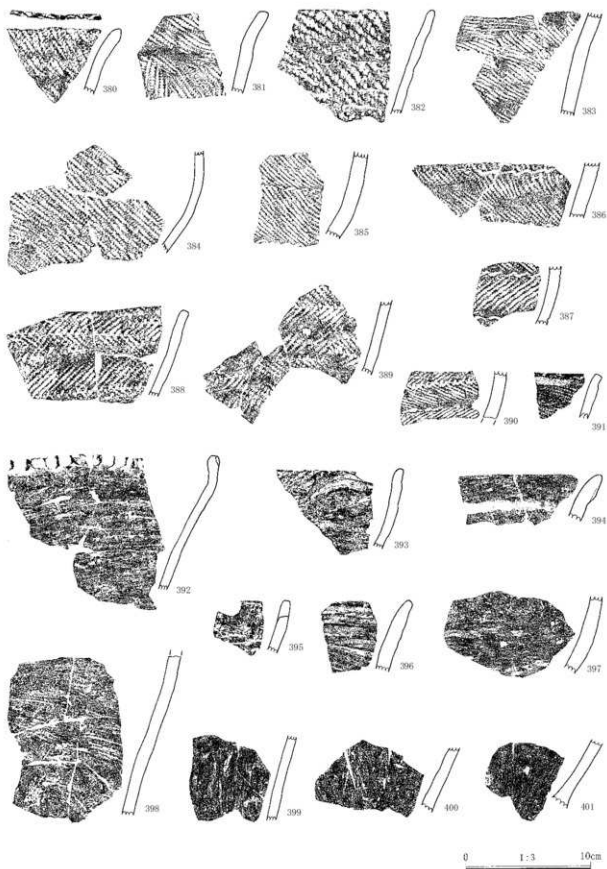


第261图 III区遺構外出土土器(14)

II 縄紋時代の調査

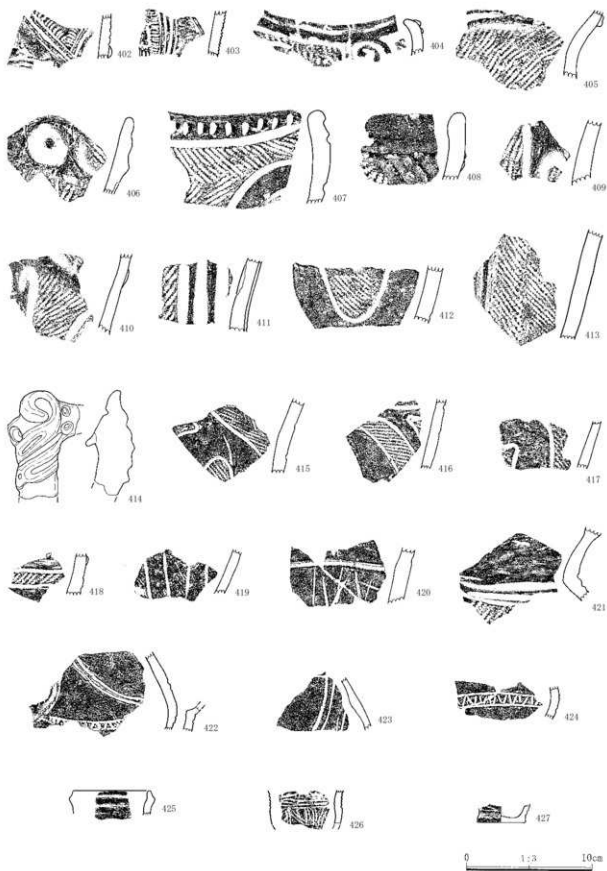


第262図 III区遺構外出土土器 (15)



第263图 III区遺構外出土土器 (16)

II 縄紋時代の調査



第264図 III区遺構外出土土器 (17)

(8) IV区出土土器

第I群 前期～中期初頭の土器**第2類** 諸磯b式(第266図7～25)**b種** 集合沈線を施すもの(第266図7～25)

7は頸部で外反し、口縁が短く内折する器形を呈す。口縁は緩い波状となる。無節L R縄紋、横位集合沈線を施す。8は口唇部内外を肥厚させて、口唇部に内削ぎ状の平坦面を成形するが加飾はしない。R L縄紋を地紋とし、集合沈線による横帯構成をとる。下端に縦位の集合沈線が見られるが、横位沈線間に充填するモチーフと思われる。9は素口縁で、口縁下から集合沈線による横帯構成となる。10、11は波状口縁で、波頂部が強く内湾する器形を呈す。口縁に沿って集合沈線を施す。12～18は集合沈線による横帯構成をとる。18は横位集合沈線間に斜位の集合沈線を充填施紋する。19、20は対向する入組紋を描くもので、横位集合沈線間あるいは波頂部下に描かれるモチーフと考えられる。ともに地紋にR L縄紋を施す。21、22は同一個体。集合沈線による横帯構成で、沈線間に弧状のモチーフを描き、弧状モチーフを鋸歯状紋で連結しているようだ。23は頸部で屈曲する器形を呈す。頸部に刺突をめぐらせ、口縁部紋様帯には弧状、横位集合沈線を施す。24、25は底部破片で横位集合沈線を施す。

第3類 諸磯b式～c式の過渡的なもの(第266図26～33)

26は波状口縁で、波頂部が内湾する器形を呈す。口縁に沿って集合沈線を施し、波頂部下にはV字状モチーフを描く。波頂部下にボタン状貼付紋を貼付し、その下に透かしを入れている。口縁端部に刻みを付す。27は波状口縁で、波頂部が内湾する器形を呈す。口縁に沿って集合沈線を施し、波頂部下に貼付紋を貼付する。28は内湾する波状口縁の波頂部下の部位と思われる。波頂部下に菱形モチーフを描き、貼付紋を貼付する。29は口縁部に横位集合沈線を成形し、その下に矢羽根状集合沈線を施す。口

縁端部の刻みは浅く細かい施紋である。30、31は波状口縁を呈し、波頂部に対向する挟り込みを入れ、さらに内湾させている。口縁端部に刻みを付し、口縁に沿って集合沈線を施す。口端の刻みは第4類b種に共通する。32、33は同一個体。横位平行沈線により幅狭な口縁部紋様帯を区画し、斜位の集合沈線を施す。胴部紋様は縦位展開する。縦位展開する紋様構成は諸磯c式であるが、口縁部が内湾する器形は諸磯b式の伝統を残しているといえるだろう。

第4類 諸磯c式(第265図1、第266図34～第269図99)**a種** 大波状突起をもつもの(第266図34～37)

34は側縁が張り出す器形で、側縁に沿って集合沈線を施す。第2類の10、11に似るが、内面に平坦面があることに違いが認められる。35は突起の側縁が張り出す器形で、透かしをもつ。集合沈線とボタン状貼付紋を施す。36も幅狭な突起であるが、上部の側縁が張り出し、二股状になっている。側面には矢羽根状集合沈線とボタン状貼付紋を施す。37も幅の狭い突起で、側面に集合沈線を施し、ボタン状貼付紋を貼付する。

b種 口縁端部に刻みを付すもの(第267図38～48)

38は横位集合沈線、刺突列により口縁部紋様帯を区画し、内部に矢羽根状集合沈線を充填施紋する。矢羽根の接点に凹線をめぐらせ、上下にボタン状貼付紋を貼付する。39は集合沈線や矢羽根状集合沈線の横帯構成であり、ボタン状貼付紋を貼付する。40は横位集合沈線を施し、円形刺突を施したボタン状貼付紋を貼付する。41は横位集合沈線間にX字状モチーフを描き、円形刺突を施したボタン状貼付紋を貼付する。両脇に縦長の貼付紋が施されていたような痕跡が認められる。42は口唇外面が肥厚する。斜位に集合沈線を施し、横長の貼付紋を貼付する。貼付紋には半截竹管内皮押捺による刺突が施される。43は緩く外反する器形を呈す。口縁部に横位集合沈線を成形し、以下、縦位展開する。横位集合沈線帯上に刻みを付した貼付紋を貼付する。44は緩く内

II 縄紋時代の調査

湾する器形を呈す。43同様、口縁部に横位集合沈線を施して、以下は縦位展開となる。縦長の貼付紋と刺突を施したボタン状貼付紋を貼付する。45は強く内湾する器形を呈し、口唇内外を肥厚させて口唇部に平坦面を成形する。口縁下に矢羽根状集合沈線を施し、以下、横位集合沈線を施す。口縁部に貼付紋を貼付する。46は緩く内湾する器形を呈す。横位沈線で区画し、沈線間に矢羽根状集合沈線を充填施紋する。47は口縁部に横位集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。口唇外面を肥厚させて大振りな刻みを施しており、他とは異質な印象を受ける。48は外削ぎ状の口唇部形状を呈し、やや大振りな刻みを施す。口縁部に貼付紋を貼付した後、横位集合沈線により口縁部紋様帯を区画、紋様帯内に半截竹管を組み合わせた円形刺突を多段に施す。地紋に無筋R1縄紋をまばらに施紋する。施紋順序は貼付紋→集合沈線→円形刺突のようだ。

c種 口縁部付近のみ貼付紋を施すもの（第265図1、第267図49～62）

1は口縁に向かって開き、口縁が緩く内湾する器形を呈す。横位集合沈線によって幅狭な口縁部紋様帯を区画、縦位鋸歯状集合沈線を施し、3個1単位の貼付紋を貼付する。胴部紋様には縦位展開するモチーフが見られる。49は胴部上位で外反し、口縁が緩く内湾する器形を呈す。口縁部に横位集合沈線帯を施し、斜位の集合沈線帯で画す。以下、さらに幅広い横位集合沈線帯を施し、胴部紋様帯は縦位展開する。口縁部に貼付紋を貼付する。50は緩く内湾する器形を呈し、やや肥厚する。横位集合沈線を施し、ボタン状貼付紋を貼付する。51は頭部で屈曲し、口縁が内湾する器形を呈す。頭部に横位集合沈線を施して紋様帯を区画、口縁部紋様帯に縦位鋸歯状集合沈線、ボタン状貼付紋を施す。頭部に半截竹管内皮による刺突をめぐらせて再区画する。53、54は縦位展開する胴部紋様で、上部に紋様帯を区画する横位集合沈線が見られる。52、55～59、61、62は胴部紋様で、縦位区画やレンズ状の集合沈線を施す。60は胴部下半の部位で膨らみをもち、底部に向かってす

まはまる器形を呈す。横位集合沈線を施して胴部紋様帯を区画、胴部紋様帯は縦位展開するモチーフを描く。

d種 貼付紋を多用するもの（第268図63～79）

63、64は横位集合沈線を施し、棒状貼付紋やボタン状貼付紋などを貼付する。65は口縁が内湾する器形を呈し、口縁部に矢羽根状、以下は横位に集合沈線を施すが施紋が乱れている。口縁部に2個一對の貼付紋を施し、ボタン状貼付紋などを貼付する。66は口縁部に矢羽根状、以下に横位集合沈線を施し、耳たぶ状やボタン状貼付紋を貼付する。67は斜位に集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。68は内湾する器形を呈し、矢羽根状集合沈線や耳たぶ状貼付紋、短い棒状貼付紋、刺突を施したボタン状貼付紋を貼付する。69は強く内湾する器形を呈す。口縁部に縦位鋸歯状の集合沈線帯を成形し、以下、横位集合沈線を施す。口縁部に貼付紋を貼付する。70は横位集合沈線により紋様帯を区画、上位は矢羽根状集合沈線、下位は縦位展開するモチーフを描く。区画上に貼付紋をめぐらせるとともに、胴部にも貼付紋を施す。71、72は頭部の屈曲する部位。71は屈曲部に境に上位は横位集合沈線、下位は縦位展開するモチーフを描き、屈曲部に貼付紋をめぐらす。72は屈曲部に斜位の集合沈線を施す以外は、71と同様の構成となる。73は横位集合沈線を施して、以下、縦位展開するモチーフを描き、貼付紋を貼付する。横位集合沈線の部位がややすぼまり、胴部が張り出す器形のように。74～79は胴部紋様で、縦位展開するモチーフに貼付紋を施す。

e種 全面に地紋沈線を施すもの（第268図80～83）

80は口縁下から縦位鋸歯状に集合沈線を施す構成と思われる。81は口縁下に横位集合沈線を施し、以下、縦位鋸歯状集合沈線を施す。2個一對のボタン状貼付紋を貼付する。82は口縁が内折し、屈曲部に刻みを付す。屈曲部下から縦位鋸歯状集合沈線を施し、幅広い口唇部にも矢羽根状集合沈線を施す。83は縦位鋸歯状集合沈線を施し、口縁部に貼付紋を貼付する。口唇部、口縁内面の政帯部にも斜位の集合

沈線を施す。

f種 縦位区画やモチーフが崩れたようなもの（第269図84～89）

84は集合沈線を斜位や縦位にやや乱雑に施す。口唇部に半載竹管内皮押捺による刻みを付す。85は口縁が緩く内湾する器形を呈す。不規則に斜位の集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。86は細沈線により縦位や菱形モチーフを描き、貼付紋を貼付する。87は菱形に集合沈線を施すが、やや乱れている。88は外反する器形を呈す。平行沈線を斜位や横位に不規則に施す。89も平行沈線を斜位や矢羽根状に不規則に施す。

h種 縄紋地に貼付紋を施すもの（第269図90）

90は無節Lr縄紋を斜位にまばらに施す。口縁部に刻みを付し、貼付紋を貼付する。

i種 無紋地に貼付紋を施すもの（第269図91～93）

91は口縁下に円形刺突を施したボタン状貼付紋を貼付する。円形刺突は円形竹管によるものではなく、半載竹管状工具などによる押し印により施されている。92は波状口縁で、口縁がくの字状に緩く内湾する器形を呈す。波頂部はやや内湾し、波頂部下に厚みのあるボタン状貼付紋を貼付する。93は折り返し状の肥厚口縁で、肥厚部下と口唇部にボタン状貼付紋を貼付する。

j種 浮線や結節沈線を施すもの（第269図94～99）

94は内折する口縁部で、斜位に集合沈線を施し、中央に縦位凹線を施した貼付紋を貼付する。脇には半載竹管内皮による刺突を施した浮線を横位に貼付する。95は矢羽根状あるいは縦位鋸歯状に集合沈線を施す。貼付紋が大形なこと以外は94と同様の構成となる。96も内折する口縁部で、屈曲部に刺突をめぐる。口縁部に斜位の集合沈線を施して貼付紋を施したのち、半載竹管内皮による刺突を施した浮線を横位に4条貼付する。97は強く内湾する器形を呈す。縦位鋸歯状に集合沈線を施し、半載竹管内皮による刺突を施した浮線を口縁部に横位3条めぐらす。屈曲部の浮線は曲線状となり、間隙に円形刺突を施したボタン状貼付紋を貼付する。98は波状口縁を呈

し、口端部と口縁に沿って結節沈線を施す。波頂部下に貼付紋を貼付する。99は波状口縁を呈し、口縁端部に半載竹管内皮による刺突をめぐる。横位集合沈線を施し、ボタン状貼付紋を貼付する。

第5類 下島式（第269図100～第270図115）

a 1種 棒状の結節浮線を施すもの（第269図100～102）

100は縦位、斜位に集合沈線を施し、浮線を貼付する。口縁部に1条めぐらせ、以下、斜位に並列させる。浮線は乱雑で、粘土に竹管をうまくかぶせておらず、刺突になっていたり、一部ヘラ切り状を呈している。口唇部にも一部、浮線の貼付が見られる。101、102は同一個体。横位集合沈線を施し、縦位に浮線を貼付する。101には紋様帯を画すと思われる横位の浮線が見られる。

b 1種 結節浮線により幾何学モチーフを描くもの（第265図2、第269図103～109）

2は波状口縁で、緩く外反する器形を呈す。結節浮線を横位にめぐらせて紋様帯を区画、口縁部紋様帯に渦巻紋を配置し、胴部紋様帯には沈線によるモチーフを描く。口縁部紋様帯には地紋の集合沈線は見られない。103は波状口縁を呈す。波頂部下に弧状ないし渦巻状モチーフを描く。104は平縁で連弧状ないし対向する渦巻状モチーフを描く。103、104ともに結節浮線の施紋は粗い。105は2条の横位浮線で紋様帯を区画、上位は渦巻紋になると思われ、下位は斜位の結節浮線を貼付する。106は胴部紋様帯と思われ、レンズ状モチーフを描く。107は渦巻紋を描き、X字状モチーフで連結させる。108は107と同一個体で、渦巻紋の下に縦位鋸歯状の結節浮線を施す幅狭な紋様帯が入り、さらに下に斜位のモチーフとなる紋様帯が認められる。109は弧状やレンズ状モチーフを描く。余白に小形のボタン状貼付紋を貼付する。

c種 結節沈線によりモチーフを描くもの（第270図110）

110は波状口縁を呈し、波頂部下に渦巻紋を描く。

II 縄紋時代の調査

渦巻紋下は横位結節沈線で画し、以下は無紋となるかは不明であるが、少なくとも無紋帯があることは認識できる。

d種 沈線によりモチーフを描くもの(第270図111～115)

111はレンズ状紋や弧状集合沈線を施し、ボタン状貼付紋を貼付する。112は矢羽根状集合沈線を施し、2個一対のボタン状貼付紋を貼付する。113～115は底部破片で、いずれも底部が張り出す器形を呈す。113は縦位矢羽根状の集合沈線を施し、平行沈線で区画する。114は111と似たモチーフとなる。余白にボタン状貼付紋を貼付する。115は縦位区画の部分と見られ、2個一対のボタン状貼付紋を貼付する。

第6類 前期末葉の土器(第265図3、4、第270図116～第271図161)

a種 集合沈線を主紋様とし、印刻を施さないもの(第265図3、第270図116～124)

3は胴部下半でくびれる器形を呈しており、そのまま張り出す底部へと移行すると思われる。口縁から1本書きの沈線を垂下させて縦位分割し、縦位分割線を基準として対向する連弧状集合沈線を描く。くびれ部以下は無紋となるようである。116は波状口縁を呈し、口縁に沿って条線状の集合沈線を施す。117は対向する連弧状集合沈線の凹状の部位である。118、119は平口縁で、横位鋸歯状集合沈線を多段に施すモチーフと思われる。120はくの字状に屈曲する器形で胴部が丸みを帯びるため、球筒形の器形と思われる。横位集合沈線とV字状集合沈線を施す。おそらく横位鋸歯状になるのだろう。121も横位鋸歯状集合沈線を横位多段に施す。122は集合沈線により、菱形状や弧状など幾何学的なモチーフを描く。123、124は底部破片。123は横位鋸歯状の集合沈線を施す。124は平行沈線を帯状に施し、貝殻と思われる工具により格子目状に刺突する。

b種 集合沈線を主紋様とし、印刻を施すもの(第265図4、第270図125～141)

4は推定口径9.6cmを測る。折り返し状の肥厚口縁で、下端を彫り取って鋸歯状紋を作成する。結節沈線による鋸歯状紋を横位多段に施す。125は波状口縁を呈し、口唇外面をやや肥厚させ、波頂部下に貼付紋を貼付する。円状紋など幾何学的なモチーフを描き、余白に印刻を施す。貼付紋と肥厚部に結節凹線列を施しており、d種との関連がうかがえる。126は大波状口縁を呈し、波頂部が橋状把手になっている。口縁に沿って集合沈線を施し、区画内に円状モチーフを描く。余白に印刻を施す。波頂部内面に集合沈線と結節沈線を施す。127は波状口縁で、横位鋸歯状紋を施す。128は折り返し状の肥厚口縁で、肥厚部下に横位集合沈線、弧状モチーフを描く。129、131は同一個体。口唇外面を肥厚させて張り出す口唇部形状を呈す。口縁部に三角形の印刻をめぐらせることによって鋸歯状紋を作成し、以下の紋様帯には円状モチーフを描いて余白を彫り取る。130は口縁部に鋸歯状紋を施す。剥落した痕跡が見られることから、肥厚口縁だった可能性がある。横位鋸歯状紋を施す。132は口縁が内湾する器形を呈す。折り返し状の肥厚口縁で、下端を彫り取って鋸歯状紋を作成する。以下、鋸歯状紋を横位多段に施す。133は波頂部下の部位で、レンズ状紋が描かれていると思われる。134は波状の肥厚口縁で、下端が鋸歯状に彫り取られているようだ。135は鋸歯状紋を横位多段に施す。136は横位鋸歯状紋、137は対向する同心円状モチーフを描く。138は集合沈線を菱形状に施し、内部を彫り取る。139は印刻による鋸歯状紋を施し、結節沈線を横位、弧状に施す。140も結節沈線による構成となり、鋸歯状紋を横位多段に施すものと思われる。141は外反する器形を呈す。横位鋸歯状に結節沈線を施す。くびれ部は無紋となるようだ。139～141は結節沈線による紋様構成であり、鍋屋町式に近い様相を呈する。

c種 押圧隆帯を施すもの(第271図142)

142は押圧隆帯を複数段めぐらせ、以下横位集合沈線を施す。

e種 結節凹線を施すもの(第271図143～152)

143はトロフィー形の器形と思われる。口縁が内折し、屈曲部を肥厚させる。内折部に貼付紋を貼付し、結節凹線を施す。器面は弧状モチーフを描く。144は143と同一個体。結節凹線により渦巻状モチーフを描く。145は波状口縁と思われ、波頂部に沿って2条の隆線と集合沈線を施す。沈線の脇には印刻が施されていた痕跡が確認できる。隆線上に結節凹線を施す。146は弧状に結節凹線を施す。147はくびれる器形を呈し、結節凹線で幾何学状モチーフを描く。149は弧状モチーフを描く。150は外反する器形を呈す。148、152は橋状把手の部位。148は結節凹線をX字状に施す。152は縄紋原体圧痕や貝殻腹縁紋あるいは歯状工具による刺突を施す。151は底部破片で底部が張り出す器形を呈す。結節凹線により横位、斜位、弧状のモチーフを描く。

f種 縄紋地・無紋地に浮線を施すもの(第271図153~161)

153は尖頭状口唇で、竹管のような円筒状工具の押捺による刻みを施す。R L縄紋を地紋とし、結節浮線を横位にめぐらす。口縁内面に段を有する。154は波状口縁を呈し、口唇内面に粘土紐貼付による段を有する。無節L r縄紋を施し、結節浮線を2条施す。155は無節L r縄紋を施し、複数条の結節浮線を弧状に貼付する。156、157は同一個体。無節L r縄紋を施し、結節浮線を縦位に複数条並列させる。一部間隔を広めに空け、渦巻状の浮線を縦位に配置させる。158はR L縄紋を施し、結節浮線を横位鋸歯状、横位に施す。横位浮線間にヘラ切り状の刺突列が見られる。159は口唇部に刻みを施す口縁部破片で、弧状の浮線を貼付する。口縁内面に隆線をめぐらす。160は緩く外反する器形を呈す。結節浮線を横位多段に貼付する。161は刻みを施した隆線をめぐらす。

第7類 浮島・興津系土器(第265図5、第271図162~第273図214)

a種 貝殻紋を施すもの(第265図5、第271図162~第272図183)

5は直立する器形を呈し、口縁部に肥厚帯を成形して紋様帯とする。紋様帯内は弧状の集合沈線と半截竹管内皮による刺突を施す。紋様帯下はロッキングを横位多段に施す。口唇部に指頭押捺のような刻みを付す。浮島Ⅲ式であろう。162~169はロッキングを施す。162は波状口縁で折り返し状の肥厚口縁を呈し、下端を彫り取って鋸歯状紋を作出する。ロッキングを横位多段に施す。肥厚部にも施している。163も折り返し状の肥厚帯をもつ。肥厚部下から横位にロッキングを施す。168はロッキングの上から沈線を斜位に施す。170は口縁下に縦位短沈線帯を成形し、貝殻端部の刺突により区画する。以下はロッキングを施し、平行沈線を横位に複数段施す。171は折り返し状の肥厚口縁を呈し、下端に押捺のような鈍い刻みを付す。貝殻腹縁紋を横位に3段施し、平行沈線で区画する。口唇部にも貝殻の先端の刺突を施す。174~183は貝殻紋を施し、沈線で区画するものである。174は波状口縁で、緩く外反する器形を呈す。口縁から縦位短沈線、2段の貝殻腹縁紋を施し、1本書きの沈線で区画する。175は波状口縁を呈し、口縁が緩く外反する。貝殻腹縁紋を帯状に施し、沈線で区画する。176は貝殻の先端圧痕を施し、平行沈線で区画する。181、182は同一個体。貝殻の先端圧痕を帯状に施し、平行沈線で区画する。

b種 沈線を施すもの(第272図184~191)

184は波状口縁で、尖頭状の口唇部形状を呈す。R L縄紋を施し、集合沈線を弧状に施す。交点に貼付紋が貼付されていた痕跡が確認できる。185は無節L r縄紋を施し、平行沈線を横位、弧状に施す。186は口縁が短く外反する器形で、口唇外面をやや肥厚させる。口唇部と肥厚部に半截竹管内皮による刺突をめぐらせ、集合沈線を斜位に施す。187は尖頭状の口唇部形状を呈し、肥厚はしないが折り返し状の段を残す。段以下に、縦横に沈線を施す。188は口縁部に半截竹管内皮による刺突を1条めぐらせ、平行沈線を斜位や弧状に施す。口唇部に深めの刻みを付す。189は細沈線を縦位鋸歯状に施す。部分的に、転換点に横位に施す。190は沈線を斜格子目状に施

II 縄紋時代の調査

す。191は沈線を横位や縦位、斜位に不規則に施す。

c種 刺突を施すもの（第272図192～第273図203）

192は波状口縁を呈し、外削ぎ状の口唇部に刻みを付す。三角刺突を横位多段に施す。浮島皿式であろう。193は口縁下から縦位短沈線帯、刺突列、横位平行沈線を施す。194は口縁下に縦位短沈線を施し、抉るような深い刺突をめぐらす。以下は半載竹管内皮による刺突列を複数段に施す。195は半載竹管内皮による刺突を複数段重ねることにより、貝殻紋の効果を出しているようだ。刺突列間に平行沈線による鋸歯状紋を施す。196～198はペン先状の刺突を帯状に施して沈線で区画するもので、a種の貝殻紋を置換したものと考えられる。198は平行沈線下にR L縄紋を施す。199は緩く外反する器形を呈す。口縁下から粘土をめくりあげるような刺突を多段に施す。口縁部に貼付紋を貼付しており、諸磯c式の要素を併せもっている。200は緩く外反する器形を呈す。口縁部に横位集合沈線を施し、半載竹管内皮による刺突をめぐらせて区画する。口縁端部に刻みを付す。201、202は同一個体。縦位の集合沈線と半載竹管内皮による刺突列が交互に配される。203は刺突列を間隔を空けて横位に施す。

d種 縄紋原体圧痕を施すもの（第273図204～210）

204は緩く外反する器形を呈す。口縁部に2条の原体圧痕をめぐらせ、以下、L R縄紋を横位施紋する。205も204と同様の構成となる。206は折り返し状の段を2段有し、口縁直下に原体圧痕を施す。以下、R L縄紋を施す。207は口縁が外反する器形を呈す。口縁部に原体圧痕を1条めぐらせ、以下、R L縄紋を横位施紋する。208～210は同一個体。幅広い肥厚帯を成形し、肥厚部に複数条の原体圧痕を縦位や半円状に施す。肥厚部下はL rの結節縄紋を横位施紋する。

e種 折り返し状の肥厚口縁となるもの（第273図211～214）

211は肥厚部の下端に押捺による刻みを付し、口唇部には半載竹管内皮による刻みを施す。212は肥厚部の下端を三角形に彫り取る。213は波状口縁

を呈し、肥厚部の下端に押捺による刻みを付す。肥厚部下はR L縄紋を施す。214は波状口縁を呈し、3段の段が認められる。いずれも下端を三角形に彫り取り、鋸歯状紋を作出する。

第8類 大木系土器（第265図6、第273図215～218）

a種 大木5式（第273図215～217）

215はR L縄紋を横位施紋し、鋸歯状素浮線を貼付する。216、217は同一個体。鋸歯状の凹線を複数段と結節沈線を横位にめぐらす。地紋は判然としませんが、R L、L Rの結束羽状縄紋と思われる。

b種 大木6式（第265図6、第273図218）

6は球形深鉢で、口縁に小突起を付す。凹線によりモチーフを描き、半載竹管内皮による刺突を沿わせている。口縁部紋様帯には波頂部を中心として弧状のモチーフを配置し、胴部紋様帯には渦巻状や弧状モチーフを描く。胴部下はR L、L Rの結束羽状縄紋を横位施紋する。218は小突起をもつ口縁で、波頂部から素浮線を垂下させる。結節浮線により区画し、区画内に2条の鋸歯状結節浮線を施す。

第9類 前期末葉から中期初頭の土器（第273図219、220）

219は内削ぎ状口唇の口縁部破片。口縁下に斜位の集合沈線、その下に多段の円形刺突列を施す。北陸地方の朝日下層式の影響が考えられよう。220は横位沈線を施し、沈線の脇に刺突列を施す。

第10類 浅鉢（第273図221～227）

221は有孔鉢である。胴部が張り出す器形を呈し、口縁がくの字状に短く外反する。屈曲部下に円孔をめぐらす。222は口縁が短く立ち上がり、肩がやや張り出す器形を呈す。肩の張り出し部は丁寧に削られて成形されている。223～225は肩の部位。223は胴部に段を有する。225は丸く屈曲する。226、227は胴部破片。226はくの字状に屈曲し、227は段を有する。

第11類 縄紋施紋土器 (第274図228~242)

228は湾入する口縁形状を呈す。R L縄紋を横位施紋する。229は内削ぎ状の口唇部形状を呈し、口縁下に粗大な刻みを施す。L R縄紋を斜位に施紋する。口縁の刻みは第4類b種との関連が考えられよう。230はR L、L Rの結束羽状縄紋を横位施紋する。231は口縁に内傾する器形になるようだ。無節L R縄紋をまばらに施紋する。232は無節L R縄紋を横位、233は縦位に施紋する。234はL R縄紋を斜位気味に施紋する。235はL R、R L縄紋を横位施紋する。236は斜位に沈線を施し、以下はR L縄紋を施す。237はR L、238はL Rの結節縄紋を横位施紋する。240はL R、R Lの結束羽状縄紋、239、241、242はL R、R Lの結束羽状縄紋を横位施紋する。

第12類 無紋土器 (第274図243~255)

243は口縁が部分的に内湾する器形を呈す。第3類との関連が考えられよう。244は口唇外面が張り出す口縁部形状を呈す。245は口縁でくの字状に外反する器形を呈す。247は口唇部に刻みを付す。段にはならないが、輪積みの痕跡をわずかに残している。248はナデ調整による器面の凹凸が顕著に見られる。

第Ⅲ群 中期前半~後期の土器**第1類 勝坂式** (第275図256、257)

256はキャリバー状の器形を呈し、小突起をもつ。屈曲部に刻みを付し、沈線、円形隆帯、円形刺突を施す。257はR L縄紋を地紋とし、押し紋を2条施す。一方は蛇行する。

第4類 加曾利E式 (第275図258~262)

258は口唇内面を肥厚させ、口唇部に1条の沈線をめぐらす。R L縄紋を縦位施紋し、逆U字状の沈線を施す。259~261は垂下沈線で区画し、縄紋を充填施紋する。262は垂下隆線を施し、L R縄紋を縦位施紋する。

第5類 称名寺式 (第275図263)

263は沈線で区画し、列点を施す。

第6類 堀之内式 (第275図264~272)

264は小波状で、口縁が短く内折する。口縁に沿って1条の沈線をめぐらせ、波頂部下に円形刺突を施す。屈曲部下は3条1単位の沈線を垂下させ、R L縄紋を施す。265は緩く内湾する器形を呈す。口縁に沿って1条の沈線をめぐらせ、基点に2側の円形刺突を施す。以下、L R縄紋を施す。266は刻みを付した隆線を垂下させ、沈線を弧状に施す。267は外反する器形を呈し、沈線が縦位展開するモチーフを描く。268は複数条の沈線により、U字状モチーフを描く。269は縦位、横位、逆J字状沈線を施す。270はL R縄紋を地紋とし、横位、弧状の沈線を施す。271は横位、斜位の帯状沈線を施し、沈線間にL R縄紋を充填施紋する。272は円状モチーフを描き、沈線間にL R縄紋を充填施紋する。

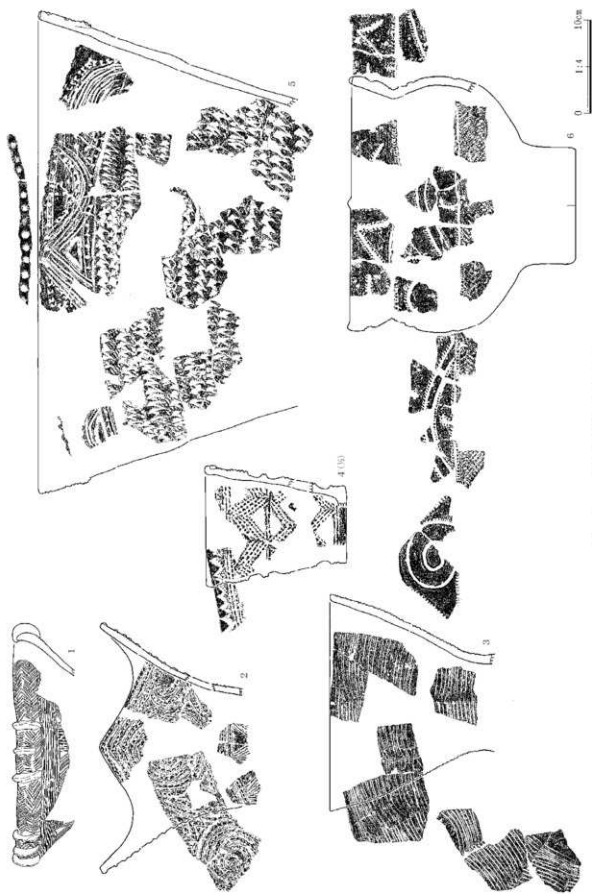
ミニチュア土器 (第275図273)

273は無紋で外反する器形を呈す。残存部の推定最大径は7.8cmを測る。

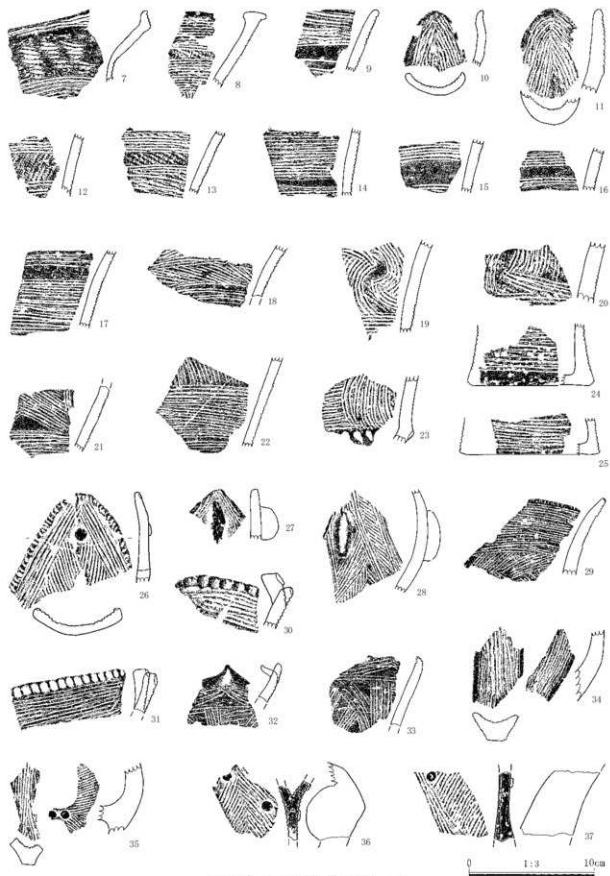
土偶 (第275図274)

795-510、840-570グリッドの包含層中から出土し、接合した。

扁平な板状を呈す。腰と思われる中央部がくびれ、肩と思われる部位と下半身が張り出す。肩の部分に刺突を施した円形の貼付紋が貼付され、腕を表現していると考えられる。その内側には、上部が剥落してしまっているが、2対の貼付が見られ、乳房を表現しているようだ。それ以外の部位についての表現は見られず、頭部や顔についても表現されない。表裏に調整痕と考えられる線条痕が見られる。長さ11.6cm、幅5.3cm、厚さ1.4cmを測る。

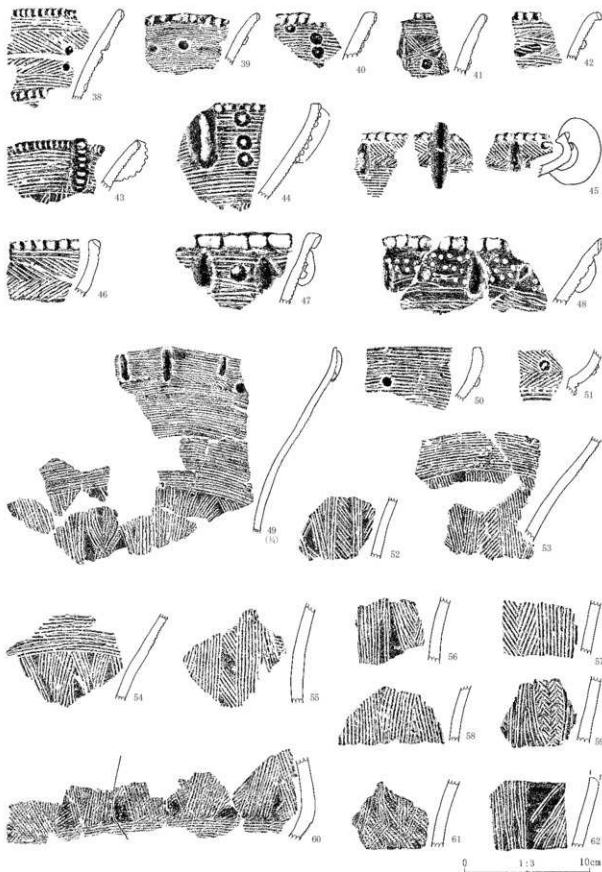


第255図 IV区遺構外出土土器(1)



第266图 IV区遺構外出土土器(2)

II 縄紋時代の調査

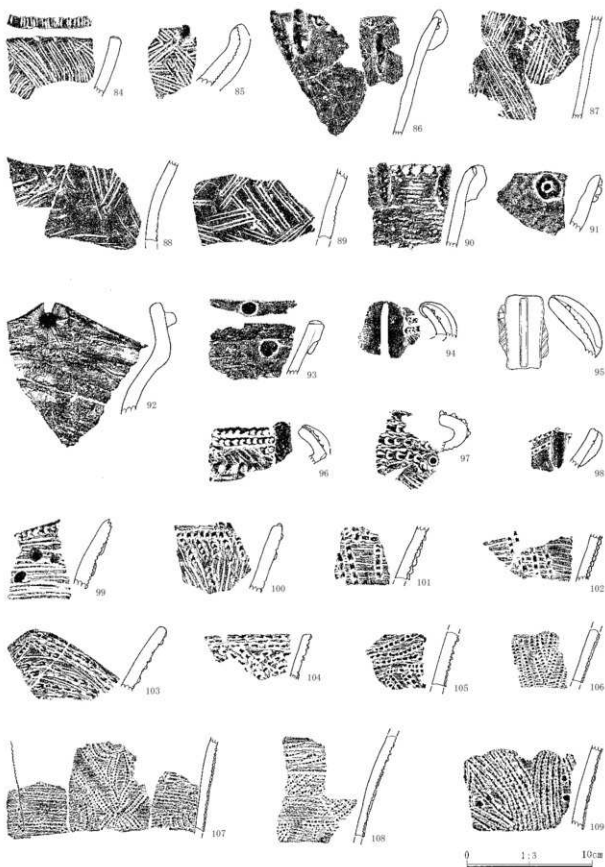


第267図 IV区遺構外出土土器(3)

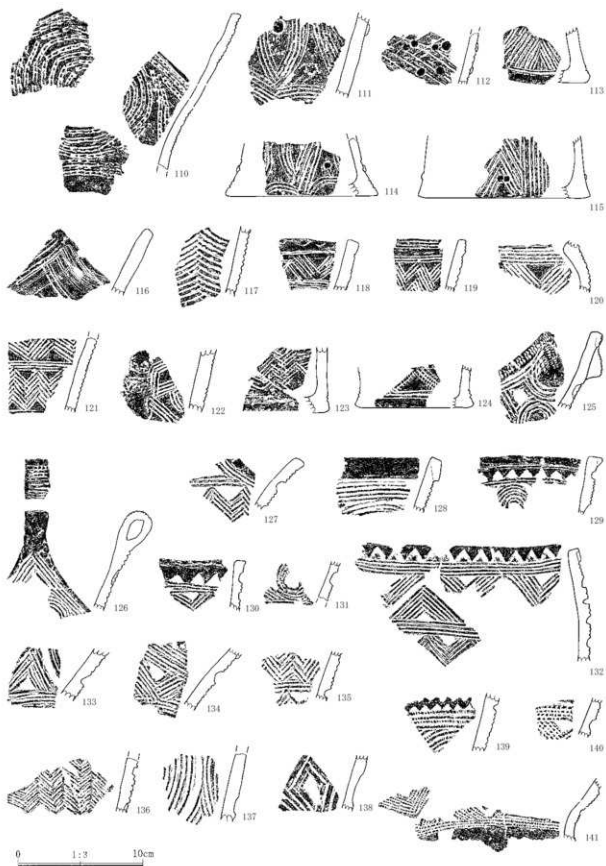


第268图 IV区遺構外出土土器(4)

II 縄紋時代の調査

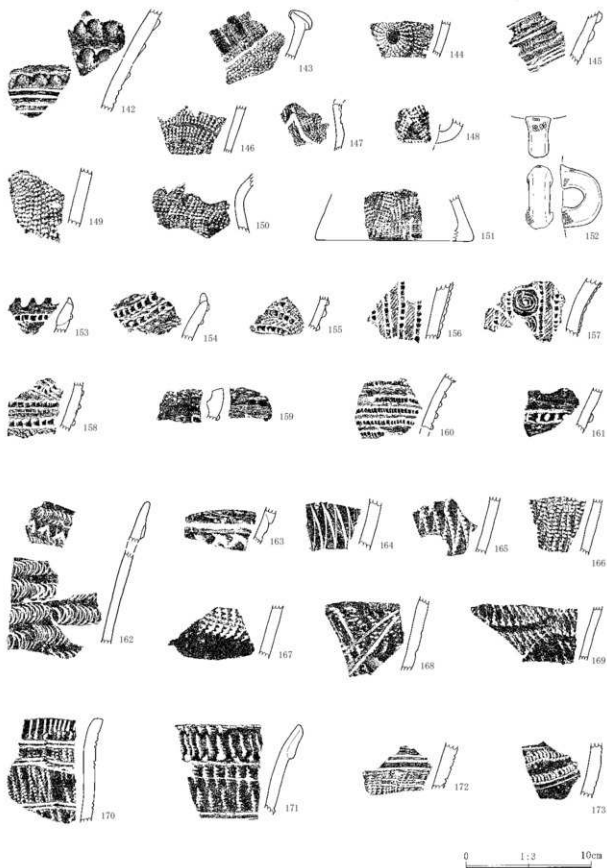


第269図 IV区遺構外出土土器(5)

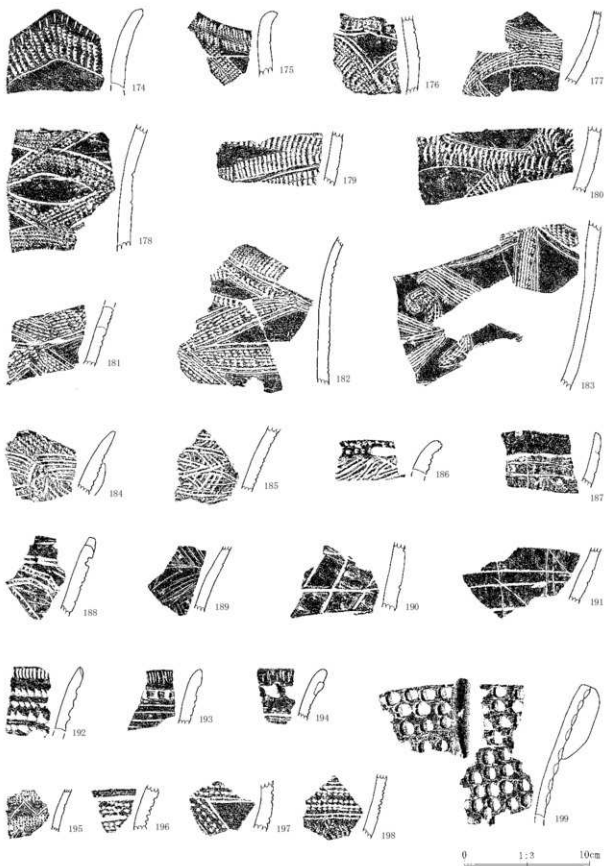


第270图 IV区遺構外出土土器(6)

II 縄紋時代の調査



第271図 IV区遺構外出土土器(7)

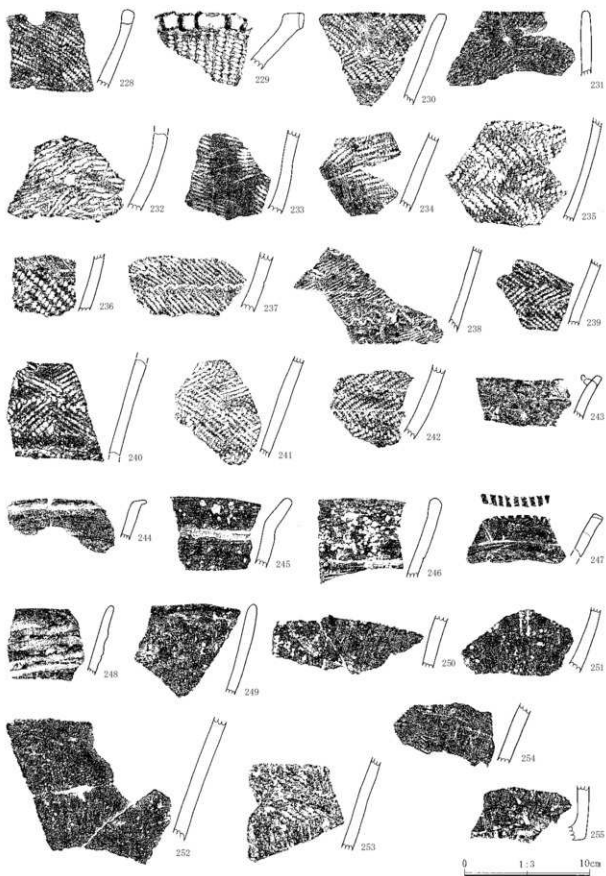


第272図 IV区遺構外出土土器(8)

II 縄紋時代の調査

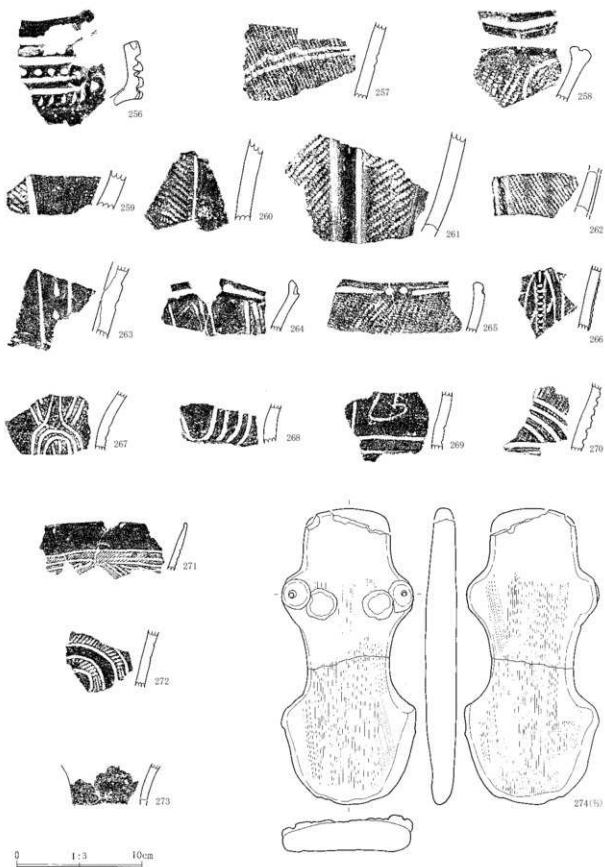


第273図 IV区遺構外出土土器(9)



第274图 IV区遺構外出土土器 (10)

II 縄紋時代の調査



第275図 IV区遺構外出土土器 (11)

(9) VI区出土土器

第Ⅱ群 前期～中期初頭の土器**第2類** 諸磯b式(第276図1)**b種** 集合沈線を施すもの(第276図1)

1は集合沈線による横帯構成となる。地紋に無筋Lr縄紋を横位施紋する。

第4類 諸磯c式(第276図2～8)**c種** 口縁部付近のみ貼付紋を施すもの(第276図2)

2は縦位区画の部位と思われ、矢羽根状と縦位の集合沈線を施す。

d種 貼付紋を多用するもの(第276図3、4)

3は胴部破片で、平行沈線により斜格子目紋を施し、貼付紋を貼付する。4は斜位に集合沈線を施し、棒状貼付紋を貼付する。口縁内面に折り返し状の肥厚帯を成形し、斜位の集合沈線と貼付紋を施す。

e種 全面に地紋沈線を施すもの(第276図5、6)

5は口縁が緩く内湾する器形を呈す。口縁下に1条横位の沈線をめぐらせて幅状無紋帯を成形し、以下は縦位鋸歯状に集合沈線を施すと思われる。口唇部に深めの刻みを付す。6も縦位鋸歯状に集合沈線を施すと思われる、単独や2個一対のボタン状貼付紋を貼付する。

g種 地紋に条線を施すもの(第276図7)

7は櫛歯状工具によるような条線を逆V字状に施し、口縁下に2個一対のボタン状貼付紋を貼付する。口唇部にも条線を施す。

j種 浮線や結節沈線を施すもの(第276図8)

8は頸部の屈曲する部位で、屈曲部上位に結節浮線を複数条横位に貼付する。一部、屈曲部下にも弧状の結節浮線を施す。屈曲部下は斜位に集合沈線を施し、棒状貼付紋を貼付する。

第5類 下鳥式(第276図9～16)**b1種** 結節浮線により幾何学モチーフを描くもの(第276図9～13)

9～11は渦巻紋を描くと思われる。12は胴部紋様

で、幾何学モチーフを描き、余白に小さなボタン状貼付紋を貼付する。13は結節浮線を斜位や弧状に施すが、無地紋であることが特徴的である。鍋屋町式に近いのかもしれない。

c種 結節沈線によりモチーフを描くもの(第276図14、15)

14は細沈線を1条垂下させて分割線とし、そこを起点として結節沈線を斜位や弧状に施す。15は渦巻状モチーフを描く。

d種 沈線によりモチーフを描くもの(第276図16)

16は口縁部と胴部の紋様帯を分割する区画紋の部位。横位集合沈線を区画紋とし、上下ともに斜位の集合沈線を施す。上位のモチーフは第6類の連弧状集合沈線かもしれない。

第6類 前期末葉の土器(第276図17～31)**a種** 集合沈線を主紋とし、印刻を施さないもの(第276図17～25)

17は波状口縁を呈し、凸状の弧状沈線を施す。波頂部に刻みを付す。18も波状口縁を呈し、波頂部にレンス状紋を描く。19は平行沈線を垂下させ、それを起点に連弧状の凸状集合沈線を施す。20は同心円紋を描くと思われる。21は凹状集合沈線の部位で、下位に紋様帯を区画する横位集合沈線が見える。22は緩く外反する器形を呈し、凸状集合沈線を施す。23も緩く外反する器形を呈す。対向する連弧状集合沈線を施し、下端を横位集合沈線で区画する。24は半隆起線状の深い沈線により、弧状モチーフを描く。小破片のため印刻が見られないが、おそらく印刻を施すものと思われる。福浦上層式に近いといえる。25は底部が張り出す器形を呈し、底部に沿って集合沈線を施す。

f種 縄紋地・無紋地に浮線を施すもの(第276図26～31)

26は浮線を口縁に沿ってめぐらせ、部分的にその浮線を小突起状にする。無地紋で、ヘラ切り浮線を横位に貼付する。27は口縁がくの字状に内折する器形を呈す。口唇部に指頭押捺によるような凹みを連

II 縄紋時代の調査

ねることにより、小波状口縁の効果を出している。結節浮線を横位多段に貼付する。28は小突起が進なる口縁と思われ、27同様、内折する器形を呈す。無地紋で、口縁に沿って結節浮線を弧状多段に貼付する。口縁内面に段が見られる。29は無地紋で、横位に結節浮線を貼付する。30は波状口縁を呈す。R L縄紋を地紋とし、結節浮線、素浮線、波状素浮線を横位多段に貼付する。口縁内側を肥厚させて口唇部紋様帯を成形し、口唇部にゾーメン状浮線を渦巻状にして貼付する。一部結節浮線によるものも見られる。真脇式であろう。31は胴部下半の影らみをもつ部位と思われる。地紋にL R縄紋を施し、結節浮線を縦位に貼付する。屈曲部で紋様は終焉し、以下無紋となる。

第7類 浮島・興津系土器 (第276図32~34)

c種 刺突を施すもの (第276図32)

32は粘土紐を渦巻状にした突起を付す口縁部破片。突起上半の接合部は整えず、また中心部は空いて透かし状になっている。欠損して判然としなが、折り返し状の肥厚帯をもっていた可能性がある。L R縄紋を施し、下部に角押状の刺突2条をめぐらす。口唇部にも同様の刺突を施す。

d種 縄紋原体圧痕を施すもの (第276図33, 34)

33は口縁部に縄紋原体圧痕を2条めぐらせ、以下無節L R縄紋を施す。34は折り返し状の肥厚口縁で、下端部を一部彫り取って鋸歯状にする。斜位に原体圧痕を施す。

第8類 大木系土器 (第277図35~40)

a種 大木5式 (第277図35~39)

35~38は同一個体。波状口縁で緩く外反する器形を呈す。斜格子目状沈線を施し、波状素浮線を貼付する。39は緩く外反する器形を呈す。L R縄紋を横位施紋し、波状素浮線と2個一対のボタン状貼付紋を貼付する。

b種 大木6式 (第277図40)

40は沈線により矩形に区画し、鋸歯状紋や原体圧痕を施す。口唇内面を肥厚させる。

第9類 前期末葉から中期初頭の土器 (第277図41)

41は紋様帯の下端の部位と思われる。縦位の沈線を横位の沈線で区画し、以下、木目状燃糸紋を施す。沈線は半隆起線状の深い施紋である。

第11類 縄紋施紋土器 (第277図42~49)

42は内削ぎ状の口唇で波状口縁を呈す。L R縄紋を横位施紋する。43, 44は折り返し状の肥厚帯をもつ口縁部破片。43はR L, 44はL R縄紋を横位施紋する。45はR L縄紋を横位施紋する。46はR L, L Rの羽状縄紋を施す。47は肥厚部の下端の部位で、L Rの結節縄紋を横位施紋する。48, 49は結束羽状縄紋を施す。

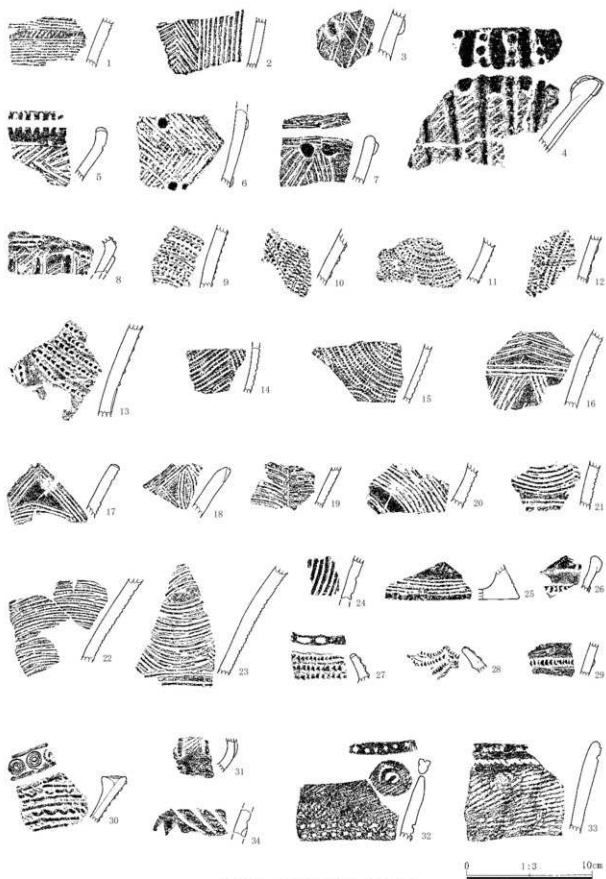
第12類 無紋土器 (第277図50~53)

50は緩く内湾、51は緩く外反する器形を呈す。

第II群 中期前半~後期の土器

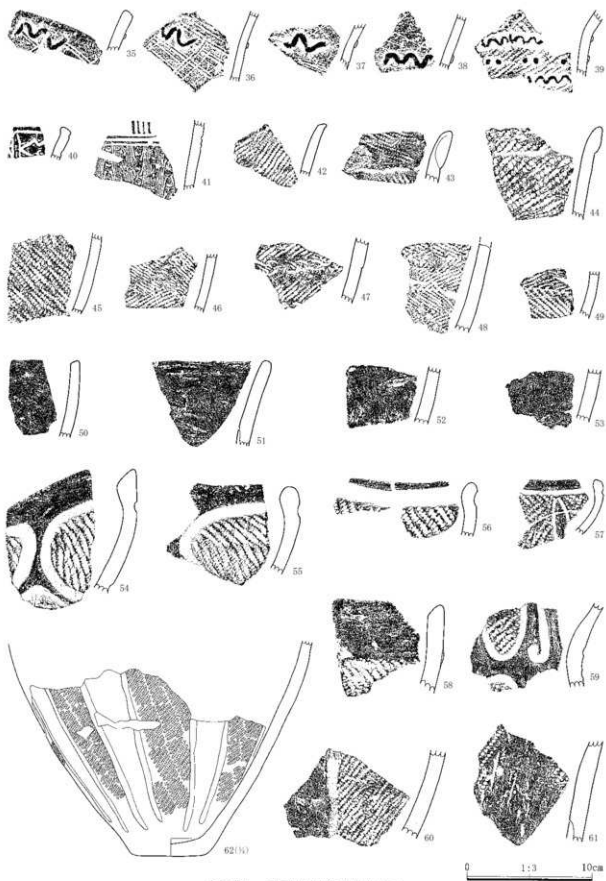
第4類 加曾利E式 (第277図54~62)

54~56は口縁部紋様帯の部位で、楕円状モチーフを描き縄紋を充填する。54は波状口縁となる。57は内湾する口縁で、口縁に沈線を1条めぐらせて幅狭な無紋帯を成形する。楕円状モチーフを描き、余白にR L縄紋を充填施紋する。58は横位隆線により口縁部無紋帯を成形、以下はR L縄紋を施す。59は外反する器形で、上下2段に楕円紋や懸垂紋を描く。60は垂下沈線とR L縄紋を縦位施紋、61は垂下沈線は施さないがR L縄紋を縦位施紋する。62は胴下半から底部の部位。垂下沈線を施し、R L縄紋を縦位施紋する。



第276图 VI区遺構外出土器(1)

II 縄紋時代の調査



第277図 VI区遺構外出土土器(2)

(10) I区出土土器

第II群 前期～中期初頭の土器**第4類** 諸磯c式(第278図1～4)**c種** 口縁部付近のみ貼付紋を施すもの(第278図1)

1は縦位区画や矢羽根状集合沈線を施す。

d種 貼付紋を多用するもの(第278図2, 3)

2は頸部で屈曲し、口縁が内湾する器形を呈す。口縁下と屈曲部に矢羽根状集合沈線を施し、口縁部紋様帯は横位集合沈線を施す。口縁部と屈曲部に縦長の貼付紋、間にボタン状貼付紋を貼付する。3は縦位や菱形に集合沈線を施し、貼付紋を貼付する。

j種 浮線や結節沈線を施すもの(第278図4)

4は口縁が内折する器形を呈し、屈曲部上に斜位の貼付紋を施す。口縁部に結節沈線を横位、斜位に施し、屈曲部下は縦位やボタン状貼付紋を貼付する。

第5類 下島式(第278図5～12)**a1種** 棒状の結節浮線を施すもの(第278図5～8)

5は緩く内湾する器形を呈す。口縁下からやや乱雑に菱形集合沈線を縦横に重ねるモチーフを施し、粗い結節浮線を全面に貼付する。口唇部に半載竹管内皮による刺突をめぐらす。6は紋様帯を画す横位集合沈線を施し、下位紋様帯には縦位展開するモチーフを施す。2個一對のボタン状貼付紋と縦位複数条の結節浮線を貼付する。7は縦位展開するモチーフを描き、縦位複数条の結節浮線を貼付する。8は緩く外反する器形を呈す。横位集合沈線を施して、以下は縦位展開するモチーフを描く。紋様の転換部に横位2条の結節浮線をめぐらせ、縦位3条の結節浮線を貼付する。

b1種 結節浮線により幾何学モチーフを描くもの(第278図9～12)

9は大波状口縁を呈し、波頂部下に対向する渦巻状モチーフを描く。半円が連結しているようであり、渦巻紋と連続紋の中間的なモチーフのようだ。10は波頂部下に渦巻状モチーフを描く。11は波頂部下にレンズ状紋を施し、以下は対向する渦巻紋となるよ

うだ。12は緩く外反する器形を呈す。結節浮線をめぐらせて横位区画し、上位紋様帯に渦巻状モチーフや斜位の結節浮線を施す。

第6類 前期末葉の土器(第278図13, 14)**a種** 集合沈線を主紋とし、印刻を施さないもの(第278図13)

13は底部が張り出す底部破片で、集合沈線により横位区画し、区画内に菱形の集合沈線を横位に連続させるモチーフを描く。

f種 縄紋地・無紋地に浮線を施すもの(第278図14)

14は無紋地に、結節浮線を横位多段に施す。

第7類 浮島・興津系土器(第278図15～19)**a種** 貝殻紋を施すもの(第278図15～17)

15はロッキングを横位多段に施す。16は胴部が膨らみ、頸部がすぼまる器形を呈す。貝殻腹縁で菱形モチーフを描き、沈線で区画する。貝殻紋は一部ロッキングとなっている。17は貝殻腹縁を充填させ、沈線で区画する。

c種 刺突を施すもの(第278図18, 19)

18は口唇内面が折り返し状に肥厚する。口縁部に刺突列を1条めぐらす。19は刺突列を横位多段に施す。破片上端に斜位の集合沈線が見られる。

第9類 前期末葉から中期初頭の土器(第278図20)

20は尖頭状の口唇部形状を呈し、横位沈線と刺突により紋様を構成する。胎土に金雲母を含む。

第III群 中期前半～後期の土器**第1類** 勝坂式(第279図21～23)

21は屈曲する器形を呈す。口縁部は無紋とし、屈曲部下に2条の隆線をめぐらす。下の隆線にのみ刻みを付す。22はくの字状に外折する器形を呈す。隆線を貼付し、角押状やベン先状押引紋を沿わせる。23は横位、弧状に隆線を貼付し、平行沈線や角押状刺突を沿わせる。

II 縄紋時代の調査

第3類 焼町土器 (第279図24)

24は隆線を弧状に貼付し、平行沈線を沿わせる。隆線の先端は瘤状突起となる。

第4類 加曾利E式 (第279図25~31)

25は口縁部破片で、沈線による楕円状区画を施し、R L縄紋を充填施紋する。26は内湾する器形を呈す。沈線により楕円状区画を施し、区画内にR L縄紋を充填施紋する。楕円状区画間に懸垂線を施す。27は波状口縁で、緩く内湾する器形を呈す。口縁部に1条の沈線をめぐらせて無紋帯を作出し、逆U字状区画を施して、区画外にR L縄紋を充填施紋する。28も内湾する器形を呈す。1条沈線をめぐらせて口縁部無紋帯を作出し、以下は条線を縦位に施す。29は垂下降線を施し、R L縄紋を充填施紋する。30は隆線によりワラビ手状モチーフを描き、余白に燃糸紋Lを施す。31は1条沈線をめぐらせて、以下、条線を縦位に施す。

第5類 称名寺式 (第279図32~36)

32は波状口縁で、口縁が内折する器形を呈す。沈線による帯状区画内に列点を施す。33、36は沈線による帯状区画内に列点を施す。34は波状口縁を呈し、口縁が内折する。波頂部下に円形刺突を施し、脇に沈線をめぐらせる。沈線による帯状区画内に列点を施す。35は沈線による帯状区画内にL R縄紋を充填施紋する。

第6類 堀之内式 (第279図37~第281図70)

37は波状口縁で、口縁が内折する器形を呈す。波頂部下に円孔を穿つ。38は波状口縁を呈し、波頂部に橋状把手を付す。波頂部に境に楕円状隆線を対称に貼付する。39は刺突を施した隆線を逆三角形に貼付し、口唇部に凹みを施す。40は口縁に2条の沈線をめぐらせ、沈線を弧状に施す。41は口縁下に1条の沈線をめぐらせ、横位鋸歯状に沈線を施す。口縁端部に斜位の刻みを付す。42は沈線で幾何学紋を描く。43は波頂部下に円形刺突を施し、それを基点

に沈線をめぐらせ、脇に斜位の短沈線を施す。屈曲部下は、刻みを付した斜位の隆線を貼付する。44はR L縄紋を地紋とし、弧状沈線を垂下させる。45は波頂部下に円形刺突を施し、脇に沈線をめぐらす。屈曲部下は、L R縄紋を施して複数条の沈線を垂下させる。46は幅狭な内折部に円形刺突を施し、沈線をめぐらす。47、51はくの字状に反する器形を呈し、口縁が短く内折する。内折部に沈線をめぐらせ、屈曲部下に沈線を施す。48は短く内折する口縁部に沈線をめぐらせ、縦位や斜位の沈線を施す。49は口縁部に弧状沈線を施す。50はL R縄紋を地紋とし、幾何学状モチーフを描く。52はR L縄紋を地紋とし、沈線を垂下させる。53~63は胴部紋様で、弧状などの沈線を施す。64、65は条線を波状や弧状に施す。66は注口土器で、注口と口縁が連結して橋状を呈す。67は橋状把手をもつ。68は口縁下に刻みを付した隆線を1条めぐらせ、沈線区画内に縄紋を充填施紋する。69、70は同一個体。2条の細隆線をめぐらせ、一部を縦位細隆線で連結させる。接点に刺突を施す。口縁内面にも沈線をめぐらせ、貼付を施す。

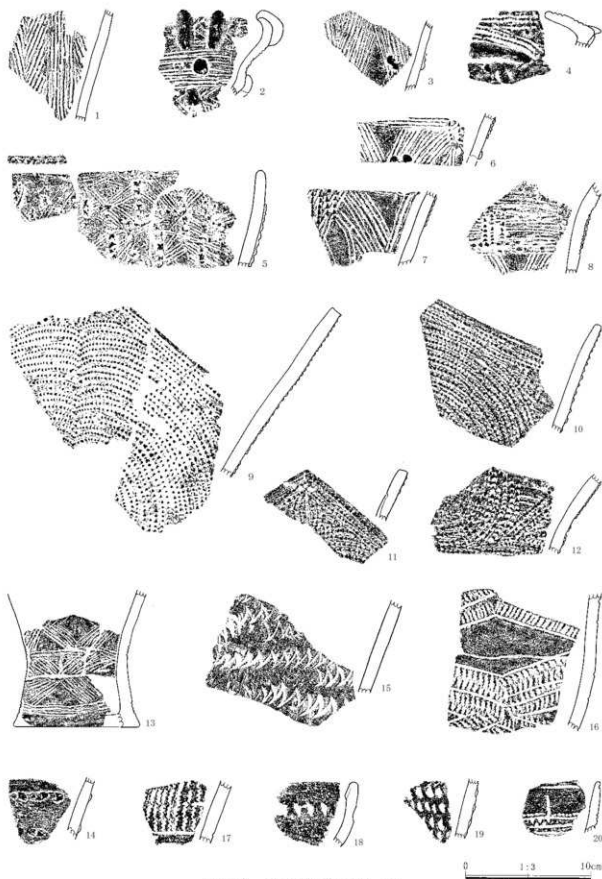
第7類 加曾利B式 (第281図71~73)

71は口唇内面が折り返し状に肥厚し、さらに口縁内面に段を有する。沈線による楕円紋を縦横に重ねる。72は口縁部に指頭押捺状の刺突を施した隆線を2条めぐらす。73は浅鉢。外面は口縁部に1条の沈線をめぐらすのみで無紋とし、内面を折り返し状に肥厚させ、沈線により幾何学紋を施す。部分的に口唇部を内湾させる。

第8類 高井東式 (第281図74)

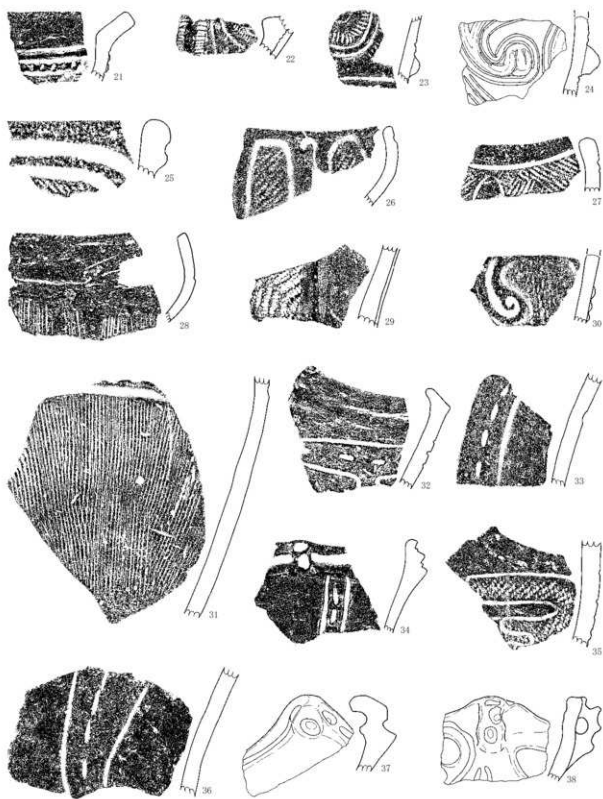
74は二股の突起で、弧状隆線と瘤状貼付を施す。隆線上に刺突を施す。

その他、無紋土器として75、76、78、79がある。78は底面に網代痕が、79は底面に指頭による押捺が顕著に見られる。77は隆線を2条横位にめぐらすので、赤色塗彩が施されている。



第278图 1区遺構外出土土器(1)

II 縄紋時代の調査



0 1:3 10cm

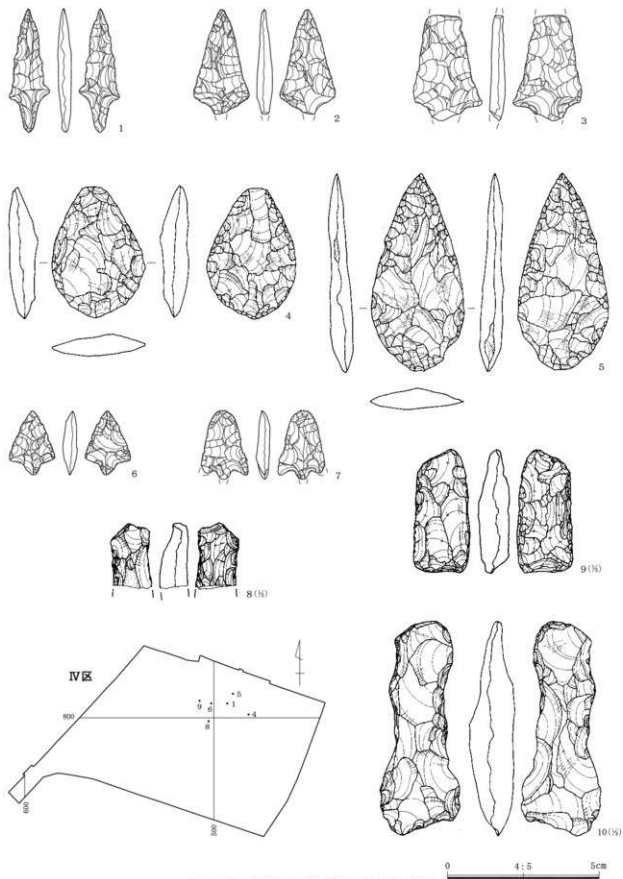
第279図 1区遺構外出土土器(2)



第280図 1区遺構外出土土器(3)

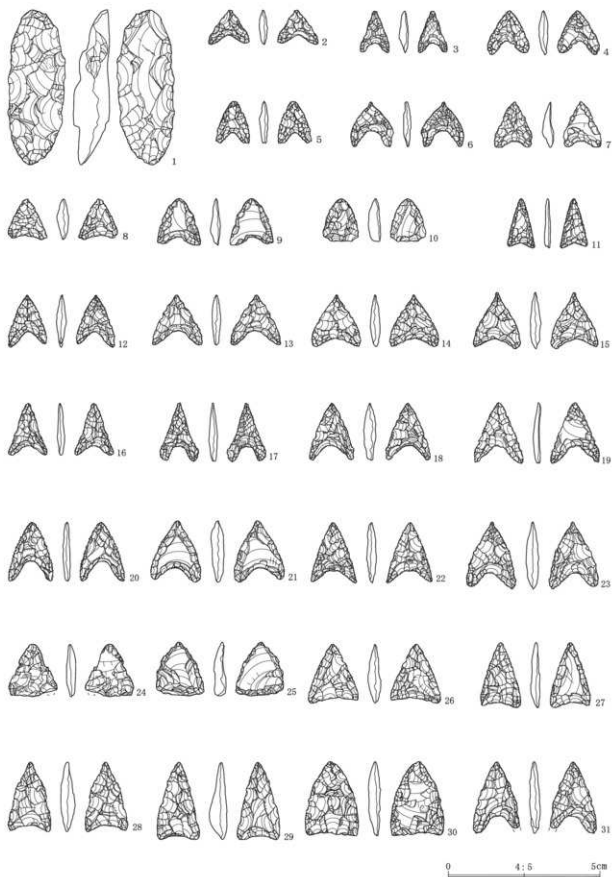


第281図 1区遺構外出土土器(4)

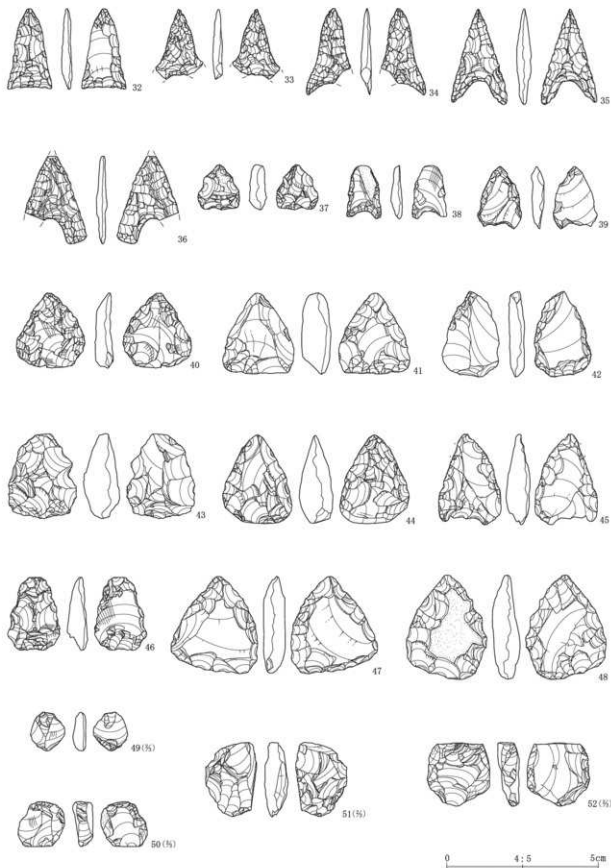


第282図 遺構外出土草創期石器と出土位置

II 縄紋時代の調査

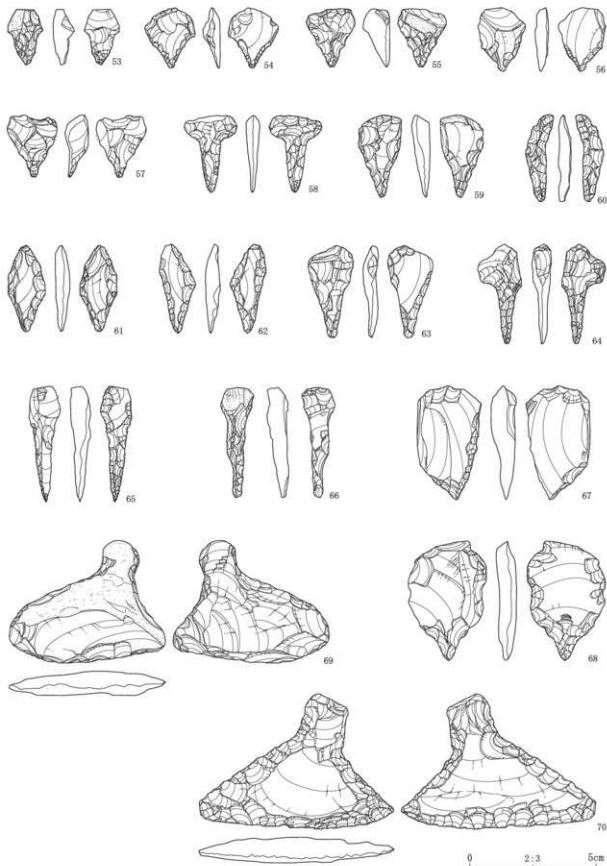


第283図 II区遺構外出土石器(1)

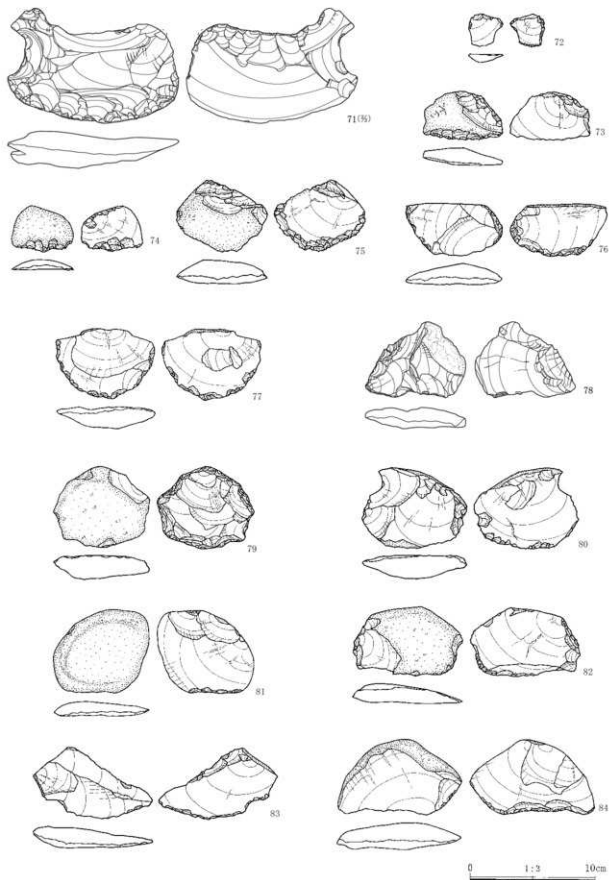


第284图 II区遺構外出土石器(2)

II 縄紋時代の調査

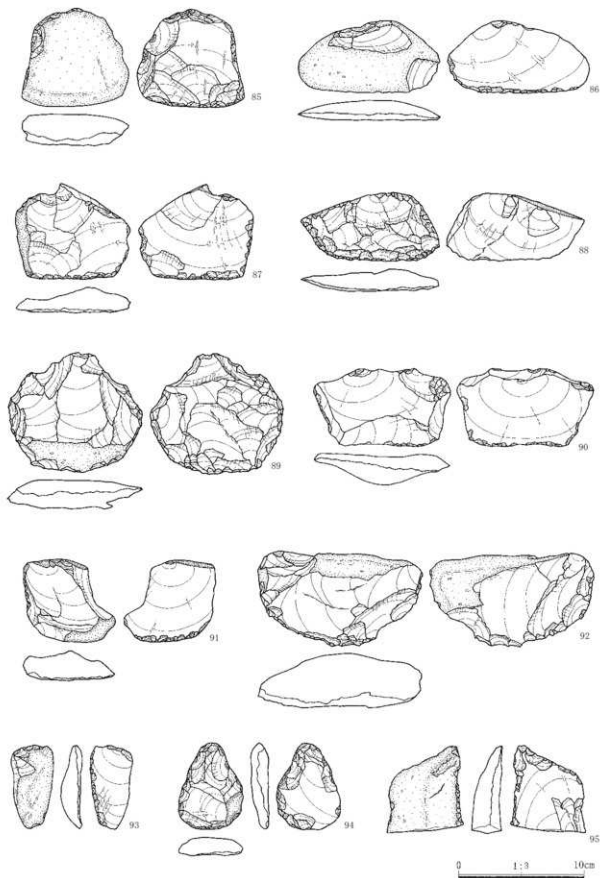


第285図 II区遺構外出土石器(3)

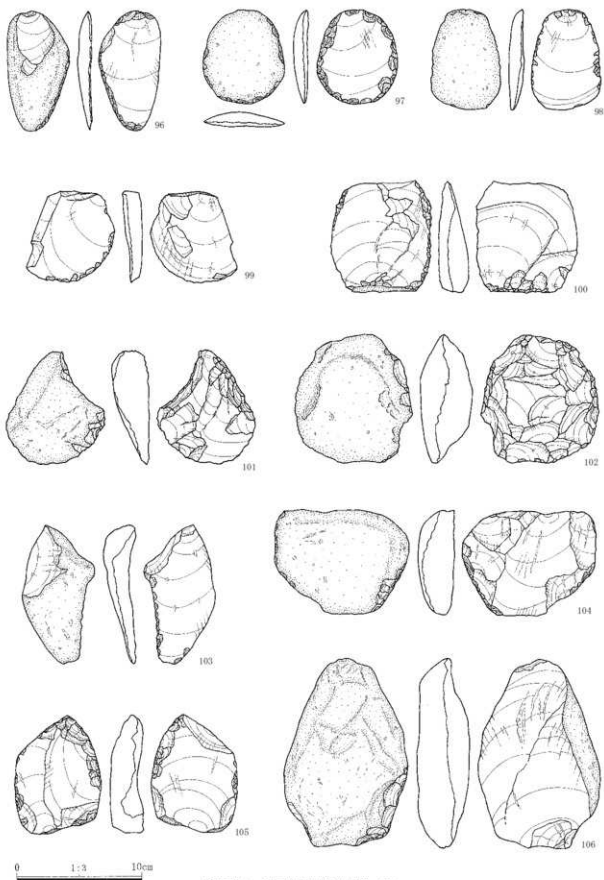


第286图 II区遺構外出土石器(4)

II 縄紋時代の調査

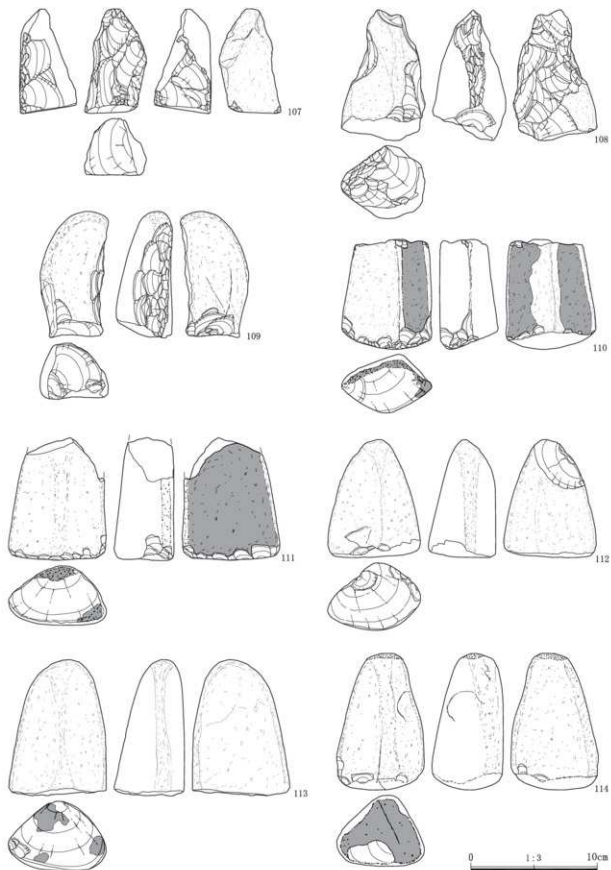


第287図 II区遺構外出土石器(5)

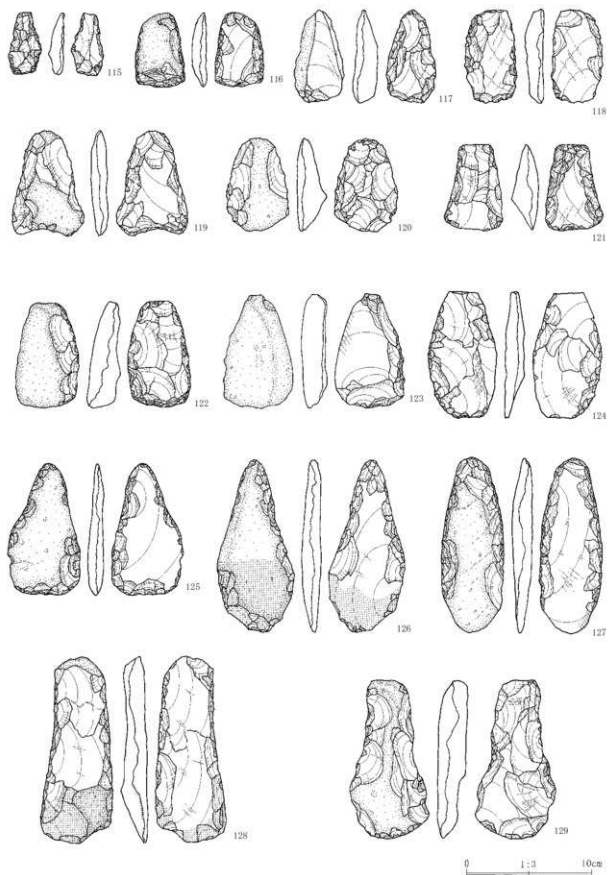


第288图 II区遺構外出土石器(6)

II 縄紋時代の調査

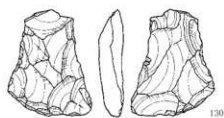


第289図 II区遺構外出土石器(7)

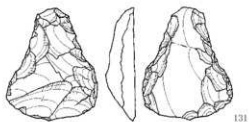


第290図 II区遺構外出土石器(8)

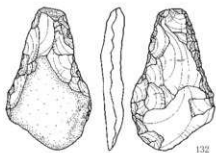
II 縄紋時代の調査



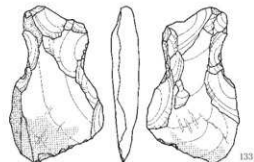
130



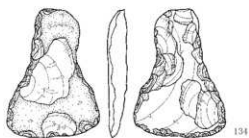
131



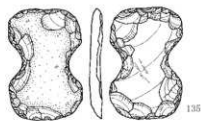
132



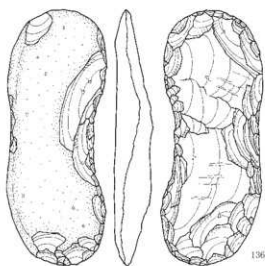
133



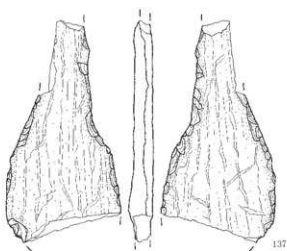
134



135



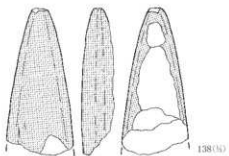
136



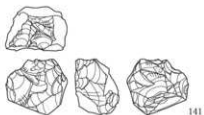
137

0 1:3 10cm

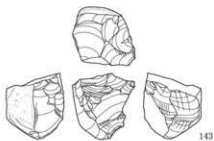
第291図 II区遺構外出土石器(9)



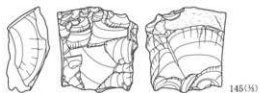
138(3)



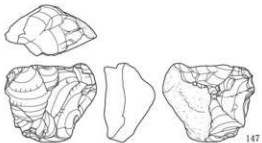
141



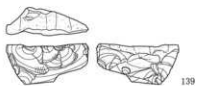
143



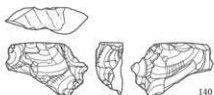
145(3)



147



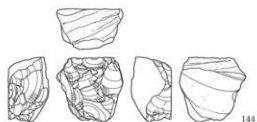
139



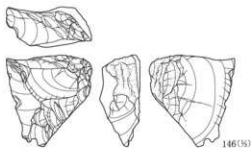
140



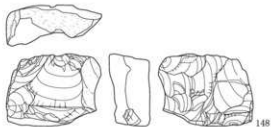
142



144



146(3)

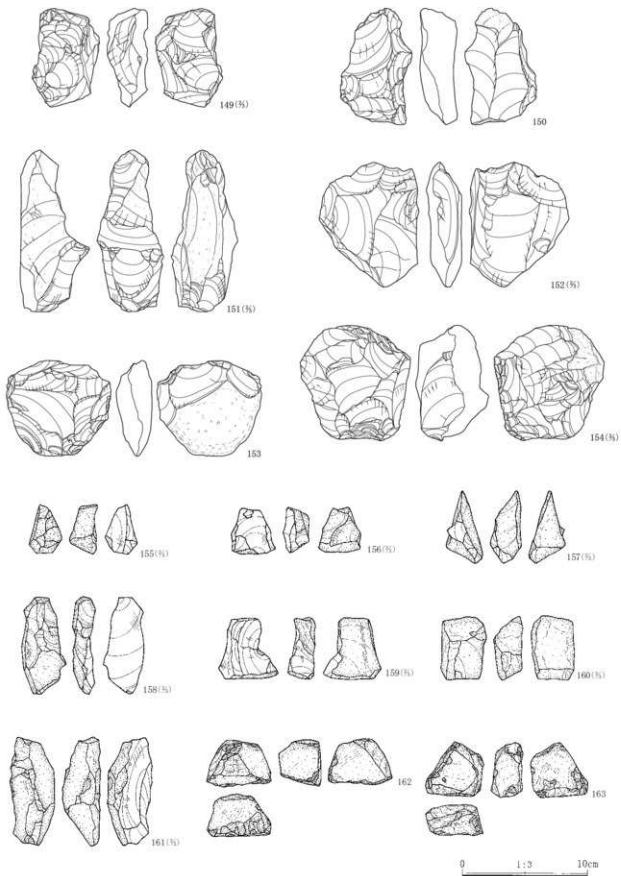


148

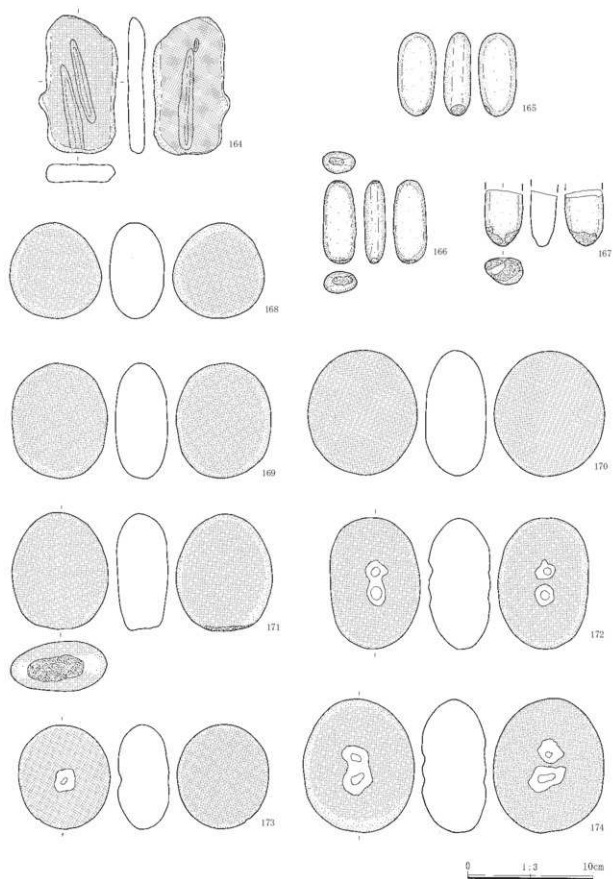
0 2:3 5cm

第292図 II区遺構外出土石器(10)

II 縄紋時代の調査

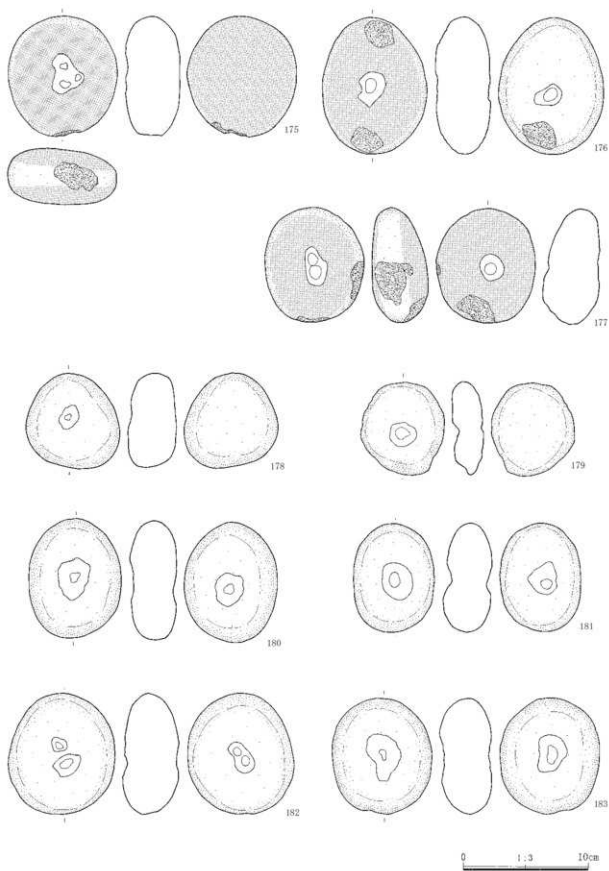


第293図 II区遺構外出土石器 (11)

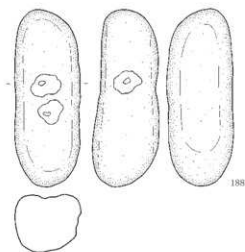
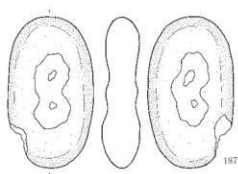
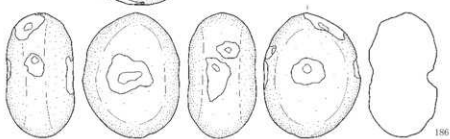
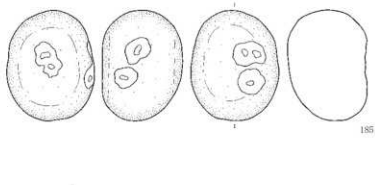
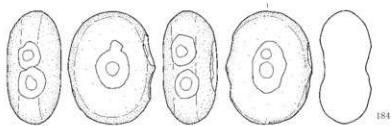


第294図 II区遺構外出土石器 (12)

II 縄紋時代の調査



第295図 II区遺構外出土石器 (13)



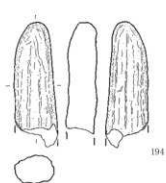
0 1:2 10cm

第296图 II区遺構外出土石器(14)

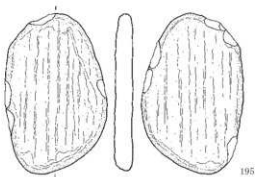
II 縄紋時代の調査



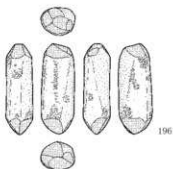
第297図 II区遺構外出土石器 (15)



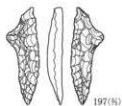
194



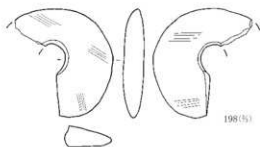
195



196



197(3)

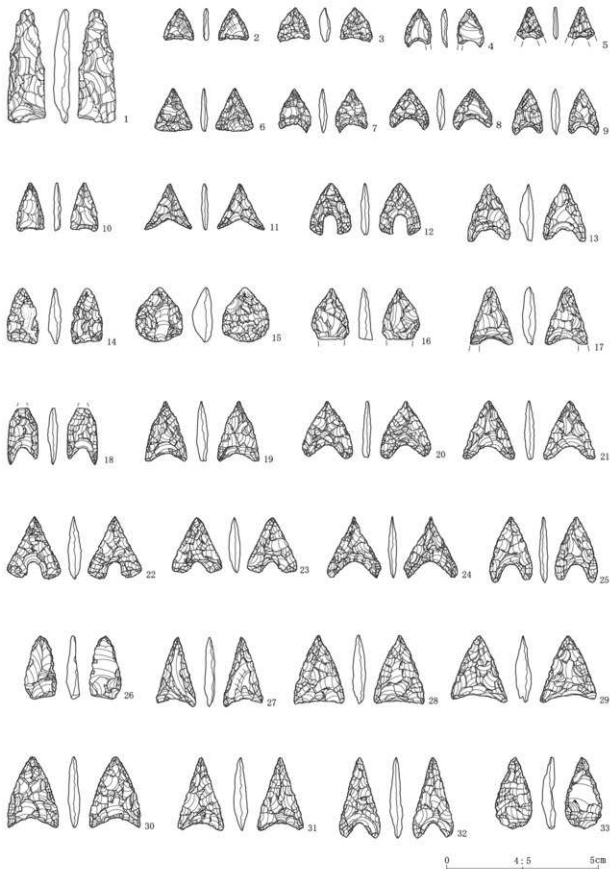


198(3)

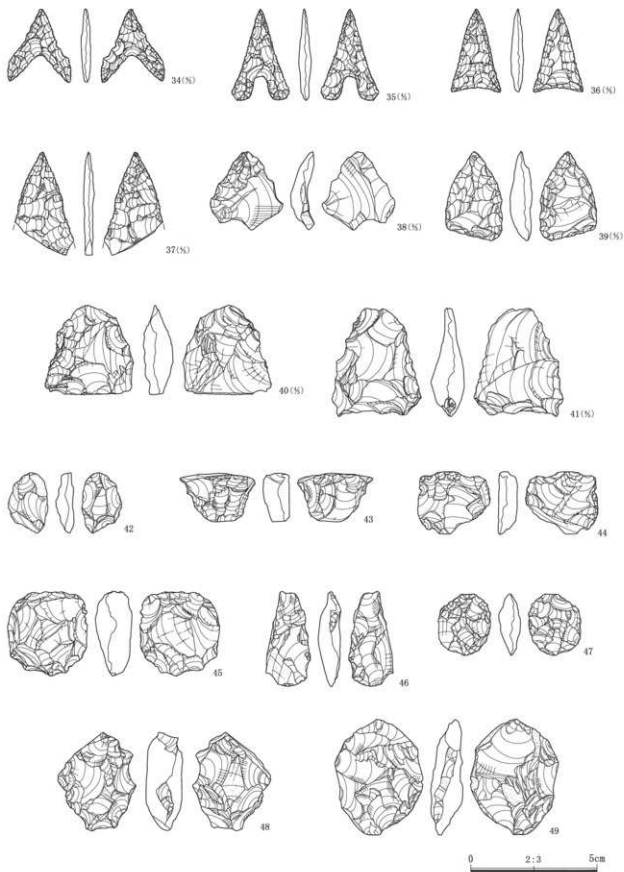
0 1:3 10cm

第298図 II区遺構外出土石器(16)

II 縄紋時代の調査

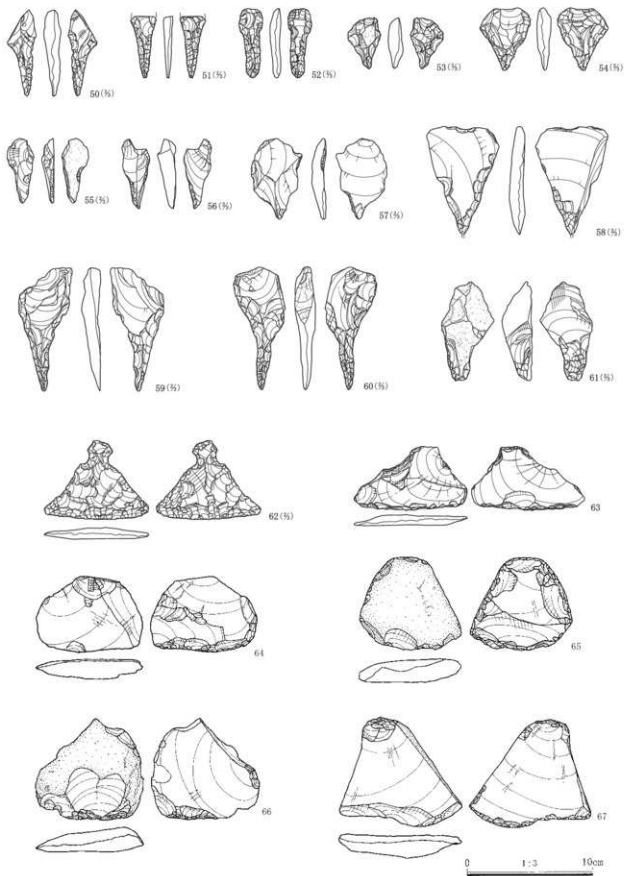


第299図 III区遺構外出土石器（1）

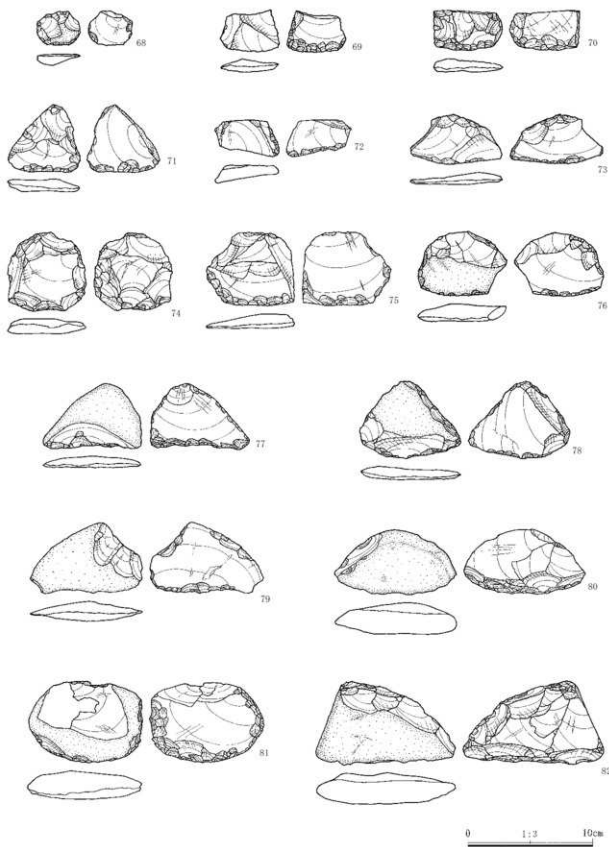


第300图 III区遺構外出土石器(2)

II 縄紋時代の調査

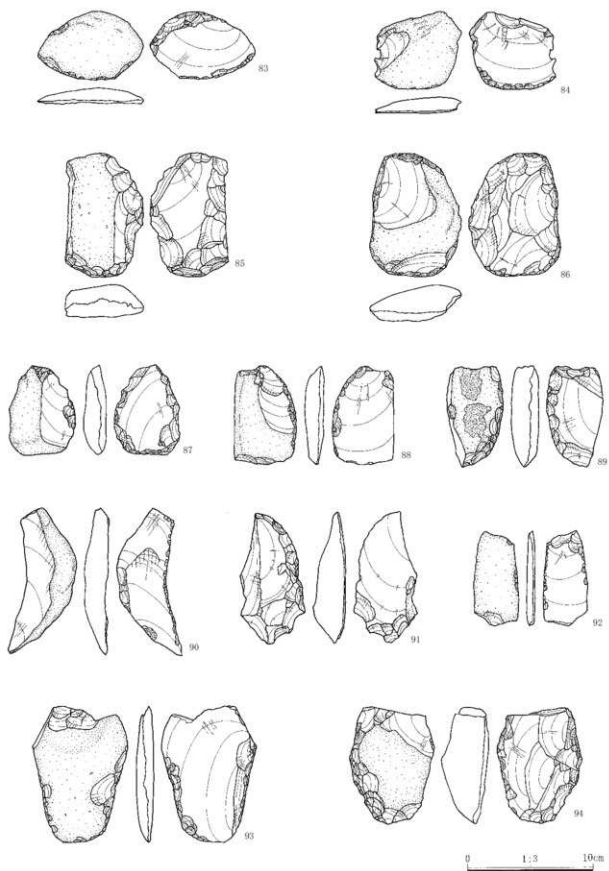


第301図 III区遺構外出土石器(3)

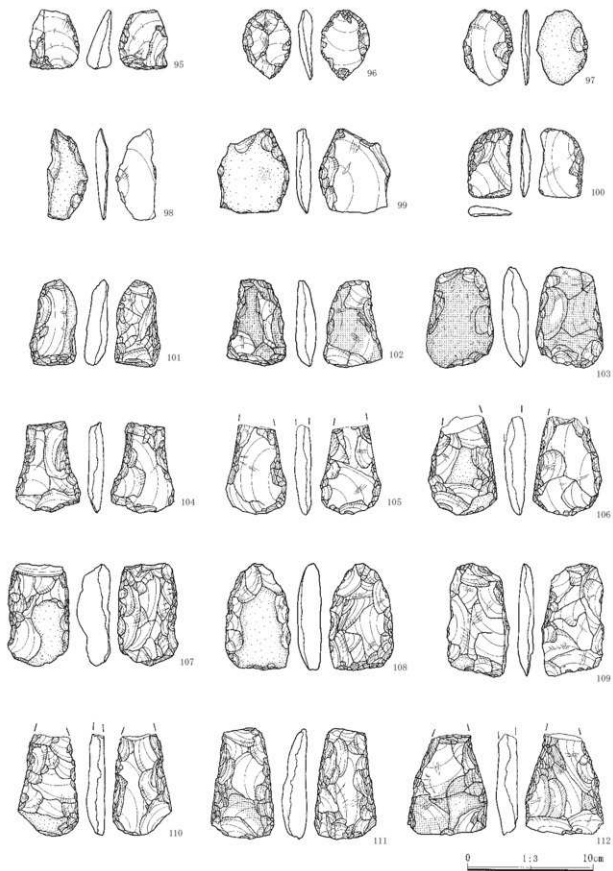


第302図 III区遺構外出土石器(4)

II 縄紋時代の調査

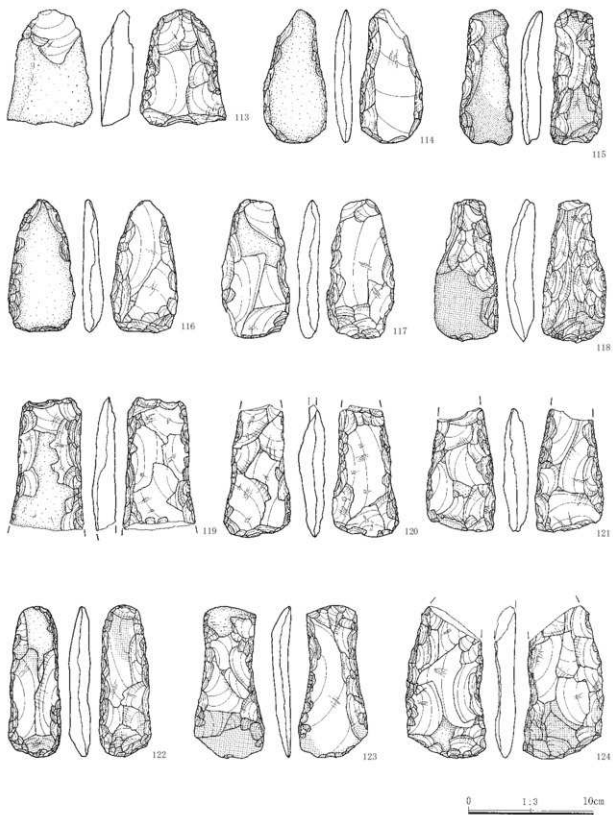


第303図 III区遺構外出土石器(5)

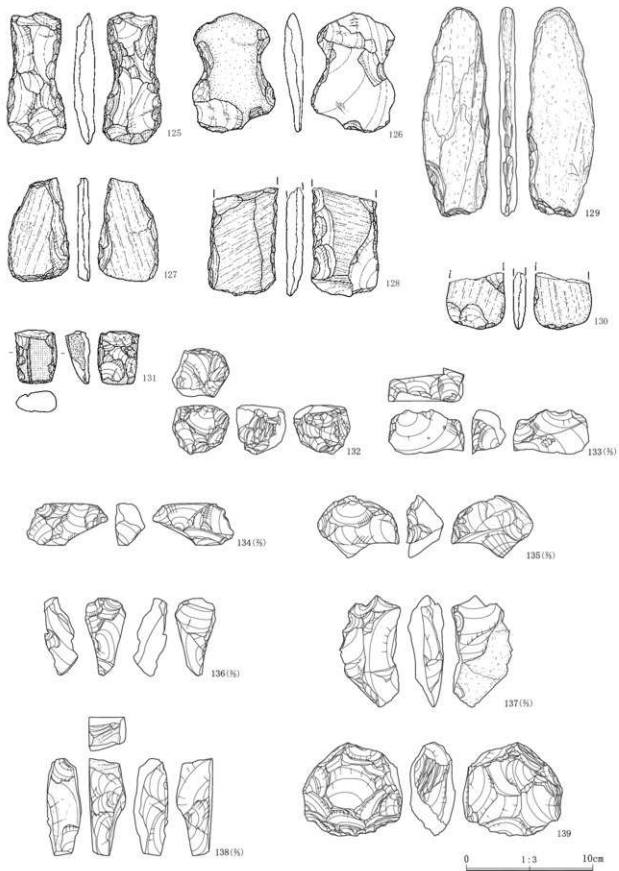


第304図 III区遺構外出土石器(6)

II 縄紋時代の調査

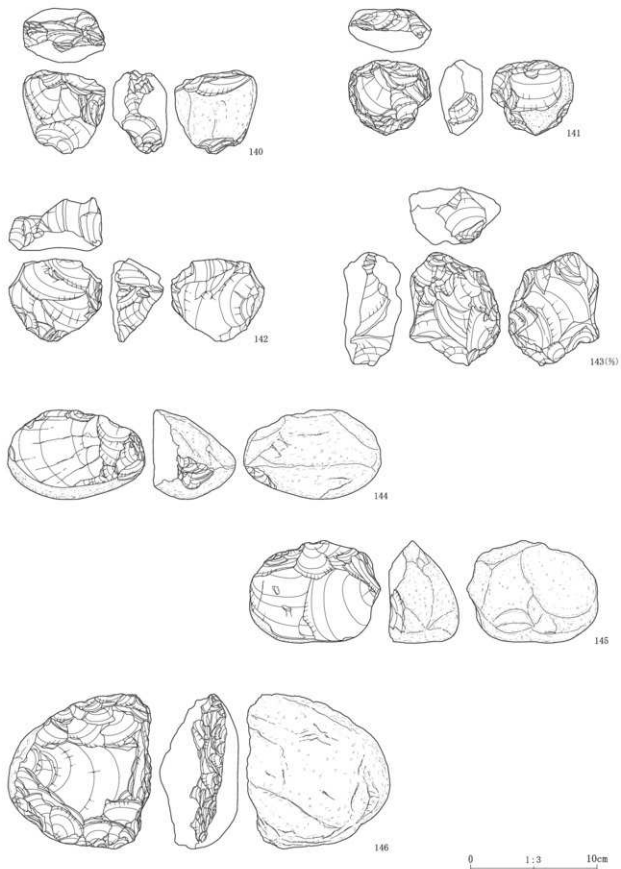


第305図 III区遺構外出土石器(7)

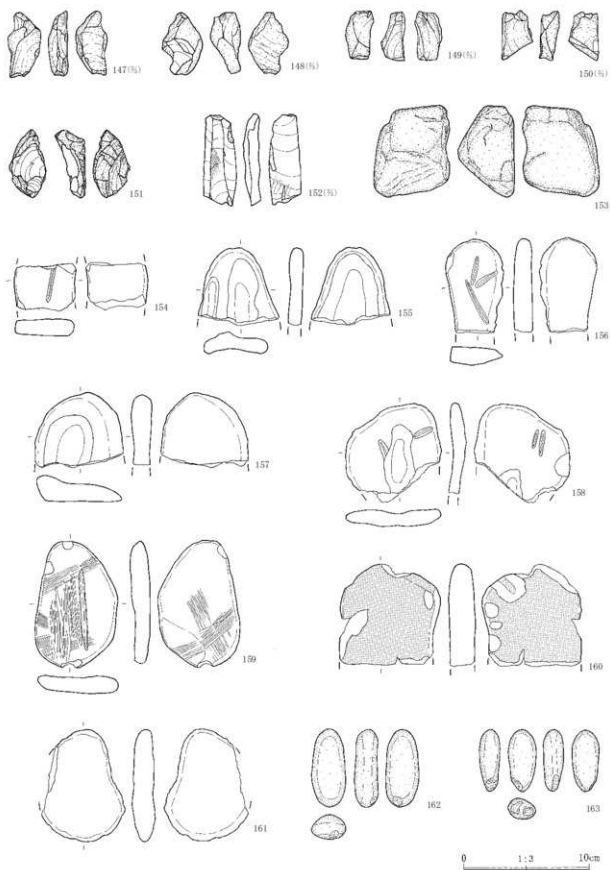


第306图 III区遺構外出土石器(8)

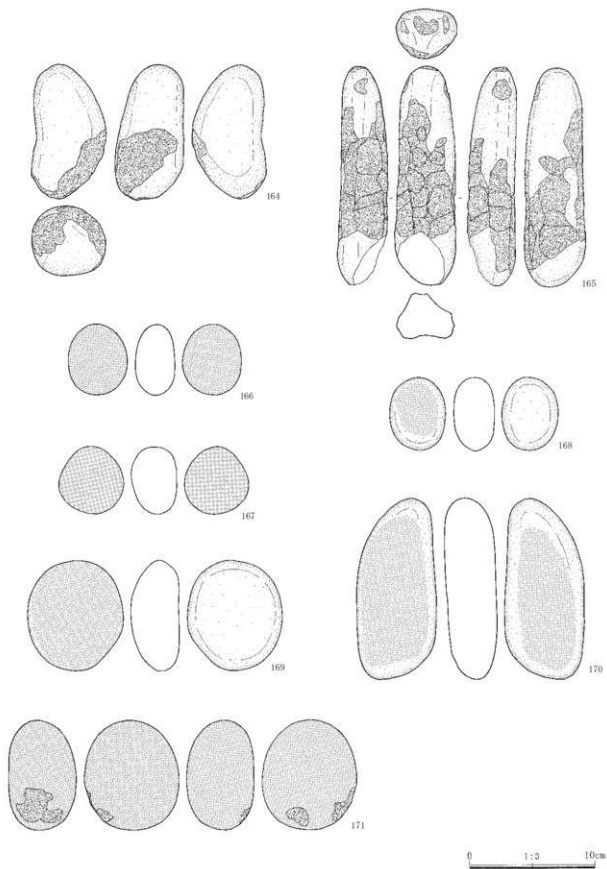
II 縄紋時代の調査



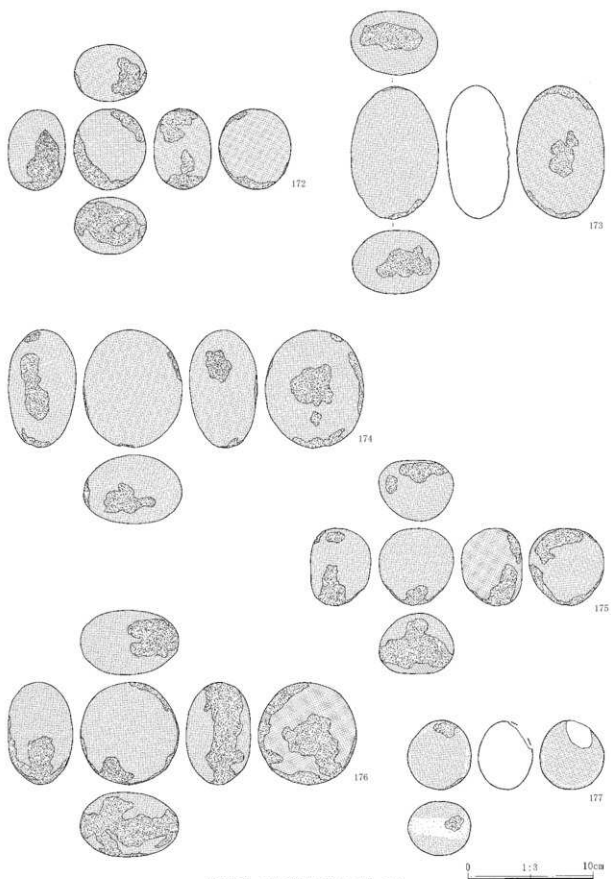
第307図 Ⅲ区遺構外出土石器(9)



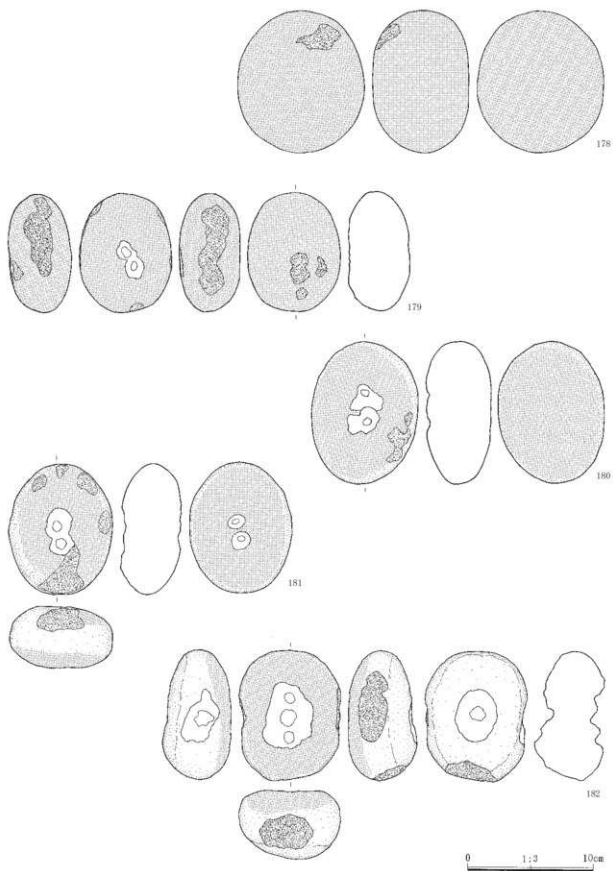
第308图 III区遺構外出土石器 (10)



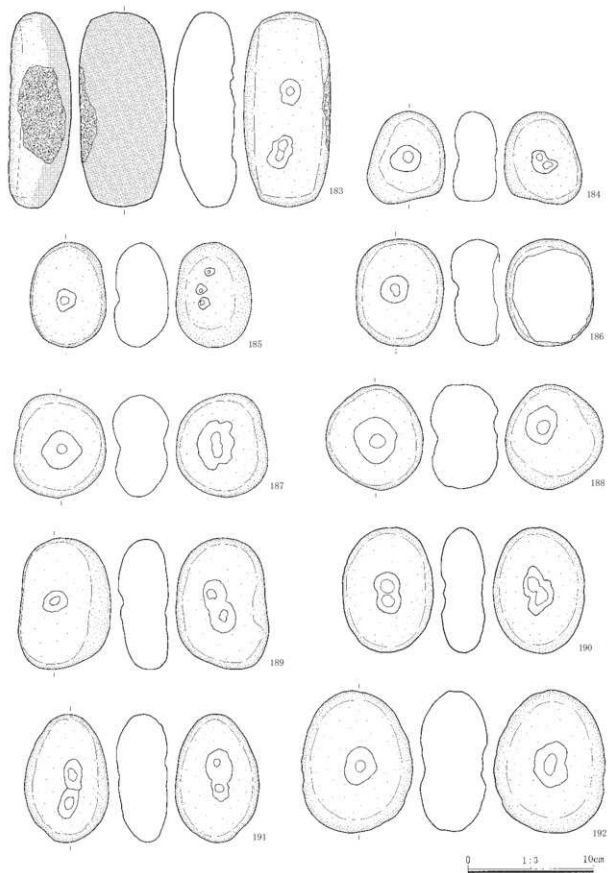
第309図 III区遺構外出土石器(11)



第310図 III区遺構外出土石器 (12)

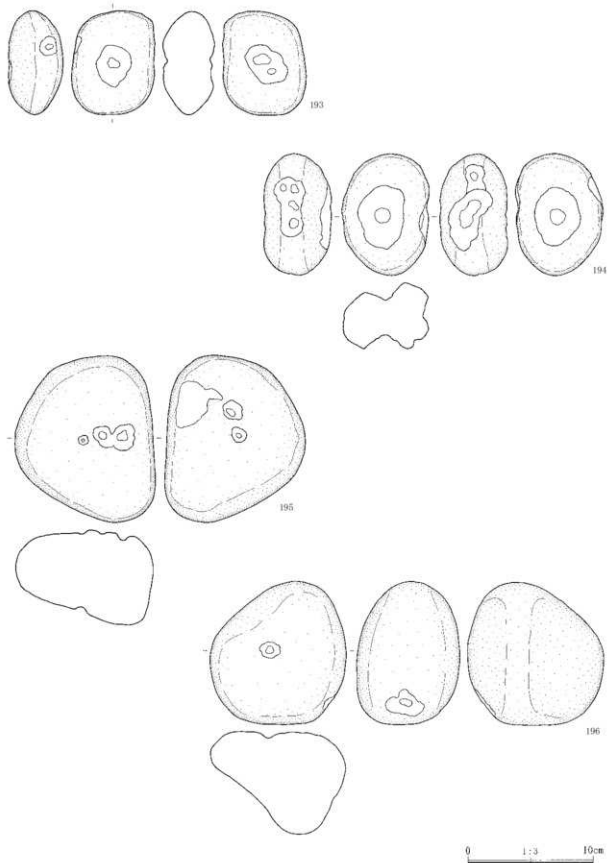


第311図 III区遺構外出土石器 (13)

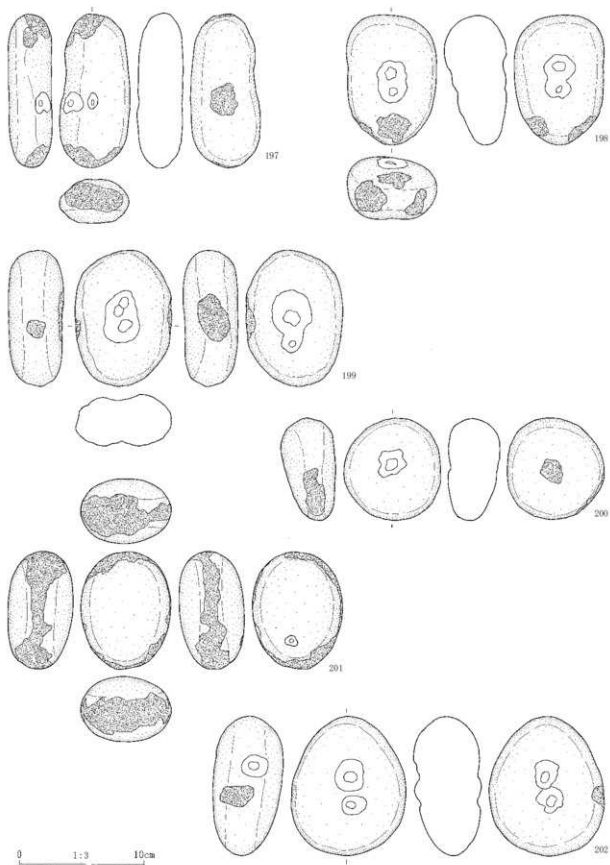


第312图 III区遺構外出土石器 (14)

II 縄紋時代の調査

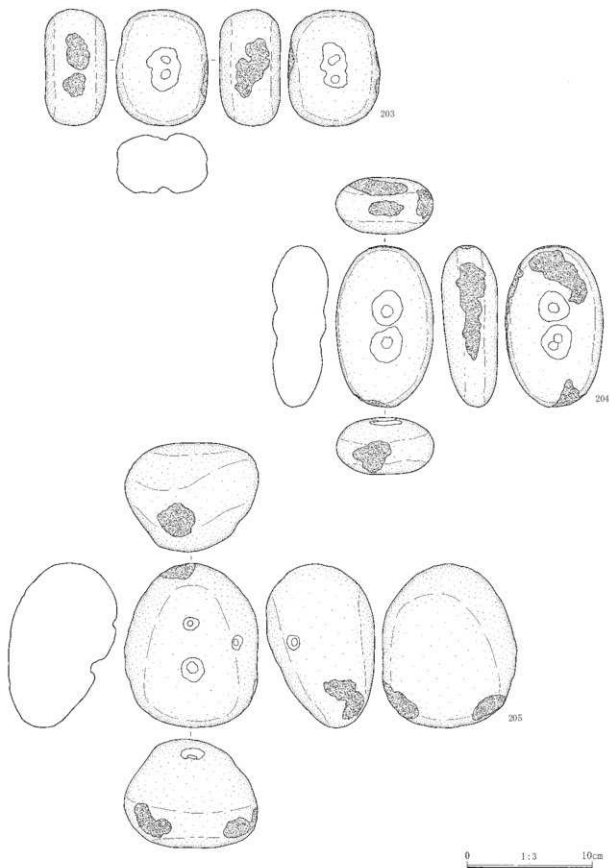


第313図 III区遺構外出土石器 (15)

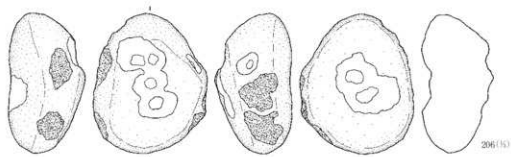


第314図 III区遺構外出土石器 (16)

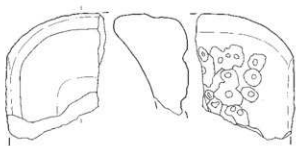
II 縄紋時代の調査



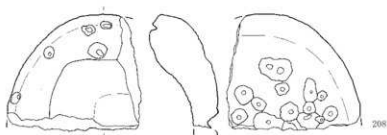
第315図 III区遺構外出土石器 (17)



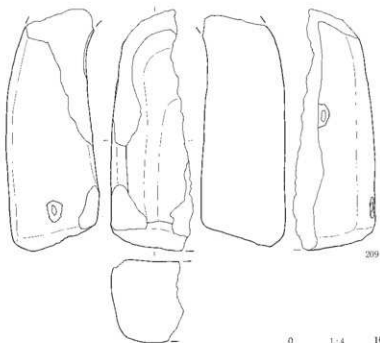
206(15)



207



208

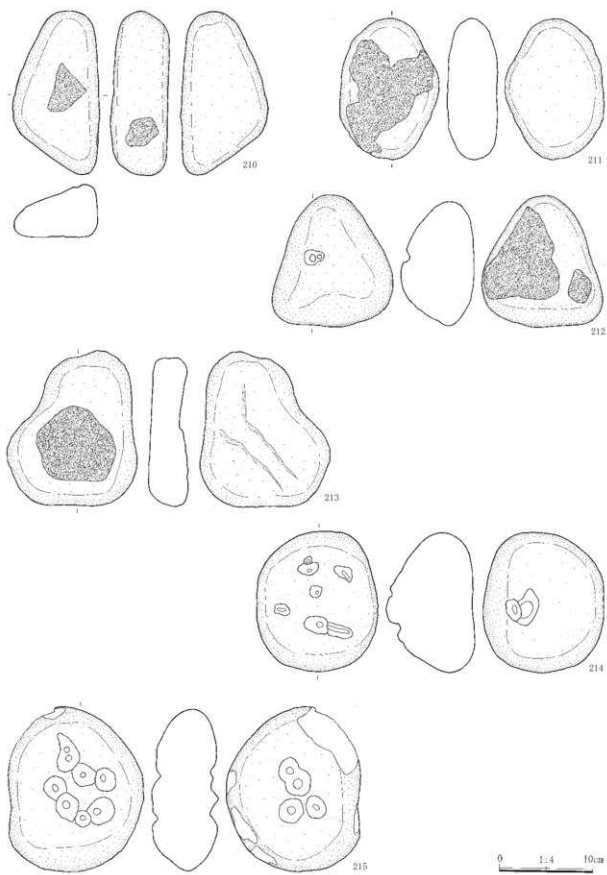


209

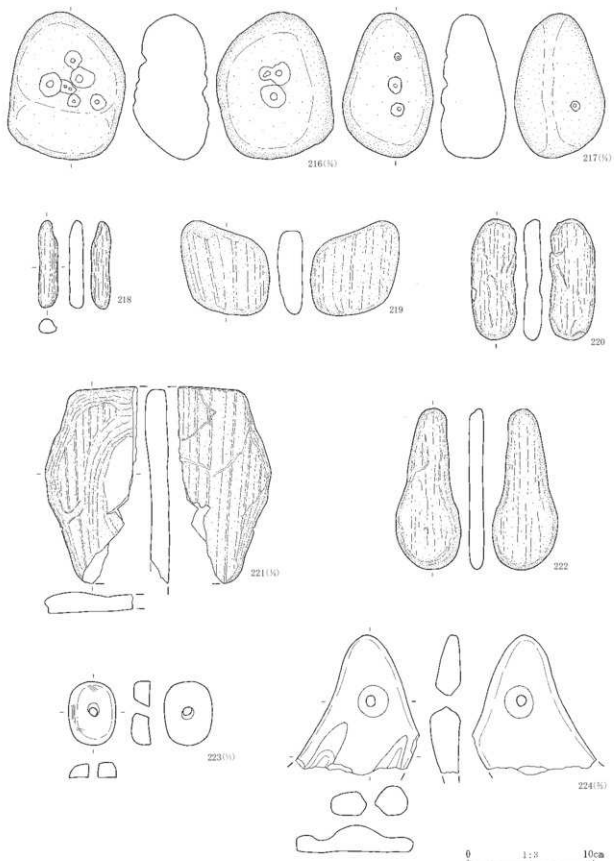
0 1:4 10cm

第316図 III区遺構外出土石器(18)

II 縄紋時代の調査

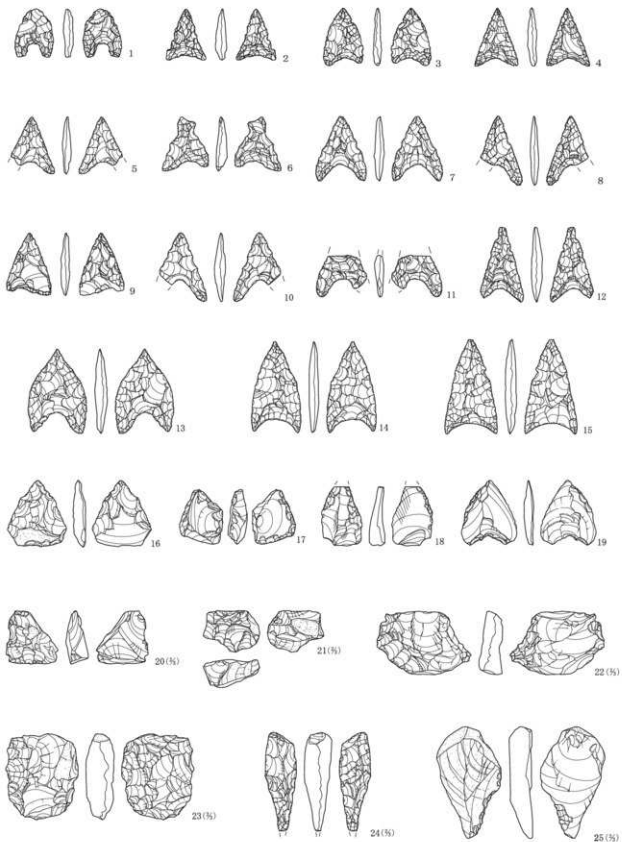


第317図 III区遺構外出土石器 (19)

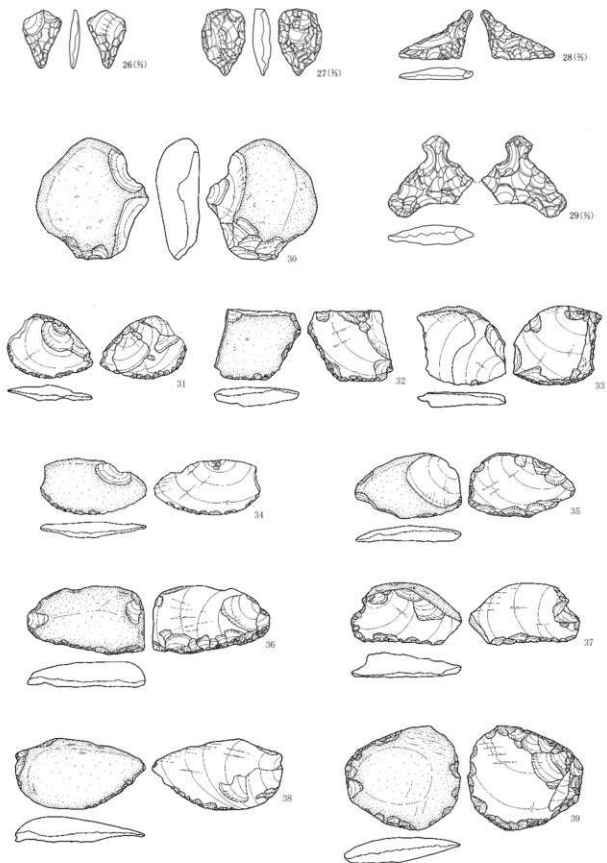


第318図 III区遺構外出土石器 (20)

II 縄紋時代の調査



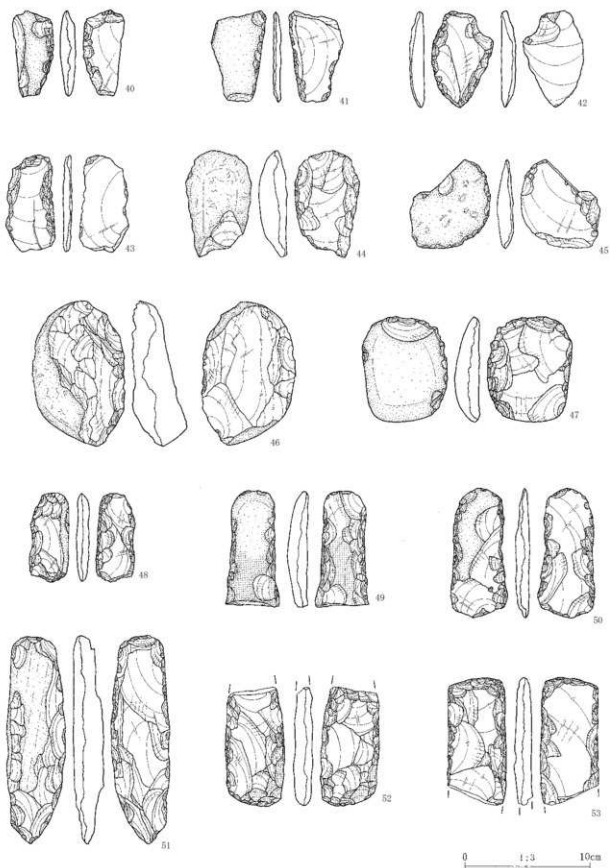
第319図 IV区遺構外出土石器(1)



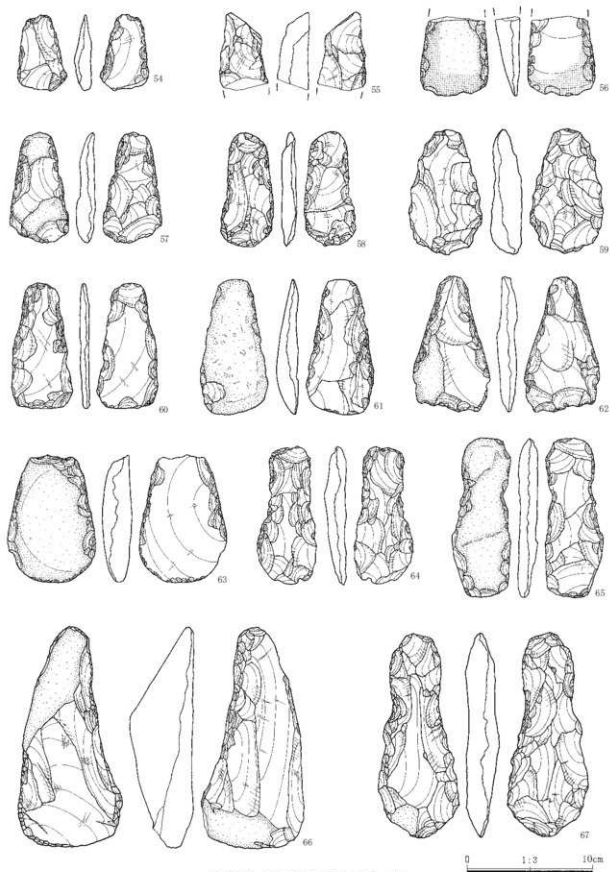
第320图 IV区遺構外出土石器(2)

0 1:3 10cm

II 縄紋時代の調査

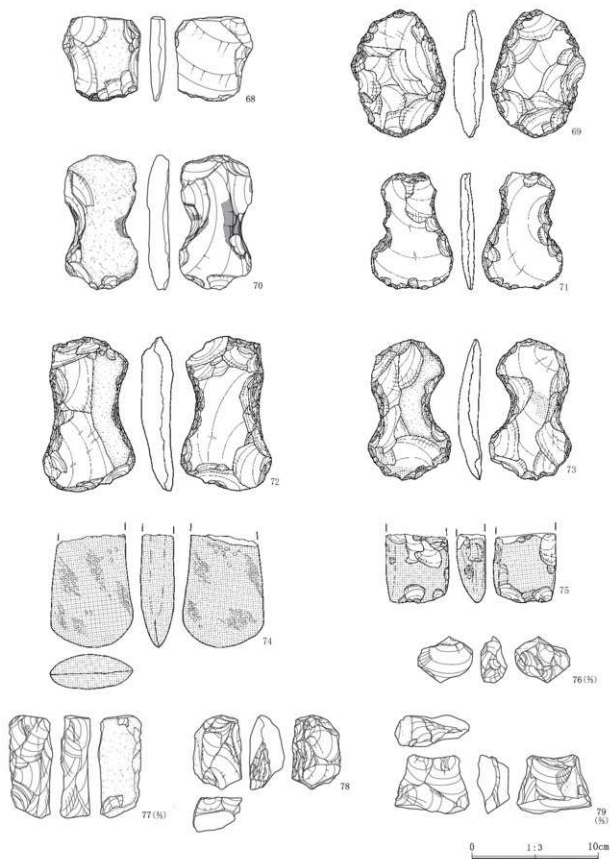


第321図 IV区遺構外出土石器(3)

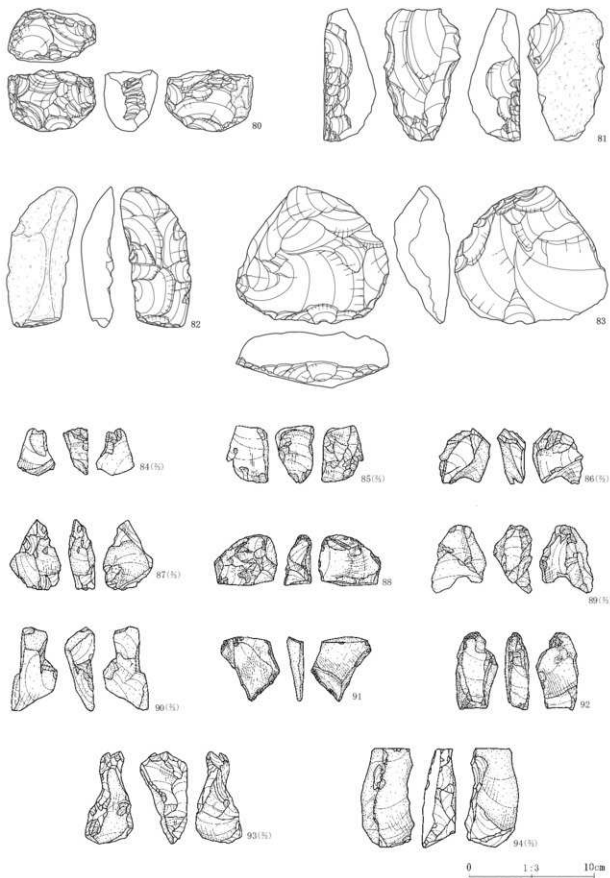


第322图 IV区遺構外出土石器(4)

II 縄紋時代の調査

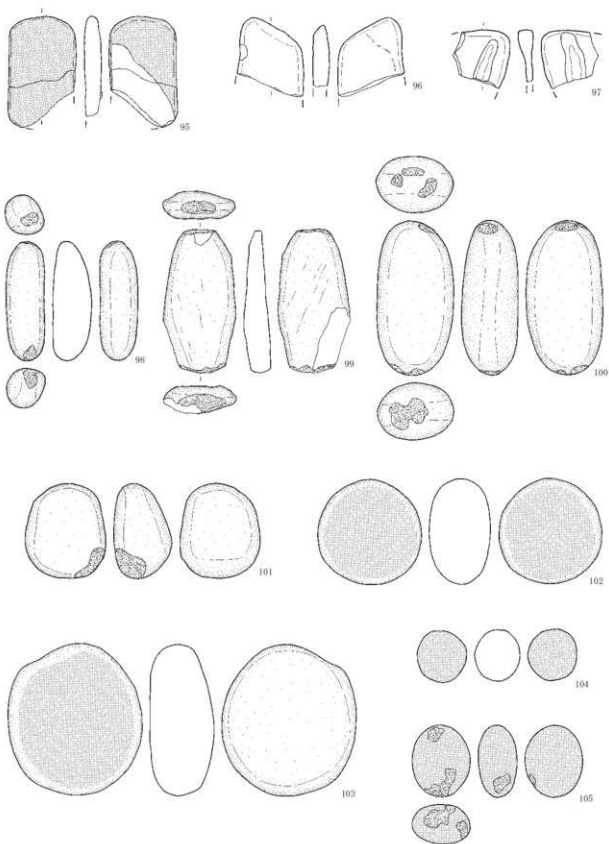


第323図 IV区遺構外出土石器 (5)

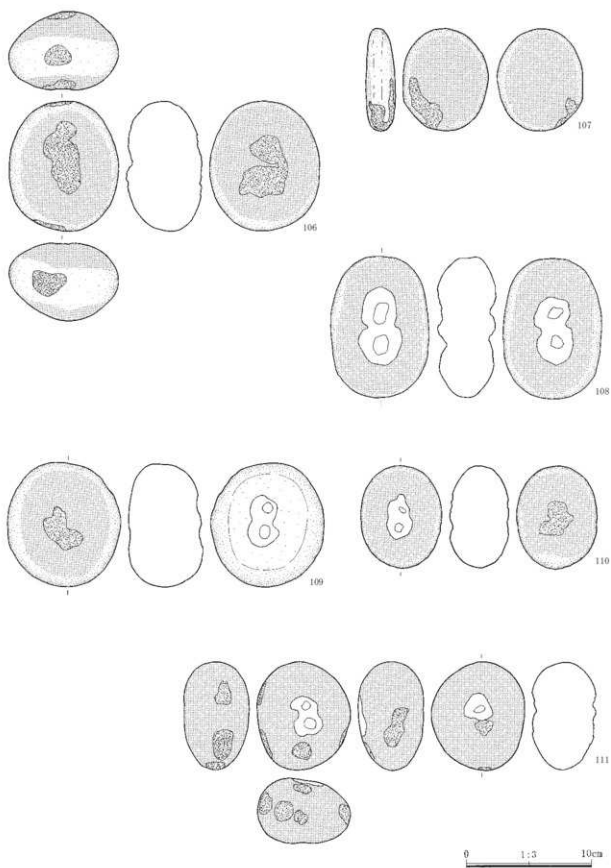


第324図 IV区遺構外出土石器(6)

II 縄紋時代の調査

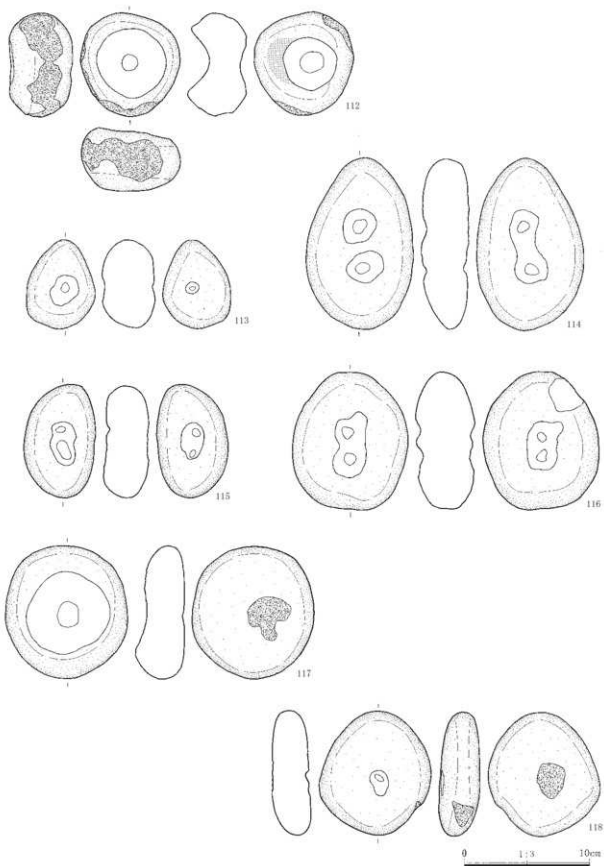


第325図 IV区遺構外出土石器(7)

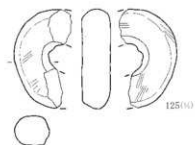
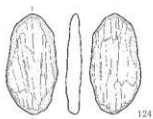
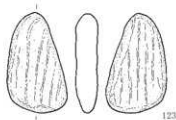
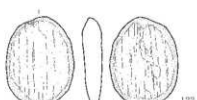
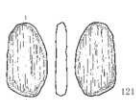
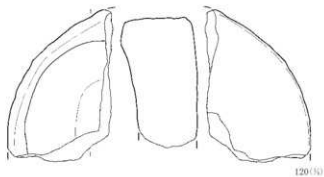
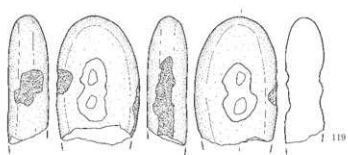


第326図 IV区遺構外出土石器(8)

II 縄紋時代の調査

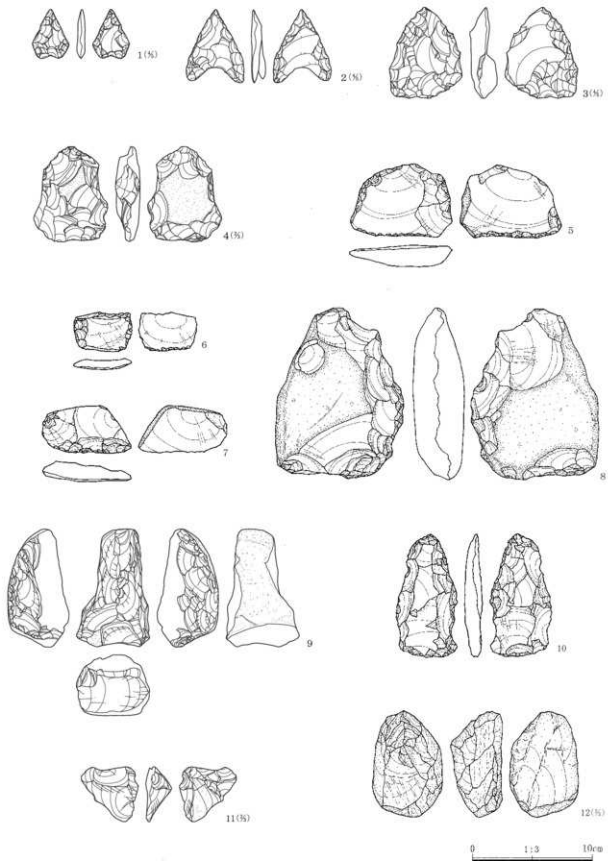


第327図 IV区遺構外出土石器(9)

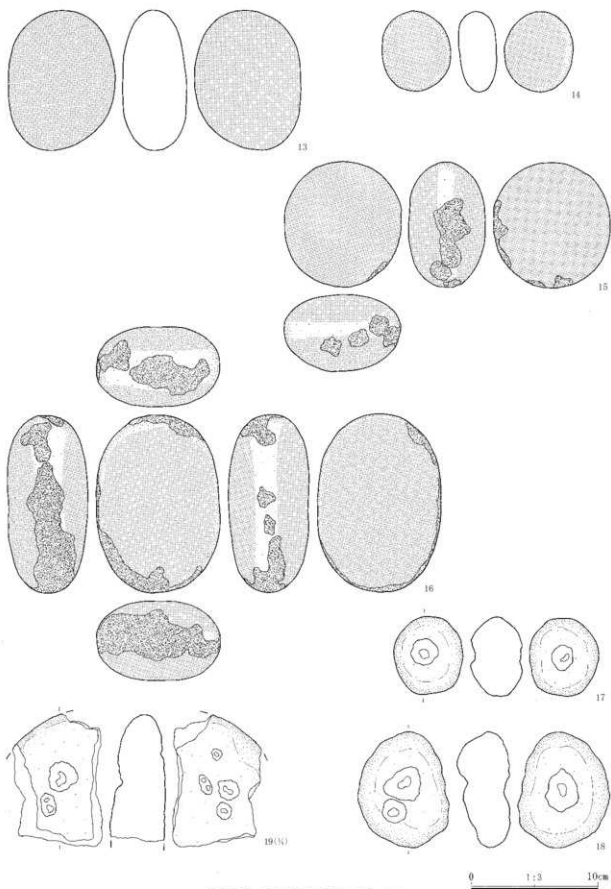


第328図 IV区遺構外出土石器(10)

II 縄紋時代の調査

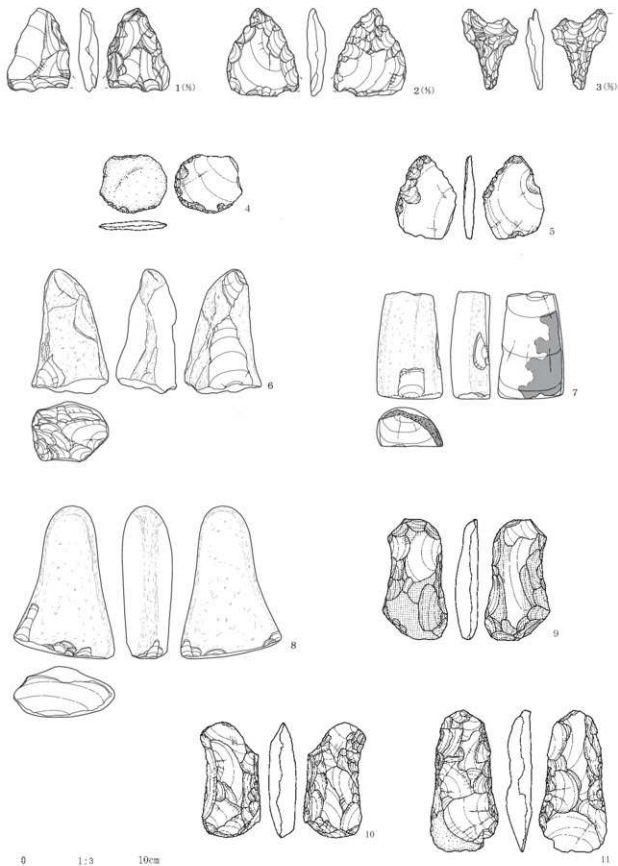


第329図 VI区遺構外出土石器(1)

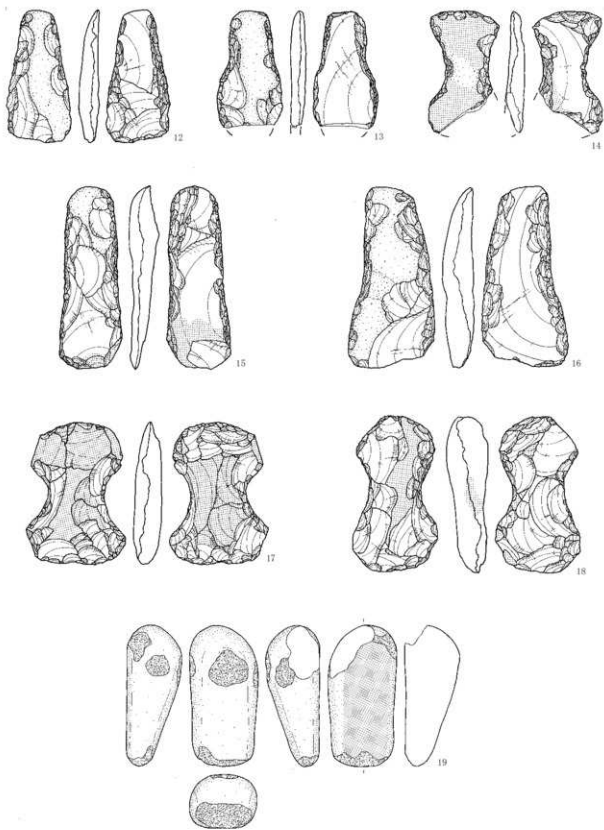


第330図 VI区遺構外出土石器(2)

II 縄紋時代の調査

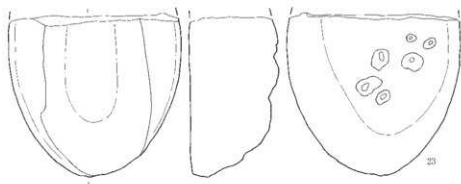
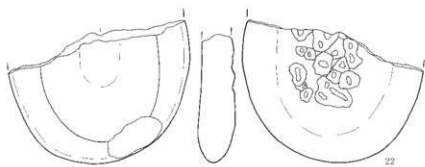
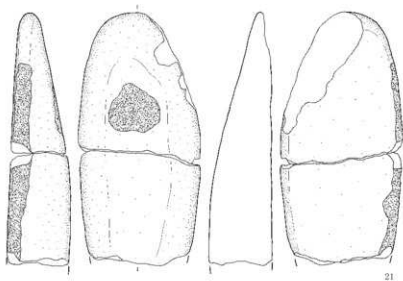
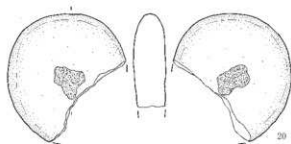


第331图 I区遺構外出土石器(1)



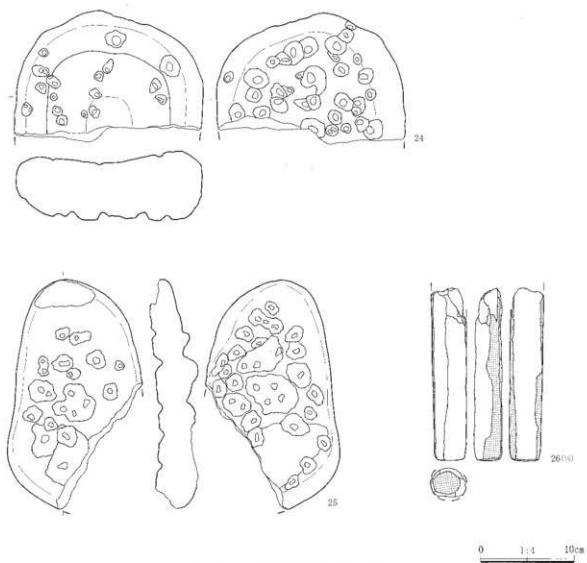
第332図 1区遺構外出土石器(2)

II 縄紋時代の調査



0 1:4 10cm

第333図 I区遺構外出土石器(3)



第334図 1区遺構外出土石器(4)

II 縄紋時代の調査

遺構外出土石器観察表

| 遺構外 草創期石器 | | | | | | | | | | | |
|-----------|------|---------------|------------------------------|-------|-----|----|------|---------------|------------------------------|---------|-----|
| 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 | 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 |
| 1 | 尖頭器 | Ⅱ区 805-490 | 長 41.0 幅 13.5 厚 4.6 重 1.6 | 黒色安山岩 | | 2 | 尖頭器 | Ⅱ区 880-665 | 長 34.7 幅 18.3 厚 5.2 重 2.5 | 黒色頁岩 | |
| 3 | 尖頭器 | Ⅱ区 775-535 | 長 35.0 幅 22.8 厚 5.2 重 3.6 | 黒色安山岩 | | 4 | 尖頭器 | Ⅱ区 800-480 | 長 43 幅 30 厚 10 重 10.4 | 黒曜石 | 和田産 |
| 5 | 尖頭器 | Ⅱ区 810-485 | 長 66 幅 30 厚 8 重 12.3 | 黒曜石 | 和田産 | 6 | 有茎石鏃 | Ⅱ区 805-500 | 長 21.2 幅 15.1 厚 4.9 重 1.2 | チャート | |
| 7 | 有茎石鏃 | Ⅲ区 840-610 | 長 22.7 幅 15.7 厚 4.6 重 1.5 | 黒色頁岩 | | 8 | 打製石芥 | Ⅱ区 795-500 | 長 52 幅 104 厚 22 重 42.0 | 黒色頁岩 | |
| 9 | 打製石芥 | Ⅱ区 805-505 | 長 97 幅 44 厚 25 重 129.5 | 黒色安山岩 | | 10 | 打製石芥 | Ⅱ区 表土 | 長 168 幅 64 厚 35 重 328.4 | ホルンフェルス | |

| Ⅱ区遺構外 石器 | | | | | | | | | | | |
|----------|-----|---------|--------------------------------|-------|------------|----|----|--------------|-------------------------------|-------|------------|
| 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 | 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 |
| 1 | 尖頭器 | 880-685 | 長 51.3 幅 19.1 厚 12.1 重 11.1 | チャート | | 2 | 石鏃 | 880-685 | 長 11.5 幅 13.6 厚 2.8 重 0.3 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 3 | 石鏃 | 865-680 | 長 13.9 幅 9.7 厚 3.1 重 0.3 | 黒曜石 | 諏訪産 | 4 | 石鏃 | 870-680 | 長 14.6 幅 13.8 厚 3.0 重 0.4 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 5 | 石鏃 | 815-705 | 長 13.9 幅 11.2 厚 3.0 重 0.3 | 黒曜石 | 諏訪産 | 6 | 石鏃 | 860-670 | 長 14.9 幅 14.2 厚 2.6 重 0.4 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 7 | 石鏃 | 845-665 | 長 15.1 幅 12.5 厚 3.9 重 0.5 | 黒曜石 | 諏訪産 | 8 | 石鏃 | 815-660 | 長 13.6 幅 13.0 厚 4.0 重 0.5 | チャート | |
| 9 | 石鏃 | 835-685 | 長 15.5 幅 14.4 厚 3.4 重 0.6 | チャート | | 10 | 石鏃 | 835-680 | 長 14.2 幅 11.8 厚 4.1 重 0.8 | チャート | |
| 11 | 石鏃 | 815-685 | 長 16.4 幅 9.1 厚 2.0 重 0.3 | 珪化凝灰岩 | | 12 | 石鏃 | 850-680 | 長 17.3 幅 12.8 厚 3.3 重 0.5 | チャート | |
| 13 | 石鏃 | 830-660 | 長 16.6 幅 16.6 厚 3.0 重 0.6 | 黒色頁岩 | | 14 | 石鏃 | 880-670 | 長 17.1 幅 16.3 厚 3.3 重 0.6 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 15 | 石鏃 | 880-665 | 長 18.7 幅 15.7 厚 3.7 重 0.8 | チャート | | 16 | 石鏃 | 825-685 | 長 17.3 幅 12.8 厚 2.7 重 0.4 | チャート | |
| 17 | 石鏃 | 870-685 | 長 19.2 幅 12.8 厚 3.0 重 0.4 | 黒曜石 | 諏訪産 | 18 | 石鏃 | 875-680 | 長 18.9 幅 14.7 厚 4.1 重 0.8 | チャート | |
| 19 | 石鏃 | 880-670 | 長 20.1 幅 16.1 厚 3.2 重 0.5 | 黒曜石 | 諏訪産 | 20 | 石鏃 | 810-690 | 長 19.5 幅 14.7 厚 2.5 重 0.5 | チャート | |
| 21 | 石鏃 | 850-695 | 長 20.3 幅 16.8 厚 4.5 重 1.2 | 黒色安山岩 | | 22 | 石鏃 | 870-675 | 長 20.0 幅 15.2 厚 3.3 重 0.6 | 黒曜石 | 和田産 |
| 23 | 石鏃 | 865-680 | 長 22.3 幅 16.5 厚 4.3 重 1.1 | チャート | | 24 | 石鏃 | 6号土坑 (遺構) | 長 17.5 幅 16.2 厚 3.3 重 0.7 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 25 | 石鏃 | 810-655 | 長 17.9 幅 15.9 厚 4.1 重 1.2 | チャート | | 26 | 石鏃 | 880-685 | 長 19.5 幅 16.5 厚 4.4 重 1.0 | チャート | |
| 27 | 石鏃 | 820-685 | 長 21.7 幅 13.4 厚 3.2 重 0.9 | チャート | | 28 | 石鏃 | 830-675 | 長 23.1 幅 14.2 厚 4.9 重 1.2 | チャート | |
| 29 | 石鏃 | 820-700 | 長 25.7 幅 14.2 厚 6.0 重 1.5 | 黒色安山岩 | | 30 | 石鏃 | 840-665 | 長 24.6 幅 17.6 厚 4.1 重 1.6 | 黒曜石 | 和田産 |
| 31 | 石鏃 | 850-690 | 長 23.7 幅 15.3 厚 3.8 重 1.1 | チャート | | 32 | 石鏃 | 830-655 | 長 26.8 幅 14.7 厚 3.5 重 1.1 | 黒色安山岩 | |
| 33 | 石鏃 | 815-690 | 長 23.4 幅 15.7 厚 3.3 重 0.8 | 黒曜石 | 諏訪産 | 34 | 石鏃 | 810-675 | 長 28.7 幅 14.9 厚 3.6 重 0.9 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 35 | 石鏃 | 810-690 | 長 31.7 幅 18.4 厚 4.9 重 1.7 | 黒色頁岩 | | 36 | 石鏃 | 845-660 | 長 29.2 幅 20.3 厚 3.6 重 1.3 | チャート | |
| 37 | 石鏃 | 820-700 | 長 15.0 幅 13.9 厚 5.8 重 1.1 | 黒曜石 | 諏訪産 未製品 | 38 | 石鏃 | 880-690 | 長 17.7 幅 11.5 厚 3.8 重 0.7 | 黒曜石 | 諏訪産 未製品 |
| 39 | 石鏃 | 845-690 | 長 20.7 幅 14.7 厚 4.3 重 1.3 | 珪質頁岩 | 未製品 | 40 | 石鏃 | 865-670 | 長 24.9 幅 22.8 厚 6.1 重 2.9 | 黒曜石 | 諏訪産 未製品 |
| 41 | 石鏃 | 815-665 | 長 26.9 幅 23.6 厚 9.7 重 5.8 | チャート | 未製品 | 42 | 石鏃 | 865-685 | 長 28.3 幅 18.8 厚 5.3 重 2.8 | チャート | 未製品 |
| 43 | 石鏃 | 870-675 | 長 28.1 幅 22.5 厚 12.0 重 6.9 | チャート | 未製品 | 44 | 石鏃 | 865-665 | 長 29.5 幅 23.0 厚 11.2 重 7.2 | 黒色頁岩 | 未製品 |
| 45 | 石鏃 | 870-670 | 長 29.9 幅 20.6 厚 8.1 重 3.5 | 黒色頁岩 | 未製品 | 46 | 石鏃 | 840-685 | 長 24.2 幅 17.4 厚 6.8 重 2.6 | 黒曜石 | 諏訪産 未製品 |
| 47 | 石鏃 | 865-680 | 長 32.2 幅 28.9 厚 7.4 重 7.6 | 黒色安山岩 | 未製品 | 48 | 石鏃 | 845-685 | 長 34.5 幅 26.2 厚 9.3 重 7.7 | チャート | 未製品 |

I区遺構外 石器

| 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 | 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 |
|-----|--------|-------------|--------------------------------|-------------|----|-----|--------|---------|--------------------------------|-------------|----|
| 49 | 楕形石器 | 810-665 | 長 15.4 幅 13.6 厚 5.2 重 0.9 | 黒曜石 | | 50 | 楕形石器 | 880-670 | 長 17.8 幅 18.5 厚 8.1 重 2.4 | 黒曜石 | |
| 51 | 楕形石器 | 850-685 | 長 29.5 幅 20.2 厚 9.4 重 5.9 | チャート | | 52 | 楕形石器 | 850-680 | 長 25.2 幅 24.8 厚 8.6 重 6.5 | チャート | |
| 53 | 石鏃 | 835-690 | 長 22.1 幅 14.2 厚 8.5 重 1.6 | 黒曜石 | | 54 | 石鏃 | 表土 | 長 23.9 幅 19.9 厚 6.8 重 3.3 | チャート | |
| 55 | 石鏃 | 820-710 | 長 23.0 幅 19.4 厚 10.7 重 2.1 | チャート | | 56 | 石鏃 | 830-660 | 長 25.3 幅 18.8 厚 5.4 重 2.0 | 黒色頁岩 | |
| 57 | 石鏃 | 880-675 | 長 24.6 幅 19.9 厚 9.3 重 3.5 | 黒色頁岩 | | 58 | 石鏃 | 875-675 | 長 30.3 幅 21.0 厚 5.5 重 2.1 | 黒色安山岩 | |
| 59 | 石鏃 | 850-675 | 長 32.6 幅 17.1 厚 7.5 重 3.4 | 黒色頁岩 | | 60 | 石鏃 | 865-685 | 長 34.4 幅 11.2 厚 5.2 重 1.2 | 黒曜石 | |
| 61 | 石鏃 | 835-685 | 長 34.2 幅 14.9 厚 5.9 重 2.8 | 黒色頁岩 | | 62 | 石鏃 | 860-665 | 長 35.3 幅 14.3 厚 6.0 重 2.4 | 黒色頁岩 | |
| 63 | 石鏃 | 875-675 | 長 36.4 幅 17.9 厚 6.2 重 3.2 | 黒色頁岩 | | 64 | 石鏃 | 810-665 | 長 39.5 幅 17.6 厚 8.0 重 3.3 | チャート | |
| 65 | 石鏃 | 810-665 | 長 45.6 幅 12.6 厚 8.2 重 2.8 | チャート | | 66 | 石鏃 | 870-685 | 長 43.7 幅 13.1 厚 8.9 重 2.8 | 黒曜石 | |
| 67 | 石鏃 | 845-695 | 長 45.1 幅 25.4 厚 10.2 重 9.1 | 黒色頁岩 | | 68 | 石鏃 | 865-685 | 長 47.2 幅 31.0 厚 8.3 重 10.8 | 黒色頁岩 | |
| 69 | 石鏃 | 820-670 | 長 48.6 幅 61.7 厚 9.8 重 22.6 | 黒色頁岩 | | 70 | 石鏃 | 805-660 | 長 53.5 幅 26.8 厚 10.3 重 26.4 | 球質頁岩 | |
| 71 | 石鏃 | 2号溝 (近溝) | 長 45.4 幅 67.5 厚 14.9 重 32.6 | 球質頁岩 | | 72 | スクレイパー | 820-675 | 長 26 幅 27 厚 7 重 3.8 | 黒色頁岩 | |
| 73 | スクレイパー | 880-690 | 長 38 幅 63 厚 13 重 33.0 | 黒色頁岩 | | 74 | スクレイパー | 835-675 | 長 36 幅 49 厚 8 重 17.1 | 黒色頁岩 | |
| 75 | スクレイパー | 815-690 | 長 57 幅 72 厚 19 重 72.4 | 黒色頁岩 | | 76 | スクレイパー | 845-685 | 長 41 幅 76 厚 17 重 55.2 | 黒色頁岩 | |
| 77 | スクレイパー | 855-685 | 長 55 幅 78 厚 18 重 52.4 | 黒色頁岩 | | 78 | スクレイパー | 815-685 | 長 60 幅 79 厚 17 重 68.2 | 黒色頁岩 | |
| 79 | スクレイパー | 815-710 | 長 64 幅 76 厚 19 重100.2 | 黒色頁岩 | | 80 | スクレイパー | 850-680 | 長 63 幅 82 厚 18 重 95.2 | 黒色頁岩 | |
| 81 | スクレイパー | 830-670 | 長 66 幅 76 厚 13 重 70.9 | 黒色頁岩 | | 82 | スクレイパー | 835-685 | 長 55 幅 86 厚 15 重 80.3 | 黒色頁岩 | |
| 83 | スクレイパー | 855-685 | 長 56 幅 94 厚 17 重 56.4 | 黒色頁岩 | | 84 | スクレイパー | 850-680 | 長 60 幅 98 厚 22 重110.6 | 黒色頁岩 | |
| 85 | スクレイパー | 835-680 | 長 77 幅 84 厚 26 重200.7 | 黒色頁岩 | | 86 | スクレイパー | 840-660 | 長 57 幅 112 厚 16 重113.3 | 黒色頁岩 | |
| 87 | スクレイパー | 880-680 | 長 75 幅 90 厚 20 重104.9 | 粗粒輝石 安山岩 | | 88 | スクレイパー | 880-680 | 長 54 幅 109 厚 18 重100.5 | 黒色頁岩 | |
| 89 | スクレイパー | 840-665 | 長 95 幅 106 厚 23 重220.3 | 黒色頁岩 | | 90 | スクレイパー | 855-665 | 長 62 幅 107 厚 25 重144.9 | 黒色頁岩 | |
| 91 | スクレイパー | 865-665 | 長 65 幅 73 厚 25 重 87.9 | 黒色頁岩 | | 92 | スクレイパー | 810-660 | 長 74 幅 129 厚 44 重393.0 | 黒色頁岩 | |
| 93 | スクレイパー | 875-690 | 長 65 幅 33 厚 17 重 33.5 | 黒色頁岩 | | 94 | スクレイパー | 840-660 | 長 68 幅 51 厚 15 重 49.8 | 黒色頁岩 | |
| 95 | スクレイパー | 855-670 | 長 69 幅 60 厚 24 重 92.2 | 黒色頁岩 | | 96 | スクレイパー | 810-685 | 長 94 幅 49 厚 12 重 53.2 | 黒色頁岩 | |
| 97 | スクレイパー | 810-700 | 長 74 幅 65 厚 12 重 66.4 | 黒色頁岩 | | 98 | スクレイパー | 875-675 | 長 79 幅 55 厚 12 重 67.1 | 黒色頁岩 | |
| 99 | スクレイパー | 870-680 | 長 72 幅 69 厚 17 重 77.6 | 黒色頁岩 | | 100 | スクレイパー | 805-670 | 長 88 幅 80 厚 24 重153.9 | 黒色頁岩 | |
| 101 | スクレイパー | 865-660 | 長 89 幅 78 厚 29 重157.5 | 黒色頁岩 | | 102 | スクレイパー | 850-685 | 長 101 幅 93 厚 42 重434.6 | 黒色安山岩 | |
| 103 | スクレイパー | 880-675 | 長 109 幅 53 厚 21 重 99.9 | 粗粒輝石 安山岩 | | 104 | スクレイパー | 805-685 | 長 82 幅 107 厚 29 重278.9 | 黒色頁岩 | |
| 105 | スクレイパー | 885-685 | 長 93 幅 69 厚 33 重169.8 | 黒色頁岩 | | 106 | スクレイパー | 855-685 | 長 148 幅 98 厚 42 重680.5 | 黒色頁岩 | |
| 107 | スタンプ | 845-680 | 長 82.8 幅 49.1 厚 45.2 重176.0 | 黒色頁岩 | | 108 | スタンプ | 815-710 | 長103.3 幅 66.0 厚 57.7 重356.7 | 黒色頁岩 | |
| 109 | スタンプ | 880-685 | 長100.3 幅 53.9 厚 44.6 重292.4 | 黒色頁岩 | | 110 | スタンプ | 875-685 | 長 86.9 幅 71.3 厚 46.3 重435.3 | 砂岩 | |
| 111 | スタンプ | 865-685 | 長 97.1 幅 77.4 厚 47.5 重497.2 | ひん岩 | | 112 | スタンプ | 820-725 | 長 93.5 幅 73.3 厚 53.4 重399.4 | 粗粒輝石 安山岩 | |

II 縄紋時代の調査

I 区遺構外 石器

| 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 | 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 |
|-----|-----------|---------|--------------------------------|-------------|-----|-----|-----------|---------|--------------------------------|-------------|-----|
| 113 | スタンプ | 表土 | 長107.8 幅 77.3 厚 55.7 重523.2 | 粗粒輝石 安山岩 | | 114 | スタンプ | 875-680 | 長108.3 幅 69.2 厚 56.2 重520.2 | 砂岩 | |
| 115 | 打製石斧 | 840-700 | 長 49 幅 26 厚 12 重 13.6 | 黒色頁岩 | | 116 | 打製石斧 | 815-665 | 長 53 幅 39 厚 12 重 31.4 | 黒色頁岩 | |
| 117 | 打製石斧 | 840-675 | 長 73 幅 40 厚 21 重 55.8 | 黒色頁岩 | | 118 | 打製石斧 | 870-690 | 長 74 幅 42 厚 15 重 51 | 黒色頁岩 | |
| 119 | 打製石斧 | 810-650 | 長 83 幅 57 厚 14 重 68.6 | 黒色頁岩 | | 120 | 打製石斧 | 表土 | 長 73 幅 50 厚 24 重 78.6 | 黒色頁岩 | |
| 121 | 打製石斧 | 880-680 | 長 67 幅 46 厚 21 重 61.2 | 黒色頁岩 | | 122 | 打製石斧 | 840-660 | 長 83 幅 50 厚 27 重109.2 | 黒色頁岩 | |
| 123 | 打製石斧 | 810-695 | 長 89 幅 55 厚 21 重115.8 | 黒色頁岩 | | 124 | 打製石斧 | 845-675 | 長 100 幅 54 厚 16 重 90.8 | 黒色頁岩 | |
| 125 | 打製石斧 | 875-670 | 長 103 幅 57 厚 13 重 75.5 | 黒色頁岩 | | 126 | 打製石斧 | 875-680 | 長 135 幅 60 厚 15 重124.1 | 黒色頁岩 | |
| 127 | 打製石斧 | 865-675 | 長 138 幅 49 厚 16 重137.5 | 灰色安山 岩 | | 128 | 打製石斧 | 840-660 | 長 147 幅 57 厚 21 重187.1 | 黒色頁岩 | |
| 129 | 打製石斧 | 865-685 | 長 125 幅 63 厚 24 重164.8 | 黒色頁岩 | | 130 | 打製石斧 | 870-670 | 長 84 幅 66 厚 19 重 93.9 | 黒色頁岩 | |
| 131 | 打製石斧 | 860-690 | 長 89 幅 72 厚 24 重132.1 | 黒色頁岩 | | 132 | 打製石斧 | 855-680 | 長 112 幅 68 厚 19 重119.0 | 黒色頁岩 | |
| 133 | 打製石斧 | 表土 | 長 123 幅 74 厚 22 重191.9 | 黒色頁岩 | | 134 | 打製石斧 | 870-685 | 長 101 幅 73 厚 15 重 93.8 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 135 | 打製石斧 | 表土 | 長 87 幅 58 厚 10 重 64.4 | 黒色頁岩 | | 136 | 打製石斧 | 表土 | 長 201 幅 79 厚 31 重594.7 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 137 | 打製石斧 | 865-680 | 長 175 幅 91 厚 20 重269.3 | 結晶片岩 | | 138 | 磨製石斧 | 870-670 | 長 116 幅 52 厚 26 重212.8 | 蛇紋岩 | |
| 139 | 石核 | 840-685 | 長 16.2 幅 32.6 厚 11.3 重 4.6 | 黒曜石 | 諏訪産 | 140 | 石核 | 860-700 | 長 21.3 幅 32.5 厚 10.8 重 5.6 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 141 | 石核 | 855-665 | 長 22.2 幅 24.3 厚 17.6 重 9.0 | 黒曜石 | 諏訪産 | 142 | 石核 | 845-670 | 長 23.2 幅 38.8 厚 10.7 重 8.0 | 珪質頁岩 | |
| 143 | 石核 | 875-680 | 長 26.2 幅 24.8 厚 24.1 重 13.9 | 黒曜石 | 諏訪産 | 144 | 石核 | 860-685 | 長 25.7 幅 26.3 厚 16.1 重 11.5 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 145 | 石核 | 855-690 | 長 67.7 幅 63.7 厚 33.9 重153.6 | 黒色頁岩 | | 146 | 石核 | 830-670 | 長 72.7 幅 67.6 厚 32.1 重145.4 | 黒色頁岩 | |
| 147 | 石核 | 870-675 | 長 31.2 幅 36.2 厚 20.1 重 19.9 | チャート | | 148 | 石核 | 865-690 | 長 28.7 幅 37.6 厚 16.3 重 20.7 | チャート | |
| 149 | 石核 | 835-680 | 長 39.2 幅 26.6 厚 15.9 重 17.8 | チャート | | 150 | 石核 | 850-680 | 長 92.2 幅 56.5 厚 29.9 重134.7 | 黒色頁岩 | |
| 151 | 石核 | 870-685 | 長 64.0 幅 26.3 厚 27.1 重 33.9 | 黒曜石 | 諏訪産 | 152 | 石核 | 815-710 | 長 49.3 幅 39.4 厚 14.0 重 29.3 | チャート | |
| 153 | 石核 | 870-665 | 長 75.8 幅 82.7 厚 28.2 重178.1 | 黒色頁岩 | | 154 | 石核 | 865-685 | 長 45.7 幅 43.6 厚 29.0 重 57.7 | チャート | |
| 155 | 原石 | 880-680 | 長 19 幅 13 厚 11 重 2.5 | 黒曜石 | 諏訪産 | 156 | 原石 | 830-660 | 長 18 幅 17 厚 10 重 3.1 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 157 | 原石 | 860-670 | 長 29 幅 15 厚 12 重 3.3 | 黒曜石 | 諏訪産 | 158 | 原石 | 845-685 | 長 38 幅 17 厚 8 重 4.8 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 159 | 原石 | 875-685 | 長 25 幅 24 厚 11 重 5.9 | 黒曜石 | 諏訪産 | 160 | 原石 | 810-695 | 長 25 幅 18 厚 12 重 7.5 | チャート | |
| 161 | 原石 | 820-675 | 長 43 幅 17 厚 15 重 9.6 | 黒曜石 | 和田産 | 162 | 原石 | 880-680 | 長 37 幅 51 厚 33 重 62.5 | 黒曜石 | 和田産 |
| 163 | 原石 | 865-675 | 長 44 幅 46 厚 24 重 53.9 | 黒曜石 | 諏訪産 | 164 | 砥石 | 820-715 | 長 109 幅 62 厚 14 重 149 | 砂岩 | |
| 165 | 砥石 | 870-675 | 長 66 幅 30 厚 21 重 69 | 粗粒輝石 安山岩 | | 166 | 砥石 | 870-665 | 長 65 幅 26 厚 17 重 46 | 砂質頁岩 | |
| 167 | 砥石 | 835-680 | 長 44 幅 31 厚 21 重 40 | 流紋岩 | | 168 | 磨石 | 表土 | 長 75 幅 72 厚 43 重 331 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 169 | 磨石 | 870-680 | 長 91 幅 75 厚 41 重 370 | 粗粒輝石 安山岩 | | 170 | 磨石 | 875-685 | 長 99 幅 87 厚 48 重 519 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 171 | 磨・砥石 | 880-685 | 長 92 幅 76 厚 40 重 419 | 粗粒輝石 安山岩 | | 172 | 磨・凹石 | 865-685 | 長 104 幅 72 厚 50 重 567 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 173 | 磨・凹石 | 810-665 | 長 82 幅 72 厚 40 重 359 | 粗粒輝石 安山岩 | | 174 | 磨・凹石 | 845-690 | 長 105 幅 87 厚 50 重 631 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 175 | 磨・凹 砥石 | 875-675 | 長 95 幅 86 厚 43 重 558 | 粗粒輝石 安山岩 | | 176 | 磨・凹 砥石 | 850-675 | 長 108 幅 83 厚 44 重 582 | 粗粒輝石 安山岩 | |

Ⅰ区遺構外 石器

| 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 | 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 |
|-----|-----------|---------|------------------------------|-------------|----|-----|-----------|---------|---------------------------|-------------|----|
| 177 | 磨・凹 蓋石 | 855-685 | 長 91 幅 78 厚 45 重 462 | 粗粒輝石 安山岩 | | 178 | 凹石 | 870-685 | 長 75 幅 74 厚 39 重 317 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 179 | 凹石 | 820-725 | 長 74 幅 66 厚 25 重 119 | 粗粒輝石 安山岩 | | 180 | 凹石 | 815-710 | 長 94 幅 73 厚 37 重 345 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 181 | 凹石 | 865-690 | 長 86 幅 64 厚 39 重 274 | 粗粒輝石 安山岩 | | 182 | 凹石 | 855-665 | 長 96 幅 84 厚 45 重 486 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 183 | 凹石 | 840-660 | 長 91 幅 79 厚 40 重 395 | 粗粒輝石 安山岩 | | 184 | 凹石 | 855-690 | 長 89 幅 69 厚 43 重 323 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 185 | 凹石 | 855-680 | 長 87 幅 70 厚 63 重 519 | 粗粒輝石 安山岩 | | 186 | 凹石 | 845-675 | 長 98 幅 77 厚 54 重 385 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 187 | 凹石 | 表土 | 長 119 幅 68 厚 30 重 344 | 粗粒輝石 安山岩 | | 188 | 凹石 | 870-685 | 長 140 幅 52 厚 53 重 602 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 189 | 凹・敲石 | 870-675 | 長 88 幅 80 厚 52 重 332 | 粗粒輝石 安山岩 | | 190 | 凹・敲石 | 845-660 | 長 118 幅 64 厚 46 重 387 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 191 | 凹・敲石 | 810-670 | 長 99 幅 75 厚 38 重 441 | 石英閃緑 岩 | | 192 | 石皿 多孔石 | 855-690 | 長 143 幅 117 厚 56 重 916 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 193 | 多孔石 | 820-695 | 長 168 幅 197 厚 112 重 4302 | 粗粒輝石 安山岩 | | 194 | 礫塊 | 835-680 | 長 99 幅 94 厚 22 重 107.8 | 結晶片岩 | |
| 195 | 礫塊 | 855-665 | 長 126 幅 80 厚 15 重 242.7 | 結晶片岩 | | 196 | 磨石? | 875-665 | 長 72 幅 27 厚 22 重 66 | ひん岩 | |
| 197 | 黄彫石器 | 860-695 | 長 38.4 幅 13.2 厚 6.2 重 2.2 | 赤碧玉 | | 198 | 耳飾 | 表土 | 長 43 幅 39 厚 8 重 13.2 | 滑石 | |

Ⅱ区遺構外 石器

| 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 | 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 |
|----|-----|---------|------------------------------|-------|-----|----|----|---------|------------------------------|------|------------|
| 1 | 尖頭器 | 820-625 | 長 37.6 幅 12.5 厚 5.5 重 2.7 | 黒色頁岩 | | 2 | 石鏃 | 830-630 | 長 10.6 幅 10.1 厚 1.8 重 0.2 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 3 | 石鏃 | 805-600 | 長 11.3 幅 10.7 厚 3.7 重 0.4 | 黒曜石 | 諏訪産 | 4 | 石鏃 | 835-630 | 長 12.7 幅 8.9 厚 2.1 重 0.3 | チャート | |
| 5 | 石鏃 | 860-625 | 長 10.7 幅 8.8 厚 1.6 重 0.8 | 黒曜石 | 諏訪産 | 6 | 石鏃 | 850-630 | 長 14.3 幅 12.4 厚 2.4 重 0.3 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 7 | 石鏃 | 795-610 | 長 14.4 幅 10.7 厚 2.8 重 0.3 | 黒曜石 | 諏訪産 | 8 | 石鏃 | 840-555 | 長 13.7 幅 13.0 厚 2.6 重 0.4 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 9 | 石鏃 | 855-600 | 長 15.1 幅 10.2 厚 2.9 重 0.4 | チャート | | 10 | 石鏃 | 835-630 | 長 16.1 幅 9.1 厚 2.4 重 0.3 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 11 | 石鏃 | 855-600 | 長 15.3 幅 15.6 厚 2.3 重 0.3 | 埴貫頁岩 | | 12 | 石鏃 | 810-600 | 長 17.1 幅 13.7 厚 2.8 重 0.5 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 13 | 石鏃 | 810-620 | 長 18.9 幅 14.1 厚 4.5 重 0.9 | チャート | | 14 | 石鏃 | 820-640 | 長 18.4 幅 10.5 厚 4.2 重 0.6 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 15 | 石鏃 | 805-615 | 長 18.1 幅 15.5 厚 6.7 重 1.7 | 黒曜石 | 諏訪産 | 16 | 石鏃 | 835-620 | 長 17.1 幅 12.5 厚 4.6 重 0.9 | チャート | |
| 17 | 石鏃 | 810-620 | 長 19.2 幅 14.0 厚 4.4 重 1.0 | チャート | | 18 | 石鏃 | 805-590 | 長 18.7 幅 10.2 厚 3.3 重 0.6 | チャート | |
| 19 | 石鏃 | 865-625 | 長 19.8 幅 13.9 厚 3.8 重 0.9 | チャート | | 20 | 石鏃 | 830-615 | 長 19.0 幅 16.7 厚 2.9 重 0.6 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 21 | 石鏃 | 830-620 | 長 19.4 幅 17.1 厚 3.3 重 0.7 | チャート | | 22 | 石鏃 | 845-655 | 長 20.8 幅 17.8 厚 4.4 重 1.1 | チャート | |
| 23 | 石鏃 | 825-615 | 長 18.2 幅 16.5 厚 3.8 重 0.8 | チャート | | 24 | 石鏃 | 840-570 | 長 20.3 幅 17.9 厚 2.9 重 0.5 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 25 | 石鏃 | 820-635 | 長 21.6 幅 14.2 厚 2.9 重 0.6 | チャート | | 26 | 石鏃 | 820-625 | 長 20.9 幅 10.6 厚 4.4 重 0.8 | チャート | |
| 27 | 石鏃 | 845-605 | 長 23.0 幅 13.2 厚 3.5 重 0.8 | チャート | | 28 | 石鏃 | 830-610 | 長 22.8 幅 16.6 厚 4.3 重 1.5 | チャート | |
| 29 | 石鏃 | 835-615 | 長 22.0 幅 18.6 厚 5.4 重 1.3 | ぎょくすい | | 30 | 石鏃 | 820-615 | 長 23.4 幅 16.8 厚 4.0 重 1.3 | チャート | |
| 31 | 石鏃 | 835-610 | 長 24.2 幅 15.2 厚 4.7 重 1.2 | チャート | | 32 | 石鏃 | 840-615 | 長 26.7 幅 13.6 厚 4.3 重 1.1 | チャート | |
| 33 | 石鏃 | 815-640 | 長 23.7 幅 12.1 厚 4.6 重 1.0 | チャート | | 34 | 石鏃 | 860-635 | 長 24.4 幅 21.1 厚 3.4 重 0.9 | チャート | |
| 35 | 石鏃 | 865-625 | 長 30.3 幅 19.0 厚 4.2 重 1.4 | チャート | | 36 | 石鏃 | 825-595 | 長 27.5 幅 16.5 厚 4.4 重 1.4 | チャート | |
| 37 | 石鏃 | 835-615 | 長 34.1 幅 19.5 厚 3.7 重 1.9 | チャート | | 38 | 石鏃 | 825-635 | 長 25.9 幅 24.1 厚 7.8 重 2.6 | 黒曜石 | 未製品 諏訪産 |

II 縄紋時代の調査

| Ⅱ区遺構外 石器 | | | | | | | | | | | |
|----------|--------|---------|--------------------------------|-------|-----|-----|--------|---------|--------------------------------|---------|-----|
| 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 | 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 |
| 39 | 石鏃 | 810-645 | 長 29.7 幅 18.9 厚 7.3 重 4.0 | チャート | 未製品 | 40 | 石鏃 | 835-615 | 長 29.6 幅 29.3 厚 9.9 重 7.8 | チャート | 未製品 |
| 41 | 石鏃 | 805-615 | 長 35.9 幅 29.5 厚 11.1 重 10.3 | 黒色頁岩 | 未製品 | 42 | 楔形石器 | 810-610 | 長 24.0 幅 15.8 厚 7.3 重 2.1 | 黒曜石 | |
| 43 | 楔形石器 | 825-625 | 長 19.2 幅 29.8 厚 10.5 重 4.9 | 黒曜石 | | 44 | 楔形石器 | 805-630 | 長 24.9 幅 28.8 厚 7.8 重 5.3 | チャート | |
| 45 | 楔形石器 | 825-635 | 長 33.5 幅 31.6 厚 14.6 重 17.2 | 黒色安山岩 | | 46 | 楔形石器 | 810-610 | 長 37.6 幅 17.6 厚 9.0 重 4.6 | 黒曜石 | |
| 47 | 両面調整石器 | 800-630 | 長 24.3 幅 20.9 厚 8.7 重 3.7 | 黒曜石 | | 48 | 両面調整石器 | 800-630 | 長 39.0 幅 30.8 厚 14.6 重 14.1 | 黒曜石 | |
| 49 | 両面調整石器 | 845-580 | 長 45.7 幅 34.8 厚 12.7 重 16.4 | 黒曜石 | | 50 | 石鏃 | 880-610 | 長 34.1 幅 11.6 厚 7.1 重 1.5 | 黒曜石 | |
| 51 | 石鏃 | 835-570 | 長 24.5 幅 10.2 厚 3.8 重 0.6 | 黒曜石 | | 52 | 石鏃 | 835-620 | 長 27.5 幅 9.6 厚 4.4 重 1.0 | 黒曜石 | |
| 53 | 石鏃 | 805-605 | 長 20.2 幅 13.1 厚 6.1 重 1.3 | 黒曜石 | | 54 | 石鏃 | 800-625 | 長 24.8 幅 2.4 厚 5.7 重 2.0 | 黒色安山岩 | |
| 55 | 石鏃 | 835-630 | 長 25.6 幅 10.7 厚 4.9 重 0.9 | 黒曜石 | | 56 | 石鏃 | 835-630 | 長 27.6 幅 11.1 厚 7.3 重 1.1 | 黒曜石 | |
| 57 | 石鏃 | 835-565 | 長 31.9 幅 20.2 厚 5.8 重 2.9 | 黒色安山岩 | | 58 | 石鏃 | 835-575 | 長 42.7 幅 28.5 厚 6.5 重 5.9 | 黒色頁岩 | |
| 59 | 石鏃 | 805-595 | 長 48.8 幅 21.0 厚 7.5 重 4.4 | 黒色頁岩 | | 60 | 石鏃 | 810-630 | 長 48.6 幅 20.7 厚 8.2 重 5.8 | チャート | |
| 61 | 石鏃 | 850-580 | 長 39.1 幅 20.7 厚 12.1 重 6.5 | 黒曜石 | | 62 | 石鏃 | 835-615 | 長 31.2 幅 41.2 厚 4.8 重 3.8 | 黒曜石 | |
| 63 | 石鏃 | 860-610 | 長 48.9 幅 85.9 厚 8.3 重 29.8 | 硬質泥岩 | | 64 | スクレイパー | 840-645 | 長 60 幅 83 厚 16 重 82.1 | 黒色頁岩 | |
| 65 | スクレイパー | 825-640 | 長 74 幅 80 厚 19 重133.4 | 黒色頁岩 | | 66 | スクレイパー | 835-580 | 長 80 幅 85 厚 20 重134.6 | 黒色頁岩 | |
| 67 | スクレイパー | 805-600 | 長 85 幅 95 厚 19 重127.8 | 黒色頁岩 | | 68 | スクレイパー | 830-590 | 長 27 幅 35 厚 10 重 6.7 | 黒色頁岩 | |
| 69 | スクレイパー | 810-605 | 長 33 幅 46 厚 10 重 15.0 | 黒色頁岩 | | 70 | スクレイパー | 840-600 | 長 21 幅 54 厚 11 重 22.6 | 黒色頁岩 | |
| 71 | スクレイパー | 850-630 | 長 53 幅 56 厚 10 重 27.9 | 黒色頁岩 | | 72 | スクレイパー | 820-640 | 長 30 幅 51 厚 15 重 14.6 | 珪質頁岩 | |
| 73 | スクレイパー | 845-580 | 長 40 幅 72 厚 10 重 23.1 | 黒色頁岩 | | 74 | スクレイパー | 855-600 | 長 62 幅 62 厚 12 重 56.1 | 黒色頁岩 | |
| 75 | スクレイパー | 850-575 | 長 58 幅 69 厚 12 重 47.6 | 黒色頁岩 | | 76 | スクレイパー | 810-625 | 長 50 幅 69 厚 14 重 52.9 | 黒色頁岩 | |
| 77 | スクレイパー | 810-635 | 長 52 幅 79 厚 9 重 32.5 | 黒色頁岩 | | 78 | スクレイパー | 800-615 | 長 61 幅 79 厚 11 重 47.6 | 黒色頁岩 | |
| 79 | スクレイパー | 845-625 | 長 56 幅 88 厚 16 重 74.1 | 変質玄武岩 | | 80 | スクレイパー | 800-600 | 長 51 幅 95 厚 26 重144.7 | 黒色頁岩 | |
| 81 | スクレイパー | 830-565 | 長 64 幅 89 厚 23 重152.3 | 黒色頁岩 | | 82 | スクレイパー | 825-600 | 長 66 幅 110 厚 24 重185.0 | 黒色頁岩 | |
| 83 | スクレイパー | 835-575 | 長 55 幅 83 厚 13 重 51.9 | 黒色頁岩 | | 84 | スクレイパー | 850-585 | 長 68 幅 61 厚 13 重 52.6 | 黒色頁岩 | |
| 85 | スクレイパー | 840-625 | 長 98 幅 62 厚 26 重213.9 | 黒色頁岩 | | 86 | スクレイパー | 835-630 | 長 97 幅 72 厚 29 重188.4 | 黒色頁岩 | |
| 87 | スクレイパー | 800-595 | 長 71 幅 51 厚 18 重 68.9 | 黒色頁岩 | | 88 | スクレイパー | 830-560 | 長 78 幅 49 厚 16 重 69.4 | 黒色頁岩 | |
| 89 | スクレイパー | 840-630 | 長 80 幅 44 厚 22 重 95.3 | 黒色頁岩 | | 90 | スクレイパー | 825-570 | 長 116 幅 53 厚 19 重 68.7 | 黒色頁岩 | |
| 91 | スクレイパー | 855-635 | 長 103 幅 50 厚 26 重124.8 | 黒色安山岩 | | 92 | スクレイパー | 850-635 | 長 85 幅 45 厚 7 重 25.1 | 黒色頁岩 | |
| 93 | スクレイパー | 845-575 | 長 107 幅 75 厚 14 重139.4 | 黒色頁岩 | | 94 | スクレイパー | 810-640 | 長 92 幅 67 厚 36 重222.5 | 黒色頁岩 | |
| 95 | スクレイパー | 860-625 | 長 47 幅 38 厚 19 重 27.1 | 黒色安山岩 | | 96 | スクレイパー | 810-625 | 長 55 幅 38 厚 11 重 21.3 | チャート | |
| 97 | スクレイパー | 800-625 | 長 60 幅 40 厚 7 重 16.3 | 黒色頁岩 | | 98 | スクレイパー | 855-610 | 長 72 幅 32 厚 10 重 22.9 | 黒色頁岩 | |
| 99 | スクレイパー | 840-630 | 長 68 幅 56 厚 12 重 57.6 | 黒色頁岩 | | 100 | スクレイパー | 830-595 | 長 55 幅 35 厚 9 重 15.9 | 黒色頁岩 | |
| 101 | 打製石斧 | 840-625 | 長 68 幅 37 厚 18 重 50.5 | 黒色頁岩 | | 102 | 打製石斧 | 835-580 | 長 68 幅 45 厚 17 重 55.8 | ホルンフェルス | |

Ⅱ区遺構外 石器

| 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 | 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 |
|-----|------|-------------|--------------------------------|-------------|-----|-----|------|-------------|---------------------------------|-------------|-----|
| 103 | 打製石斧 | 835-565 | 長 80 幅 53 厚 21 重117.1 | 灰色安山岩 | | 104 | 打製石斧 | 860-620 | 長 72 幅 50 厚 12 重 49.0 | 黒色頁岩 | |
| 105 | 打製石斧 | 815-600 | 長 71 幅 47 厚 14 重 49.4 | 黒色頁岩 | | 106 | 打製石斧 | 835-585 | 長 79 幅 53 厚 17 重 80.4 | 黒色頁岩 | |
| 107 | 打製石斧 | 860-630 | 長 81 幅 49 厚 26 重108.6 | 黒色頁岩 | | 108 | 打製石斧 | 840-570 | 長 84 幅 51 厚 19 重 96.3 | 黒色頁岩 | |
| 109 | 打製石斧 | 840-625 | 長 90 幅 49 厚 13 重 61.3 | 黒色頁岩 | | 110 | 打製石斧 | 845-570 | 長 80 幅 66.5 厚 15 重 65.5 | 黒色頁岩 | |
| 111 | 打製石斧 | 1号溝 (近世) | 長 88 幅 49 厚 20 重 95.6 | 黒色頁岩 | | 112 | 打製石斧 | 835-580 | 長 80 幅 52 厚 17 重 97.1 | 黒色頁岩 | |
| 113 | 打製石斧 | 845-580 | 長 92 幅 67 厚 26 重169.3 | 黒色頁岩 | | 114 | 打製石斧 | 810-635 | 長 105 幅 50 厚 14 重 90.3 | ホルン フェルス | |
| 115 | 打製石斧 | 835-630 | 長 106 幅 41 厚 17 重 85.1 | 黒色頁岩 | | 116 | 打製石斧 | 805-630 | 長 105 幅 52 厚 17 重109.0 | 黒色頁岩 | |
| 117 | 打製石斧 | 6号溝 | 長 109 幅 53 厚 18 重119.3 | ホルン フェルス | | 118 | 打製石斧 | 835-625 | 長 112 幅 49 厚 23 重134.8 | 黒色頁岩 | |
| 119 | 打製石斧 | 815-585 | 長 105 幅 58 厚 19 重133.2 | 粗粒輝石 安山岩 | | 120 | 打製石斧 | 830-630 | 長 105 幅 52 厚 21 重109.8 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 121 | 打製石斧 | 855-625 | 長 97 幅 55 厚 19 重108.5 | 黒色頁岩 | | 122 | 打製石斧 | 6号溝 (近世) | 長 119 幅 40 厚 18 重106.3 | 黒色頁岩 | |
| 123 | 打製石斧 | 840-645 | 長 120 幅 55 厚 15 重 97.7 | 黒色頁岩 | | 124 | 打製石斧 | 815-575 | 長 120 幅 63 厚 17 重134.3 | 黒色頁岩 | |
| 125 | 打製石斧 | 850-605 | 長 104 幅 46 厚 17 重 95.6 | 黒色頁岩 | | 126 | 打製石斧 | 840-595 | 長 95 幅 65 厚 16 重 94.2 | 変質玄武 岩 | |
| 127 | 打製石斧 | 850-580 | 長 81 幅 48 厚 10 重 53.8 | 黒色片岩 | | 128 | 打製石斧 | 840-580 | 長 85 幅 54 厚 14 重 92.2 | 黒色片岩 | |
| 129 | 打製石斧 | 790-610 | 長 165 幅 53 厚 14 重171.3 | 緑色片岩 | | 130 | 打製石斧 | 845-560 | 長 44 幅 46 厚 10 重 31.9 | 緑色片岩 | |
| 131 | 磨製石斧 | 6号溝 (近世) | 長 42 幅 33 厚 19 重 34.4 | 変質蛇紋 岩 | | 132 | 石核 | 850-620 | 長 39.0 幅 44.8 厚 38.8 重 75.2 | 黒色安山 岩 | |
| 133 | 石核 | 815-615 | 長 17.6 幅 29.8 厚 13.4 重 7.8 | 黒曜石 | 諏訪産 | 134 | 石核 | 810-635 | 長 16.8 幅 31.9 厚 11.8 重 4.9 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 135 | 石核 | 805-595 | 長 24.7 幅 32.4 厚 14.5 重 7.8 | 黒曜石 | 諏訪産 | 136 | 石核 | 825-610 | 長 30.8 幅 16.1 厚 13.2 重 4.0 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 137 | 石核 | 830-610 | 長 44.1 幅 24.0 厚 14.1 重 12.8 | チャート | | 138 | 石核 | 800-625 | 長 38.4 幅 14.7 厚 13.5 重 9.2 | チャート | |
| 139 | 石核 | 805-595 | 長 74.1 幅 78.6 厚 35.6 重236.9 | 粗粒輝石 安山岩 | | 140 | 石核 | 805-600 | 長 66.0 幅 64.7 厚 42.9 重234.3 | 黒色安山 岩 | |
| 141 | 石核 | 830-635 | 長 59.7 幅 65.4 厚 34.3 重150.5 | 黒色安山 岩 | | 142 | 石核 | 820-620 | 長 65.7 幅 73.7 厚 42.5 重168.8 | 黒色頁岩 | |
| 143 | 石核 | 820-590 | 長 45.0 幅 36.0 厚 22.8 重 37.0 | チャート | | 144 | 石核 | 860-605 | 長 71.0 幅109.0 厚 65.2 重603.2 | 黒色安山 岩 | |
| 145 | 石核 | 845-640 | 長 81.1 幅103.8 厚 55.3 重523.5 | 黒色頁岩 | | 146 | 石核 | 850-535 | 長122.6 幅113.6 厚 62.3 重1017.3 | 黒色安山 岩 | |
| 147 | 原石 | 835-620 | 長 26 幅 12 厚 8 重 2.7 | 黒曜石 | 諏訪産 | 148 | 原石 | 805-615 | 長 25 幅 16 厚 12 重 3.3 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 149 | 原石 | 820-620 | 長 20 幅 12 厚 8 重 1.5 | 黒曜石 | 諏訪産 | 150 | 原石 | 845-615 | 長 19 幅 11 厚 10 重 1.7 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 151 | 原石 | 810-620 | 長 54 幅 29 厚 24 重 21.9 | 黒曜石 | 諏訪産 | 152 | 原石 | 820-625 | 長 36 幅 13 厚 6 重 2.8 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 153 | 原石 | 810-610 | 長 73 幅 60 厚 45 重278.8 | チャート | | 154 | 砥石 | 820-605 | 長 38 幅 50 厚 15 重 35 | 牛伏砂岩 | |
| 155 | 砥石 | 840-570 | 長 61 幅 64 厚 17 重 50 | 牛伏砂岩 | | 156 | 砥石 | 825-615 | 長 74 幅 46 厚 15 重 60 | 牛伏砂岩 | |
| 157 | 砥石 | 820-600 | 長 60 幅 70 厚 21 重 83 | 牛伏砂岩 | | 158 | 砥石 | 865-620 | 長 78 幅 76 厚 14 重 75 | 牛伏砂岩 | |
| 159 | 砥石 | 810-585 | 長 100 幅 66 厚 15 重 105 | 牛伏砂岩 | | 160 | 砥石 | 800-605 | 長 80 幅 79 厚 19 重 109 | 砂岩 | |
| 161 | 砥石 | 黄土 | 長 88 幅 66 厚 18 重 113 | 砂岩 | | 162 | 砥石 | 850-595 | 長 62 幅 26 厚 20 重 42 | 溶結凝灰 岩 | |
| 163 | 砥石 | 840-605 | 長 49 幅 22 厚 16 重 23 | 砂質頁岩 | | 164 | 砥石 | 845-605 | 長 107 幅 59 厚 55 重 450 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 165 | 砥石 | 840-620 | 長 172 幅 50 厚 40 重 460 | 変質安山 岩 | | 166 | 磨石 | 1号溝 (近世) | 長 56 幅 47 厚 31 重 117 | 粗粒輝石 安山岩 | |

II 縄紋時代の調査

Ⅱ区遺構外 石器

| 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 | 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 |
|-----|-----------|-------------|----------------------------|-------------|----|-----|-----------|-------------|----------------------------|-------------|----|
| 167 | 磨石 | 850-625 | 長 53 幅 51 厚 36 重 135 | 粗粒輝石 安山岩 | | 168 | 磨石 | 805-605 | 長 58 幅 44 厚 32 重 116 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 169 | 磨石 | 860-630 | 長 87 幅 75 厚 33 重 281 | 粗粒輝石 安山岩 | | 170 | 磨石 | 845-570 | 長 143 幅 63 厚 41 重 582 | ひん岩 | |
| 171 | 磨・敲石 | 865-645 | 長 86 幅 74 厚 53 重 498 | 粗粒輝石 安山岩 | | 172 | 磨・敲石 | 850-625 | 長 64 幅 57 厚 45 重 232 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 173 | 磨・敲石 | 830-630 | 長 105 幅 69 厚 50 重 424 | 粗粒輝石 安山岩 | | 174 | 磨・敲石 | 805-595 | 長 93 幅 77 厚 54 重 553 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 175 | 磨・敲石 | 845-610 | 長 61 幅 59 厚 48 重 233 | 粗粒輝石 安山岩 | | 176 | 磨・敲石 | 840-635 | 長 80 幅 77 厚 50 重 446 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 177 | 磨・敲石 | 790-610 | 長 61 幅 52 厚 39 重 165 | 粗粒輝石 安山岩 | | 178 | 磨・敲石 | 表土 | 長 111 幅 99 厚 76 重 1300 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 179 | 磨・凹 敲石 | 825-580 | 長 93 幅 72 厚 48 重 451 | 粗粒輝石 安山岩 | | 180 | 磨・凹 敲石 | 825-580 | 長 112 幅 84 厚 52 重 652 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 181 | 磨・凹 敲石 | 表土 | 長 103 幅 82 厚 48 重 523 | 粗粒輝石 安山岩 | | 182 | 磨・凹 敲石 | 845-625 | 長 102 幅 80 厚 54 重 454 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 183 | 磨・凹 敲石 | 795-615 | 長 154 幅 58 厚 48 重 745 | 粗粒輝石 安山岩 | | 184 | 凹石 | 835-630 | 長 72 幅 61 厚 34 重 180 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 185 | 凹石 | 840-585 | 長 83 幅 59 厚 44 重 276 | 粗粒輝石 安山岩 | | 186 | 凹石 | 810-595 | 長 84 幅 69 厚 37 重 268 | 角閃石 安山岩 | |
| 187 | 凹石 | 860-630 | 長 81 幅 72 厚 43 重 339 | 粗粒輝石 安山岩 | | 188 | 凹石 | 810-590 | 長 82 幅 76 厚 52 重 366 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 189 | 凹石 | 845-625 | 長 103 幅 73 厚 39 重 417 | 粗粒輝石 安山岩 | | 190 | 凹石 | 820-640 | 長 100 幅 72 厚 35 重 345 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 191 | 凹石 | 815-625 | 長 101 幅 67 厚 40 重 259 | 粗粒輝石 安山岩 | | 192 | 凹石 | 845-620 | 長 112 幅 87 厚 52 重 660 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 193 | 凹石 | 820-625 | 長 82 幅 66 厚 43 重 283 | 粗粒輝石 安山岩 | | 194 | 凹石 | 850-580 | 長 96 幅 69 厚 53 重 363 | 粗粒輝石 安山岩 | 被熱 |
| 195 | 凹石 | 845-610 | 長 132 幅 110 厚 77 重 1410 | 粗粒輝石 安山岩 | | 196 | 凹石 | 810-605 | 長 113 幅 107 厚 81 重 1158 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 197 | 凹・敲石 | 840-640 | 長 121 幅 55 厚 35 重 347 | 溶結凝灰 岩 | | 198 | 凹・敲石 | 835-605 | 長 102 幅 71 厚 49 重 463 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 199 | 凹・敲石 | 845-625 | 長 107 幅 76 厚 43 重 435 | 粗粒輝石 安山岩 | | 200 | 凹・敲石 | 825-630 | 長 80 幅 76 厚 43 重 361 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 201 | 凹・敲石 | 855-625 | 長 92 幅 71 厚 51 重 493 | 粗粒輝石 安山岩 | | 202 | 凹・敲石 | 840-625 | 長 109 幅 90 厚 55 重 615 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 203 | 凹・敲石 | 6号溝 (近世) | 長 91 幅 72 厚 48 重 491 | 粗粒輝石 安山岩 | | 204 | 凹・敲石 | 6号溝 (近世) | 長 127 幅 77 厚 44 重 600 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 205 | 凹・敲石 | 840-600 | 長 130 幅 105 厚 86 重 1397 | 粗粒輝石 安山岩 | | 206 | 凹・敲石 | 表土 | 長 111 幅 90 厚 61 重 634 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 207 | 石皿 多孔石 | 845-575 | 長 135 幅 106 厚 80 重 1037 | 粗粒輝石 安山岩 | | 208 | 石皿 多孔石 | 795-610 | 長 121 幅 139 厚 71 重 719 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 209 | 石皿 | 840-570 | 長 256 幅 91 厚 95 重 2857 | 粗粒輝石 安山岩 | | 210 | 白石 | 850-580 | 長 173 幅 93 厚 60 重 1276 | 溶結凝灰 岩 | |
| 211 | 白石 | 830-645 | 長 160 幅 106 厚 58 重 1075 | 粗粒輝石 安山岩 | | 212 | 白石 | 845-615 | 長 140 幅 128 厚 81 重 1590 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 213 | 白石 | 835-605 | 長 164 幅 138 厚 54 重 1561 | 溶結凝灰 岩 | | 214 | 多孔石 | 805-600 | 長 149 幅 128 厚 95 重 2225 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 215 | 多孔石 | 840-630 | 長 176 幅 144 厚 70 重 2090 | 粗粒輝石 安山岩 | | 216 | 多孔石 | 800-600 | 長 156 幅 124 厚 79 重 1820 | 角閃石 安山岩 | |
| 217 | 多孔石 | 805-595 | 長 153 幅 96 厚 75 重 1160 | 粗粒輝石 安山岩 | | 218 | 礫塊 | 835-680 | 長 69 幅 15 厚 11 重 18.4 | 結晶片岩 | |
| 219 | 礫塊 | 1号溝 (近世) | 長 75 幅 69 厚 21 重 156.6 | 結晶片岩 | | 220 | 礫塊 | 820-580 | 長 96 幅 35 厚 14 重 71.0 | 結晶片岩 | |
| 221 | 礫塊 | 810-610 | 長 208 幅 98 厚 26 重 667.2 | 結晶片岩 | | 222 | 礫塊 | 825-620 | 長 127 幅 52 厚 12 重 113.8 | 結晶片岩 | |
| 223 | 垂鈎 | 855-585 | 長 16 幅 13 厚 5 重 2.0 | 滑石 | | 224 | 垂鈎 | 840-600 | 長 55 幅 49 厚 12 重 24.5 | 牛伏砂岩 | |

Ⅲ区遺構外 石器

| 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 | 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 |
|----|----|---------|------------------------------|------|----|----|----|---------|------------------------------|------|-----|
| 1 | 石鏃 | 785-490 | 長 16.0 幅 12.8 厚 3.4 重 0.7 | チャート | | 2 | 石鏃 | 790-515 | 長 17.0 幅 13.1 厚 3.8 重 0.5 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 3 | 石鏃 | 785-535 | 長 19.0 幅 13.3 厚 2.8 重 0.6 | チャート | | 4 | 石鏃 | 815-500 | 長 19.4 幅 14.3 厚 3.1 重 0.6 | チャート | |

IV区遺構外 石器

| 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 | 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 |
|----|------------|---------|--------------------------------|-------------|-----|----|------------|---------|-------------------------------|-------------|------------|
| 5 | 石鏃 | 810-490 | 長 19.0 幅 14.5 厚 3.0 重 0.5 | チャート | | 6 | 石鏃 | 表土 | 長 17.9 幅 15.3 厚 3.7 重 0.7 | チャート | |
| 7 | 石鏃 | 800-500 | 長 21.4 幅 16.7 厚 3.5 重 0.7 | チャート | | 8 | 石鏃 | 820-490 | 長 23.0 幅 13.9 厚 3.0 重 0.6 | チャート | |
| 9 | 石鏃 | 765-555 | 長 20.7 幅 14.7 厚 3.0 重 0.7 | チャート | | 10 | 石鏃 | 820-490 | 長 22.8 幅 15.6 厚 3.7 重 0.8 | 黒色頁岩 | |
| 11 | 石鏃 | 810-500 | 長 13.9 幅 16.7 厚 3.2 重 0.5 | 黒曜石 | 諏訪産 | 12 | 石鏃 | 805-490 | 長 24.9 幅 14.3 厚 3.7 重 0.8 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 13 | 石鏃 | 815-500 | 長 27.9 幅 19.5 厚 4.2 重 1.8 | チャート | | 14 | 石鏃 | 805-480 | 長 30.1 幅 16.5 厚 3.4 重 1.5 | チャート | |
| 15 | 石鏃 | 785-455 | 長 31.3 幅 17.5 厚 3.9 重 1.4 | チャート | | 16 | 石鏃 | 815-490 | 長 22.0 幅 19.6 厚 4.1 重 1.6 | 黒色頁岩 | 未製品 |
| 17 | 石鏃 | 表土 | 長 18.1 幅 14.4 厚 6.5 重 1.4 | チャート | 未製品 | 18 | 石鏃 | 800-520 | 長 19.6 幅 13.5 厚 5.3 重 1.0 | 黒曜石 | 未製品 諏訪産 |
| 19 | 石鏃 | 795-505 | 長 21.5 幅 18.4 厚 3.3 重 1.0 | 黒色頁岩 | 未製品 | 20 | 楔形石器 | 805-510 | 長 21.2 幅 20.6 厚 8.9 重 2.8 | 黒曜石 | |
| 21 | 楔形石器 | 795-535 | 長 16.3 幅 21.9 厚 11.1 重 3.4 | 黒曜石 | | 22 | 楔形石器 | 775-480 | 長 25.2 幅 37.2 厚 9.4 重 8.3 | チャート | |
| 23 | 楔形石器 | 815-490 | 長 34.0 幅 28.5 厚 11.3 重 12.8 | チャート | | 24 | 石鏃 | 790-545 | 長 39.0 幅 12.5 厚 10.9 重 4.7 | 黒色安山 岩 | |
| 25 | 石鏃 | 775-520 | 長 44.2 幅 25.5 厚 9.4 重 8.5 | チャート | | 26 | 石鏃 | 825-505 | 長 23.0 幅 15.4 厚 4.1 重 1.1 | 黒色頁岩 | |
| 27 | 石鏃 | 805-500 | 長 26.5 幅 17.2 厚 7.2 重 3.4 | チャート | | 28 | 石鏃 | 795-495 | 長 19.7 幅 29.2 厚 5.0 重 1.7 | チャート | |
| 29 | 石鏃 | 810-495 | 長 32.3 幅 33.7 厚 7.9 重 5.6 | チャート | | 30 | 礫器 | 765-485 | 長 95 幅 88 厚 34 重 343 | 変質安山 岩 | |
| 31 | スクレイ パー | 765-525 | 長 49 幅 67 厚 12 重 30.6 | 黒色頁岩 | | 32 | スクレイ パー | 795-520 | 長 68 幅 56 厚 15 重 63.9 | 黒色頁岩 | |
| 33 | スクレイ パー | 765-540 | 長 62 幅 71 厚 12 重 54.2 | 黒色頁岩 | | 34 | スクレイ パー | 815-485 | 長 53 幅 83 厚 12 重 39.2 | 変質安山 岩 | |
| 35 | スクレイ パー | 805-500 | 長 51 幅 84 厚 12 重 56.3 | 黒色頁岩 | | 36 | スクレイ パー | 表土 | 長 93 幅 54 厚 20 重 113.7 | 黒色頁岩 | |
| 37 | スクレイ パー | 790-495 | 長 49 幅 87 厚 19 重 69.4 | 黒色頁岩 | | 38 | スクレイ パー | 790-500 | 長 102 幅 56 厚 19 重 118.9 | 黒色頁岩 | |
| 39 | スクレイ パー | 795-500 | 長 82 幅 81 厚 20 重 161.1 | ホルン フェルス | | 40 | スクレイ パー | 775-495 | 長 68 幅 32 厚 12 重 29.9 | 黒色頁岩 | |
| 41 | スクレイ パー | 800-485 | 長 71 幅 42 厚 6 重 17.2 | 黒色頁岩 | | 42 | スクレイ パー | 815-480 | 長 75 幅 48 厚 12 重 40.1 | 黒色頁岩 | |
| 43 | スクレイ パー | 805-505 | 長 76 幅 39 厚 7 重 24.9 | 珪質粘板 岩 | | 44 | スクレイ パー | 810-480 | 長 83 幅 51 厚 22 重 97.6 | 黒色安山 岩 | |
| 45 | スクレイ パー | 795-510 | 長 70 幅 63 厚 12 重 56.2 | 黒色頁岩 | | 46 | スクレイ パー | 810-495 | 長 113 幅 74 厚 49 重 306.2 | 黒色安山 岩 | |
| 47 | スクレイ パー | 825-485 | 長 82 幅 66 厚 20 重 139.8 | 黒色頁岩 | | 48 | 打製石斧 | 795-500 | 長 70 幅 30 厚 9 重 25.3 | 黒色頁岩 | |
| 49 | 打製石斧 | 770-490 | 長 92 幅 42 厚 16 重 67.4 | 黒色頁岩 | | 50 | 打製石斧 | 820-485 | 長 111 幅 44 厚 12 重 57.4 | ホルン フェルス | |
| 51 | 打製石斧 | 805-515 | 長 164 幅 47 厚 24 重 217.6 | 緑色片岩 | | 52 | 打製石斧 | 805-500 | 長 93 幅 46 厚 16 重 85.9 | 黒色頁岩 | |
| 53 | 打製石斧 | 760-545 | 長 101 幅 47 厚 15 重 89.7 | 黒色安山 岩 | | 54 | 打製石斧 | 795-495 | 長 59 幅 38 厚 14 重 26.7 | 黒色頁岩 | |
| 55 | 打製石斧 | 830-485 | 長 61 幅 39 厚 26 重 59.7 | 黒色頁岩 | | 56 | 打製石斧 | 表土 | 長 62 幅 53 厚 20 重 67.7 | 黒色頁岩 | |
| 57 | 打製石斧 | 表土 | 長 87 幅 46 厚 15 重 56.8 | 黒色頁岩 | | 58 | 打製石斧 | 795-500 | 長 90 幅 41 厚 12 重 45.6 | 黒色頁岩 | |
| 59 | 打製石斧 | 780-470 | 長 99 幅 67 厚 25 重 153.6 | ホルン フェルス | | 60 | 打製石斧 | 表土 | 長 99 幅 48 厚 7 重 62.8 | ホルン フェルス | |
| 61 | 打製石斧 | 790-495 | 長 106 幅 53 厚 18 重 93.2 | 黒色安山 岩 | | 62 | 打製石斧 | 805-505 | 長 106 幅 40 厚 16 重 88.8 | 黒色頁岩 | |
| 63 | 打製石斧 | 785-490 | 長 110 幅 69 厚 23 重 207.8 | 黒色頁岩 | | 64 | 打製石斧 | 表土 | 長 108 幅 46 厚 17 重 77.8 | 黒色頁岩 | |
| 65 | 打製石斧 | 表土 | 長 126 幅 46 厚 16 重 109.1 | ホルン フェルス | | 66 | 打製石斧 | 770-495 | 長 174 幅 82 厚 50 重 629.8 | 黒色頁岩 | |
| 67 | 打製石斧 | 815-490 | 長 151 幅 63 厚 26 重 252.2 | 黒色頁岩 | | 68 | 打製石斧 | 785-485 | 長 67 幅 62 厚 12 重 65.0 | 細粒輝石 安山岩 | |

II 縄紋時代の調査

IV区遺構外 石器

| 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 | 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 |
|-----|-----------|--------------|--------------------------------|-------------|-----|-----|-----------|---------------|--------------------------------|-------------|-----|
| 69 | 打製石斧 | 805-505 | 長 100 幅 75 厚 24 重146.4 | 黒色頁岩 | | 70 | 打製石斧 | 815-510 | 長 107 幅 58 厚 18 重129.6 | ホルン フェルス | |
| 71 | 打製石斧 | 790-495 | 長 91 幅 64 厚 11 重 66.8 | 黒色頁岩 | | 72 | 打製石斧 | 790-500 | 長 121 幅 72 厚 26 重230.1 | 埴貫頁岩 | |
| 73 | 打製石斧 | 19号溝 (近世) | 長 110 幅 75 厚 19 重119.9 | 黒色頁岩 | | 74 | 磨製石斧 | 表土 | 長 89 幅 64 厚 27 重272.0 | 変は入れ い岩 | |
| 75 | 磨製石斧 | 770-480 | 長 54 幅 49 厚 23 重 96.3 | 黒色頁岩 | | 76 | 石核 | 785-490 | 長 18.3 幅 21.9 厚 10.4 重 3.4 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 77 | 石核 | 805-500 | 長 40.7 幅 17.4 厚 11.8 重 10.2 | 黒曜石 | 諏訪産 | 78 | 石核 | 800-515 | 長 58.9 幅 38.6 厚 27.4 重 63.5 | 黒色安山 岩 | |
| 79 | 石核 | 790-535 | 長 23.4 幅 29.5 厚 12.6 重 7.3 | 黒曜石 | 諏訪産 | 80 | 石核 | 810-505 | 長 48.8 幅 69.9 厚 42.5 重182.1 | 黒色安山 岩 | |
| 81 | 石核 | 800-520 | 長104.8 幅 60.4 厚 41.5 重270.8 | 黒色頁岩 | | 82 | 石核 | 815-495 | 長111.1 幅 56.0 厚 26.1 重140.4 | 黒色頁岩 | |
| 83 | 石核 | 785-475 | 長109.1 幅120.6 厚 44.3 重544.5 | ホルン フェルス | | 84 | 原石 | 805-500 | 長 19 幅 15 厚 10 重 1.5 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 85 | 原石 | 810-485 | 長 23 幅 17 厚 15 重 6.3 | 黒曜石 | 諏訪産 | 86 | 原石 | 820-485 | 長 22 幅 20 厚 11 重 3.6 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 87 | 原石 | 815-490 | 長 27 幅 21 厚 10 重 4.2 | 黒曜石 | 諏訪産 | 88 | 原石 | 805-500 | 長 40 幅 49 厚 22 重 42.6 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 89 | 原石 | 805-500 | 長 26 幅 21 厚 15 重 4.6 | 黒曜石 | 諏訪産 | 90 | 原石 | 790-500 | 長 33 幅 18 厚 12 重 4.1 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 91 | 原石 | 805-500 | 長 50 幅 46 厚 14 重 21 | 黒曜石 | 諏訪産 | 92 | 原石 | 805-500 | 長 61 幅 32 厚 19 重 35.9 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 93 | 原石 | 780-510 | 長 36 幅 19 厚 19 重 6.8 | 黒曜石 | 諏訪産 | 94 | 原石 | 825-495 | 長 39 幅 21 厚 13 重 10.8 | 黒曜石 | 諏訪産 |
| 95 | 砥石 | 810-500 | 長 87 幅 54 厚 14 重 84 | 牛伏砂岩 | | 96 | 砥石 | 805-495 | 長 62 幅 53 厚 14 重 40 | 牛伏砂岩 | |
| 97 | 砥石 | 805-490 | 長 46 幅 45 厚 12 重 24 | 牛伏砂岩 | | 98 | 砥石 | 815-495 | 長 91 幅 31 厚 31 重 145 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 99 | 砥石 | 表土 | 長 114 幅 58 厚 21 重 196 | 緑色片岩 | | 100 | 砥石 | 810-480 | 長 122 幅 61 厚 45 重 515 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 101 | 砥石 | 805-495 | 長 75 幅 64 厚 46 重 304 | 粗粒輝石 安山岩 | | 102 | 磨石 | 800-515 | 長 83 幅 82 厚 49 重 477 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 103 | 磨石 | 790-495 | 長 120 幅 107 厚 51 重 888 | 粗粒輝石 安山岩 | | 104 | 磨石 | 795-500 | 長 41 幅 39 厚 36 重 80 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 105 | 磨・砥石 | 800-540 | 長 57 幅 46 厚 31 重 92 | 粗粒輝石 安山岩 | | 106 | 磨・砥石 | 790-500 | 長 103 幅 87 厚 62 重 705 | 滑結凝灰 岩 | |
| 107 | 磨・砥石 | 800-450 | 長 81 幅 68 厚 23 重 146 | 粗粒輝石 安山岩 | | 108 | 磨・凹石 | 表土 | 長 112 幅 78 厚 46 重 587 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 109 | 磨・凹 砥石 | 805-500 | 長 98 幅 90 厚 59 重 741 | かこう岩 | | 110 | 磨・凹 砥石 | 785-485 | 長 82 幅 64 厚 47 重 323 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 111 | 磨・凹 砥石 | 795-490 | 長 86 幅 74 厚 52 重 437 | 粗粒輝石 安山岩 | | 112 | 凹・砥石 | 17号土坑 (近世) | 長 82 幅 79 厚 50 重 362 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 113 | 凹石 | 795-505 | 長 70 幅 54 厚 42 重 198 | 粗粒輝石 安山岩 | | 114 | 凹石 | 815-480 | 長 136 幅 85 厚 38 重 538 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 115 | 凹石 | 805-505 | 長 90 幅 57 厚 36 重 230 | 粗粒輝石 安山岩 | | 116 | 凹石 | 815-480 | 長 109 幅 92 厚 48 重 583 | 粗粒輝石 安山岩 | 被熱 |
| 117 | 凹・砥石 | 815-485 | 長 105 幅 97 厚 39 重 492 | 粗粒輝石 安山岩 | | 118 | 凹・砥石 | 790-500 | 長 98 幅 89 厚 31 重 341 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 119 | 凹・砥石 | 780-510 | 長 102 幅 66 厚 31 重 290 | 粗粒輝石 安山岩 | | 120 | 石皿 | 96号土坑 (近世) | 長 161 幅 112 厚 82 重 1750 | 牛伏砂岩 | |
| 121 | 礫塊 | 820-480 | 長 59 幅 32 厚 11 重 28.3 | 結晶片岩 | | 122 | 礫塊 | 800-485 | 長 69 幅 54 厚 16 重 94.2 | 結晶片岩 | |
| 123 | 礫塊 | 820-480 | 長 79 幅 47 厚 18 重 88.8 | 結晶片岩 | | 124 | 礫塊 | 800-455 | 長 79 幅 41 厚 13 重 55.8 | 結晶片岩 | |
| 125 | 耳飾 | 795-530 | 長 26 幅 16 厚 8 重 3.9 | 滑石 | | | | | | | |

M区遺構外 石器

| 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 | 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 |
|----|--------|---------|--------------------------------|-------------|-----|----|--------|---------|-------------------------------|-------------|-----|
| 1 | 石鏃 | 880-670 | 長 16.3 幅 12.2 厚 2.8 重 0.5 | チャート | | 2 | 石鏃 | 880-670 | 長 24.3 幅 19.2 厚 4.9 重 1.3 | 黒色安山岩 | |
| 3 | 石鏃 | 880-665 | 長 30.1 幅 24.2 厚 9.1 重 5.6 | チャート | 未製品 | 4 | 楔形石器 | 880-665 | 長 27.6 幅 29.2 厚 9.8 重 11.3 | 赤帯玉 | |
| 5 | スクレイパー | 890-665 | 長 60 幅 84 厚 18 重 92.4 | 黒色頁岩 | | 6 | スクレイパー | 890-665 | 長 32 幅 47 厚 9 重 15.2 | 黒色安山岩 | |
| 7 | スクレイパー | 900-665 | 長 39 幅 72 厚 17 重 45.6 | 黒色頁岩 | | 8 | 礫器 | 885-665 | 長 140 幅 105 厚 42 重22.5 | 黒色頁岩 | |
| 9 | スタンプ | 885-670 | 長 93.4 幅 57.8 厚 48.3 重263.1 | 黒色頁岩 | | 10 | 打製石斧 | 880-660 | 長 100 幅 50 厚 15 重 69.6 | 黒色頁岩 | |
| 11 | 石核 | 885-665 | 長 21.9 幅 22.4 厚 10.3 重 2.9 | 黒曜石 | | 12 | 原石 | 880-670 | 長 43 幅 28 厚 22 重 27.6 | 黒曜石 | 和田産 |
| 13 | 磨石 | 880-665 | 長 109 幅 84 厚 50 重 692 | 粗粒輝石 安山岩 | | 14 | 磨石 | 895-665 | 長 62 幅 54 厚 30 重 146 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 15 | 磨・敲石 | 880-665 | 長 109 幅 84 厚 60 重 790 | 粗粒輝石 安山岩 | | 16 | 磨・敲石 | 880-665 | 長 138 幅 92 厚 63 重 1348 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 17 | 凹石 | 885-665 | 長 61 幅 54 厚 40 重 129 | 粗粒輝石 安山岩 | | 18 | 凹石 | 890-670 | 長 90 幅 71 厚 41 重 216 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 19 | 多孔石 | 880-665 | 長 138 幅 93 厚 58 重 956 | 粗粒輝石 安山岩 | | | | | | | |

I区遺構外 石器

| 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 | 番号 | 器種 | 出土位置 | 法量(mm, g) | 石材 | 備考 |
|----|-----------|-------|--------------------------------|-------------|-----|----|-----------|-------|--------------------------------|-------------|-----|
| 1 | 石鏃 | F A F | 長 27.8 幅 21.0 厚 6.7 重 3.2 | ぎょくずい | 未製品 | 2 | 石鏃 | F A F | 長 29.1 幅 23.9 厚 6.4 重 3.8 | チャート | 未製品 |
| 3 | 石鏃 | F A F | 長 31.8 幅 22.1 厚 7.1 重 2.6 | 黒色安山岩 | | 4 | スクレイパー | F A F | 長 46 幅 53 厚 50 重 20.4 | 黒色頁岩 | |
| 5 | スクレイパー | F A F | 長 66 幅 47 厚 9 重 27.3 | 黒色頁岩 | | 6 | スタンプ | F A F | 長 98.6 幅 60.7 厚 47.8 重282.6 | 黒色頁岩 | |
| 7 | スタンプ | F A F | 長 85.3 幅 52.3 厚 31.4 重224.1 | 粗粒輝石 安山岩 | | 8 | スタンプ | F A F | 長121.0 幅 79.5 厚 40.0 重431.7 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 9 | 打製石斧 | 表土 | 長 95 幅 51 厚 18 重104.1 | 粗粒輝石 安山岩 | | 10 | 打製石斧 | F A F | 長 91 幅 48 厚 21 重109.4 | 黒色頁岩 | |
| 11 | 打製石斧 | F A F | 長 102 幅 53 厚 20 重120.1 | ホルン フェルス | | 12 | 打製石斧 | F A F | 長 104 幅 50 厚 16 重 83.1 | 黒色頁岩 | |
| 13 | 打製石斧 | F A F | 長 93 幅 51 厚 12 重 71.7 | 粗粒輝石 安山岩 | | 14 | 打製石斧 | F A F | 長 96 幅 54 厚 15 重 67.8 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 15 | 打製石斧 | F A F | 長 144 幅 49 厚 23 重161.8 | 黒色頁岩 | | 16 | 打製石斧 | F A F | 長 142 幅 68 厚 25 重253.4 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 17 | 打製石斧 | 表土 | 長 112 幅 78 厚 22 重214.1 | 珪質頁岩 | | 18 | 打製石斧 | F A F | 長 123 幅 67 厚 33 重272.7 | 変質安山岩 | |
| 19 | 磨・敲石 | 表土 | 長 111 幅 54 厚 43 重 387 | 粗粒輝石 安山岩 | | 20 | 台石 | F A F | 長 134 幅 124 厚 34 重 614 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 21 | 台石 | F A F | 長 267 幅 129 厚 67 重 2900 | 砂岩 | | 22 | 石皿 多孔石 | F A F | 長 151 幅 190 厚 40 重 1434 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 23 | 石皿 多孔石 | F A F | 長 173 幅 183 厚 98 重 4178 | 粗粒輝石 安山岩 | | 24 | 石皿 多孔石 | F A F | 長 139 幅 200 厚 77 重 2235 | 粗粒輝石 安山岩 | |
| 25 | 多孔石 | 表土 | 長 242 幅 142 厚 51 重 1214 | 粗粒輝石 安山岩 | | 26 | 石棒? | F A F | 長 136 幅 28 厚 22 重134.2 | 緑色片岩 | |